NEC

PC98-NX

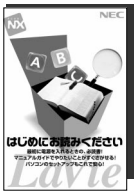
LaVie

もっと知りたいパソコン

オプション周辺機器の取り付けに挑戦！
機能や設定など、もっと知りたいあなたに！
パソコン各部の名前や仕様一覧も収録！

マニュアルを活用しよう

このパソコンには次のマニュアルや練習ソフトが用意されています。
『はじめにお読みください』でセットアップを終了したら、目的に応じて次のマニュアルや練習ソフトを活用してください。



『はじめにお読みください』

パソコンを使っていろいろなことをはじめたい！

『使っておぼえるパソコンの基本』
- インターネットやメールをする
- 文字の入力のしかた
- Windowsの基本操作
- BIGLOBEに入会する

このパソコンの機能をもっと使いこなしたい！

『もっと知りたいパソコン』
- パソコンの機能を詳しく知る
- 周辺機器を接続する
- パソコンのメンテナンスをする
- BIOSの設定を変更する

パソコンでTVを見たい！

『TVモデルガイド』
- テレビや地上波データ放送を見る
- テレビ番組を予約録画する
- TVモデルに関するQ&A

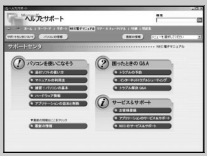
困ったなぁ、どうしたらいいのかな？

『困ったときのQ&A』
- トラブルを解決する
- パソコンを再セットアップする

パソコン初心者なので、基本的なことから覚えたい！

『パソコンのいろは』
- ＮＸパッドの使いかた
- 文字の入力のしかた
- Windowsの基本操作を覚える
- インターネットの練習

知りたいことを画面上で調べてみよう



『サポートセンタ』（電子マニュアル）
- 添付のアプリケーションを使う
- トラブルを解決する
- アプリケーションを追加／削除する
- サービス&サポート窓口紹介

※巻末に簡単な操作方法が載っています。

はじめに

　このマニュアルは、パソコンの機能全般についての取扱説明書です。各機能について詳しく知りたいときや周辺機器を接続したいとき、パソコンの設定を変更したいときなど、必要に応じて活用してください。

　また、このパソコンに添付のリモコンの使いかたについて詳しくは、『リモコンについて』をご覧ください。

2001年7月初版

853-810028-167-A

表記について

記号

◆パソコンを安全にお使いいただくための注意事項を次のように記載しています。

⚠警告	注意事項を守っていただけない場合、人が死亡または重傷を負う可能性が想定されることを示します。
⚠注意	注意事項を守っていただけない場合、人が損害を負う可能性が想定されること、または物的損害のみの発生が想定されることを示します。
感電注意	注意事項を守っていただけない場合、発生が想定される障害または事故の内容を表しています。左のマークは感電の可能性が想定されることを示しています。このほかに、毒物注意、破裂注意、高温注意についても、それぞれ記載しています。

◆その他の記号

チェック	してはいけないことや、注意していただきたいことを説明しています。よく読んで注意を守ってください。場合によっては、作ったデータの消失、使用しているアプリケーションの破壊、パソコンの破損の可能性があります。
メモ	利用の参考となる補足的な情報や、用語について説明しています。
参照	関連する情報が書かれている所を示しています。

モデル

◆モデルの呼びかた

セカンドハードディスクドライブ搭載モデル	セカンドハードディスクドライブを搭載しているモデルのことです。
Bluetooth™モデル	Bluetooth™インターフェイスを内蔵しているモデルのことです。
ワイヤレスLANモデル	ワイヤレスLANインターフェイスを内蔵しているモデルのことです。
LAN内蔵モデル	LANインターフェイスを内蔵しているモデルのことです。

◆対象モデル一覧

型名	表記の区分
	ハードディスク
LT900	セカンドハードディスクドライブ搭載モデル
LT700	―
LT500	―

◆LaVie Gシリーズについて

LaVie Gシリーズの各モデルについては、添付の『LaVie Gシリーズをご購入されたお客様へ』をご覧ください。

操作方法

【　】	【　】で囲んである文字は、キーボードのキーを示します。 【　】+【　】はキーを同時に押すことを表しています。
↵	↵は、Enterキーを表しています。
「　」→「　」→「　」	「　」で囲まれた項目を順番に選択することを示します。 [例]　「スタート」ボタン→「プログラム」→「アクセサリ」→「メモ帳」 「スタート」ボタンをクリックし、現れたポップアップメニューから「プログラム」を選択し、横に現れるサブメニューから「アクセサリ」→「メモ帳」を順に選択することを示します。

◆コントロールパネルの開きかた

コントロールパネルは次のいずれかの方法で開くことができます。

- 「スタート」ボタン→「設定」→「コントロールパネル」
- 「マイコンピュータ」アイコンをダブルクリックして、表示された「マイコンピュータ」画面の「コントロールパネル」アイコンをダブルクリックする

「コントロールパネル」の画面に操作したいアイコンが表示されていない場合は、「すべてのコントロールパネルのオプションを表示する。」をクリックしてアイコンを表示させてください。

◆「サポートセンタ」の開きかた

サポートセンタは次のどちらかの方法で開くことができます。

- 本体の【ヘルプ】ボタンを押す
- デスクトップのアクティブメニューNXで「サポートセンタ」をクリックする
- 「スタート」ボタン→「NEC電子マニュアル」→「サポートセンタ」

◆「添付ソフトの使い方」

次の方法で「添付ソフトの使い方」を開き、各アプリケーションの使い方を参照することができます。

「スタート」ボタン→「NEC電子マニュアル」→「添付ソフトの使い方」

記載内容

- イラストや画面は、モデルによって異なることがあります。
- 本文中に記載の画面は、実際の画面と多少異なることがあります。

ソフトウェアなどの正式名称

Windows、 Windows Me	Microsoft® Windows® Millennium Edition operating system 日本語版
Windows 2000 Professional	Microsoft® Windows® 2000 Professional operating system 日本語版
インターネット エクスプローラ、 Internet Explorer	Microsoft® Internet Explorer 5.5
Outlook Express	Microsoft® Outlook® Express 5.5
MS-IME2000	Microsoft® IME 2000
MS-IME2002	Microsoft® IME 2002
DirectCD	DirectCD™ 3
Easy CD Creator	Easy CD Creator™ 4 Standard
スナップショット	スナップショット Ver2.1
VideoStudio	Ulead® VideoStudio® 5 SE Basic
DVDit!	DVDit!™ LE
iモード	i-mode、アイモード

当社は国際エネルギースタープログラムの参加事業者として、本製品が国際エネルギースタープログラムの基準に適合していると判断します。

国際エネルギースタープログラムは、コンピュータをはじめとしたオフィス機器の省エネルギー化推進のための国際的なプログラムです。このプログラムは、エネルギー消費を効率的に抑えた製品の開発、普及の促進を目的としたもので、事業者の自主判断により参加することができる任意制度となっています。対象となる製品は、コ ンピュータ、ディスプレイ、プリンタ、ファクシミリおよび複写機等のオフィス機器で、それぞれの基準ならびにマーク（ロゴ）は参加各国の間で統一されています。

■技術基準等適合認定について

このパーソナルコンピュータは、電気通信事業法第72条の2第1項の規定に基づく端末機器の設計についての認証を受けています。申請回線と認証番号は次のとおりです。なお、専用回線等との接続は、一般のお客様には行えませんので、必ずご購入元にご相談ください。
本製品を日本で使用する場合は必ず日本国モードで使用下さい。他国モードをご使用になると電気通信事業法（技術基準）に違反する行為となります。
（初期値は日本になっています）

対象機種	認証番号電話回線
LT900 LT700 LT500 LG10JE LG80JE	A01-0505JP

■電波障害自主規制について

この装置は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会（VCCI）の基準に基づくクラスB情報技術装置です。この装置は、家庭環境で使用することを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。取扱説明書に従って正しい取り扱いをしてください。

■漏洩電流自主規制について

この装置は、社団法人電子情報技術産業協会のパソコン業界基準（PC-11-1988）に適合しております。

■瞬時電圧低下について

［バッテリパックを取り付けていない場合］（LT900を除く。）

本装置は、落雷等による電源の瞬時電圧低下に対し不都合が生じることがあります。電源の瞬時電圧低下対策としては、交流無停電電源装置等を使用されることをおすすめします。

［バッテリパックを取り付けている場合］

本装置にバッテリパック実装時は、社団法人電子情報技術産業協会の定めたパーソナルコンピュータの瞬時電圧低下対策ガイドラインを満足しますが、ガイドラインの基準を上回る瞬時電圧低下に対しては、不都合が生じることがあります。

■レーザ安全基準について

このパソコンには、レーザに関する安全基準（JIS・C-6802、IEC825）クラス1適合のCD-R/RW with DVD-ROMドライブが内蔵されています。

ご注意

(1) 本書の内容の一部または全部を無断転載することは禁じられています。
(2) 本書の内容に関しては将来予告なしに変更することがあります。
(3) 本書の内容については万全を期して作成いたしましたが、万一ご不審な点や誤り、記載もれなどお気づきのことがありましたら、ご購入元、最寄りのBIT-INN、またはNECパソコンインフォメーションセンターへご連絡ください。落丁、乱丁本はお取り替えいたします。ご購入元までご連絡ください。
(4) 当社では、本装置の運用を理由とする損失、逸失利益等の請求につきましては、(3)項にかかわらずいかなる責任も負いかねますので、予めご了承ください。
(5) 本装置は、医療機器、原子力設備や機器、航空宇宙機器、輸送設備や機器など、人命に関わる設備や機器、および高度な信頼性を必要とする設備や機器などへの組み込みや制御等の使用は意図されておりません。これら設備や機器、制御システムなどに本装置を使用され、人身事故、財産損害などが生じても、当社はいかなる責任も負いかねます。
(6) 海外NECでは、本製品の保守・修理対応をしておりませんので、ご承知ください。
(7) 本機の内蔵ハードディスクにインストールされているWindows® Meは本機でのみご使用ください。また、本機に添付のCD-ROM、フロッピーディスクは、本機のみでしかご利用になれません(詳細は「ソフトウェアのご使用条件」および「ソフトウェア使用条件適用一覧」をお読みください)。
(8) ソフトウェアの全部または一部を著作権の許可なく複製したり、複製物を頒布したりすると、著作権の侵害となります。
(9) あなたがテレビ放送や録画物などから引用したものは、個人として楽しむなどのほかは、著作権上、権利者に無断で使用できません。
(10) ハードウェアの保守情報をセーブしています。

Microsoft、MS、MS-DOS、Windows、Outlook、およびWindowsのロゴは、米国Microsoft Corporationの米国およびその他の国における商標または登録商標です。
携快電話はソースネクスト株式会社の登録商標です。
Ulead、VideoStudioは、Ulead Systems, Inc.の登録商標です。
Celeronは、Intel Corporationの商標です。
SpeedStepは、Intel Corporationの商標です。
Dolby、ドルビー、Pro logic及びダブルD記号は、ドルビーラボラトリーズの商標です。
Hayesは、米国Hayes Microcomputer Productsの登録商標です。
MNPは、Microcom, Inc.の登録商標です。
PS/2はIBM社が所有している商標です。
AdaptecおよびAdaptec社のロゴは、Adaptec, Inc.の登録商標です。
Easy CD Creator、DirectCDは、Adaptec, Inc.の商標です。
Bitcastおよびビットキャストの名称、ロゴは、株式会社インフォシティの登録商標です。
ADAMS(TV-Asahi Data And Multimedia Service)は、テレビ朝日データ株式会社によるデータ多重放送サービスです。
ADAMS-EPGは、テレビ朝日系列24局のデータ放送によるテレビ番組の情報配信サービスです。
ビットキャストブラウザで表示する地図の作成にあたっては、建設省国土地理院の承認を得て、同院発行の300万分の1日本とその周辺、および50万分の1地方図を使用したものです。(承認番号 平11総使、第371号)
cdmaOneは、CDGの登録商標です。
らくちんは株式会社メディア・ナビゲーションの登録商標です。
「i-mode／アイモード」「DoPa」は、(株)NTTドコモの登録商標です。
Sonic, Sonic Solutions, DVDit!はSonic Solutionsの商標です。
「メモリースティック」、「マジックゲート」、「マジックゲート メモリースティック」はソニー株式会社の商標です。
「BIGLOBE」「SmartGallery」「BusBrain」「SmartVision」「イルミネーション・エンブレム」は、日本電気株式会社の商標または登録商標です。
Bluetooth™はその商標権者が所有しており、NECはライセンスに基づき使用しております。
その他、本マニュアルに記載されている会社名、商品名は各社の商標または登録商標です。

©NEC Corporation 2001
日本電気株式会社の許可なく複製・改変などを行うことはできません。

■輸出に関する注意事項

本製品（ソフトウェアを含む）は日本国内仕様であり、外国の規格等には準拠していません。
本製品を日本国外で使用された場合、当社は一切責任を負いかねます。
また、当社は本製品に関し海外での保守サービスおよび技術サポート等は行っていません。

本製品の輸出（個人による携行を含む）については、外国為替および外国貿易法に基づいて経済産業省の許可が必要となる場合があります。
必要な許可を取得せずに輸出すると同法により罰せられます。
輸出に際しての許可の要否については、ご購入頂いた販売店または当社営業拠点にお問い合わせ下さい。

■Notes on export

This product(including software)is designed under Japanese domestic specifications and does not conform to overseas standards.NEC will not be held responsible for any consequences resulting from use of this product outside Japan.NEC does not provide maintenance service nor technical support for this product outside Japan.

Export of this product(including carrying it as personal baggage)may require a permit from the Ministry of Economy, Trade and Industry under an export control law.Export without necessary permit is punishable under the said law.Customer shall inquire of NEC sales office whether a permit is required for export or not.

目　次

PART 1

このパソコンの基本機能 1

本体の各部の名称 2
本体前面 2
本体背面 3
本体底面 4
光ナビゲーション機能付きボタン／イルミネーション・ボタン 5
表示ランプ 7
名称と役割 7
イルミネーション・エンブレム™ 9
ワンタッチスタートボタン 12
ワンタッチスタートボタンを使う 12
ワンタッチスタートボタンの設定を変更する 15
キーボード 17
キーの名称 17
キーの使いかた 18
キーボードの設定をする 20
日本語入力を使う 22
NXパッド 23
NXパッドの使いかた 23
スクロールスライドスイッチを使う 24
NXパッドの設定をする 26
ジョグホイール 30
ジョグホイールの使いかた 30
インナーシートホルダー 32
メディア用ポケットをデザインする 32
インナーシートを作成する 33
ハードディスク 36
ハードディスクを使用するときの注意 36
セカンドハードディスクドライブを使う 37
セカンドハードディスクドライブの取り外しかたと取り付けかた ... 37
ハードディスクの領域の確保とフォーマット 40
FAT32ファイルシステムの利用 43
フロッピーディスクドライブ 46
名称と役割 46
このパソコンで使用できるフロッピーディスクの種類 46

フロッピーディスクドライブを使用するときの注意 47
フロッピーディスクドライブの取り付けかた 48
フロッピーディスクのセットのしかたと取り出しかた 50
フロッピーディスクをフォーマットする 51
CD-R/RW with DVD-ROMドライブ 52
名称と役割 52
使用できるディスク 53
CD-R/RW with DVD-ROMドライブを使用するときの注意 54
ディスクのセットのしかたと取り出しかた 55
CDやDVDを再生する 58
Easy CD Creatorを使う 58
DirectCDを使う 61
液晶ディスプレイ 65
画面表示を調整する 65
表示できる解像度と表示色 66
バーチャルスクリーン 68
画面分割機能 68
【全画面】ボタンを使う 69
バッテリ 70
バッテリのみで使う 70
バッテリを充電する 70
バッテリの残量を確認する 72
バッテリリフレッシュ 74
バッテリパックを交換する 76
省電力機能 79
省電力機能とは 79
省電力機能を使用するときの注意 80
スタンバイ状態（サスペンド） 82
休止状態（ハイバネーション） 85
Intel® SpeedStep™テクノロジ 87
セキュリティ機能 90
このパソコンのセキュリティ機能 90
パスワードを設定してパソコンの使用者を制限する 90
その他のセキュリティ機能を使う 95
サウンド機能 96
このパソコンのサウンド機能 96

音量を調節する 96
ボリュームコントロールを使う 97
ビープ音を設定する 100
同軸デジタルオーディオ(S/PDIF)入出力機能について 100
光デジタルオーディオ(S/PDIF)出力機能について 101
音楽CDのデジタル出力設定 102

PART 2

通信機能 103
モデム 104
内蔵のモデムを利用する 104
インターネットへの通信環境を切り替える 107
携帯電話／PHS接続機能 108
携帯電話またはPHSと接続する 108
携帯電話／PHS接続機能使用上の注意 110
接続先を設定する 110
ダイヤル設定のしかた 110
いろいろなデータ通信を行う 112
携帯電話連携機能 116
携帯電話連携機能とは 116
携帯電話に登録してある情報を編集する 116
iモード機能を備えている携帯電話と連携して使う 117
LAN(ローカルエリアネットワーク) 120
LANへの接続 120
運用上の注意 121
ユニバーサル管理アドレス(MACアドレス) 123
CATVでインターネットを利用する 123
ワイヤレスLAN 124
Bluetooth™機能 125
ADSLについて 126
ADSLの特長 126
ADSLを利用するにあたって 127

PART 3

マルチメディア機能 129

音楽の再生／編集機能 130
音楽を再生するには 130
CDプレイモードで音楽CDを再生する 132
Windows Meを起動して音楽CDや音楽データを再生する 133
編集してオリジナルMDを作る 134
編集してオリジナル音楽CDを作る 136
映像の再生／編集機能 137
映像を再生する 137
映像を取り込む、ダビングする 139
映像を編集する 141
画像ファイルや映像ファイルを活用する 149
DVD形式のビデオデータ作成機能 150
DVD形式のビデオデータの作成のしかた 150
DVDit!で編集できるデータにする 152
DVDit!で仕上げる 154
DVD形式のビデオデータを保存する 157
作成したDVD形式のビデオデータを再生する 159
マルチメディアファイルの管理機能 162
SmartGalleryとは 162
SmartGalleryを起動する 162
SmartGalleryについて 163
基本的な使いかた 166
SmartGalleryを活用する 170

PART 4

周辺機器を使う 183

このパソコンに接続できる周辺機器 184
本体前面／右側面 184
本体背面／左側面 185
本体底面 186
周辺機器を接続する前に 187
周辺機器を利用する 187
周辺機器を利用するときの注意 187
周辺機器を使えるようにセットアップする 190
プリンタ 191

このパソコンで使用できるプリンタ 191
プリンタを使う準備 191
プリンタを設定する 192
マウス 196
別売のマウスの設定方法 196
NXパッドを使用する設定に戻す 198
他社製のマウスドライバを使用するときの注意 199
外部ディスプレイを使う 200
CRTディスプレイを使う 200
プロジェクタを使う 202
テレビを使う 202
表示するディスプレイを切り替える 203
複数のディスプレイに同時表示する 203
接続した外部ディスプレイを設定する 206
「メモリースティック」や「SDメモリーカード」を使う 207
メディア用ポケットのアダプタについて 207
PCカード 208
PCカードとPCカードスロットを使う 208
PCカードを使用するときの注意 209
PCカードのセットのしかたと取り出しかた 209
メモリ 213
メモリを増設する 213
増設RAMボードを取り扱うときの注意 213
増設RAMボードの取り付けかたと取り外しかた 214
IEEE1394コネクタ 219
IEEE1394とは 219
IEEE1394対応機器を接続する 219
USB対応機器 222
USBとは 222
USBコネクタに接続する 222
USBポートバーを使用してさまざまな周辺機器を使う 227
同軸デジタルオーディオ(S/PDIF)入出力端子 228
ヘッドホン／光デジタルオーディオ(S/PDIF)出力端子 229
マルチベイ 230

PART 5

BIOSセットアップメニュー 231

BIOSセットアップメニュー 232

BIOSセットアップメニューを使ってできること 232

BIOSセットアップメニューを使う 232

BIOSセットアップメニューを終了する 233

購入時の値に戻す 234

設定項目一覧 234

PART 6

付録 239

パソコンのお手入れ 240

用意するもの 240

パソコンのお手入れをはじめる前に 240

お手入れのしかた 241

Windows 2000 Professionalを使う 242

Windows 2000 Professionalを使うための手順 242

機能一覧 243

本体 243

LaVie Gシリーズ 246

内蔵FAXモデム 249

内蔵LAN機能 251

携帯電話／PHS接続機能 252

割り込みレベルとDMAチャネル 253

割り込みレベルとDMAチャネルについて 253

補足情報 255

サウンド機能について 255

索引 261

PART

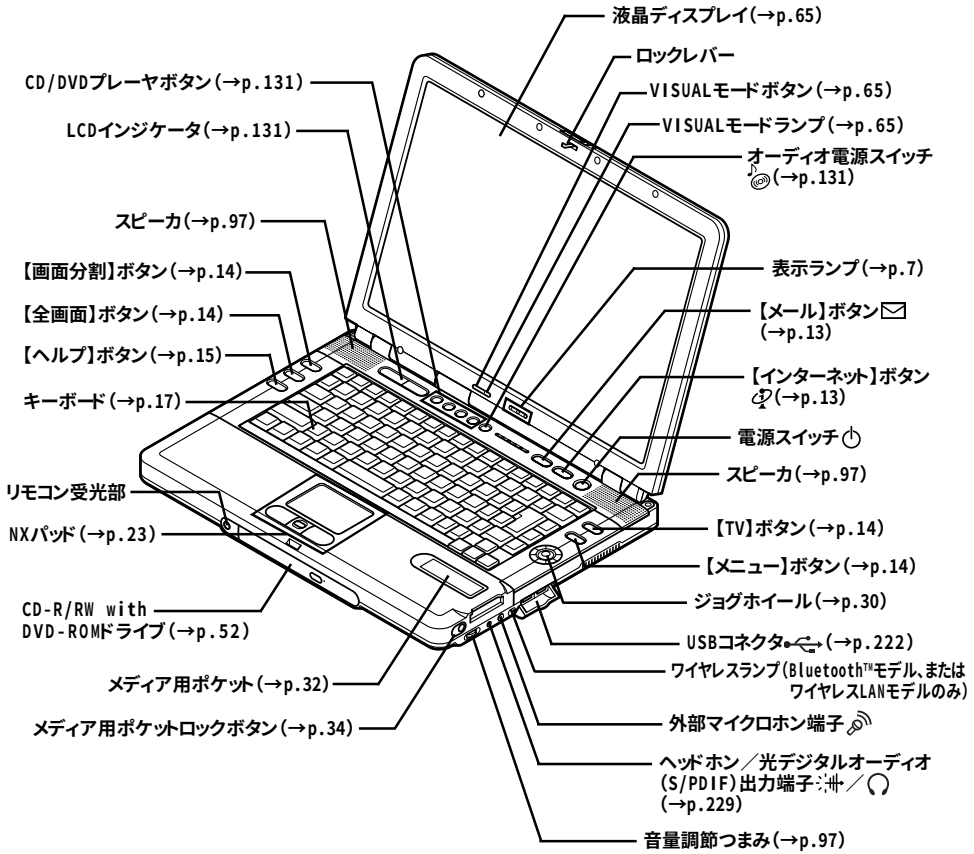
1

このパソコンの基本機能

このパソコンの各部の名称とおもな機能について説明しています。

本体の各部の名称

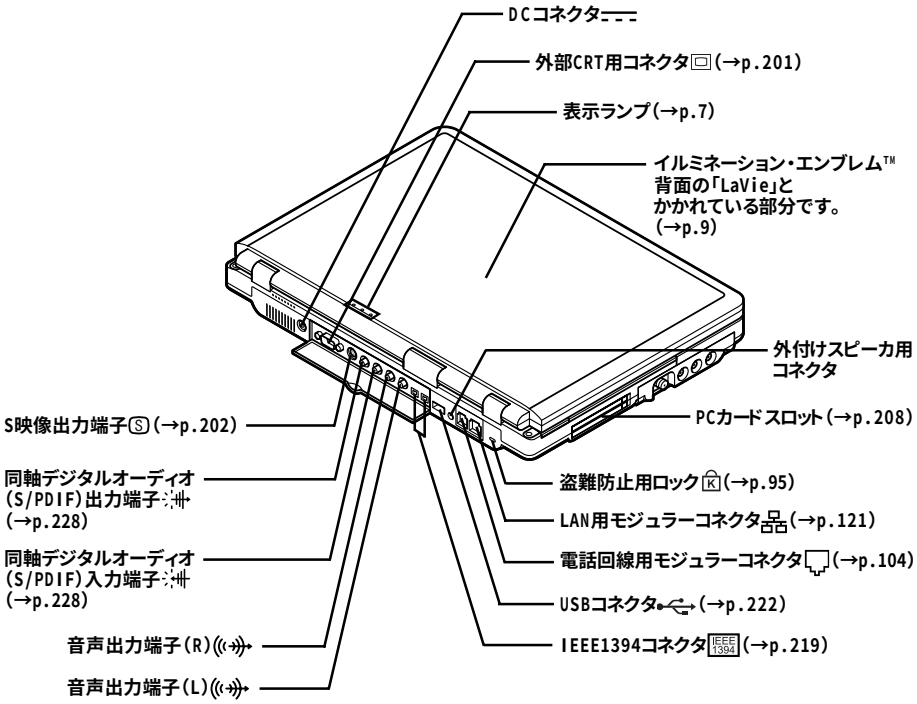
本体前面



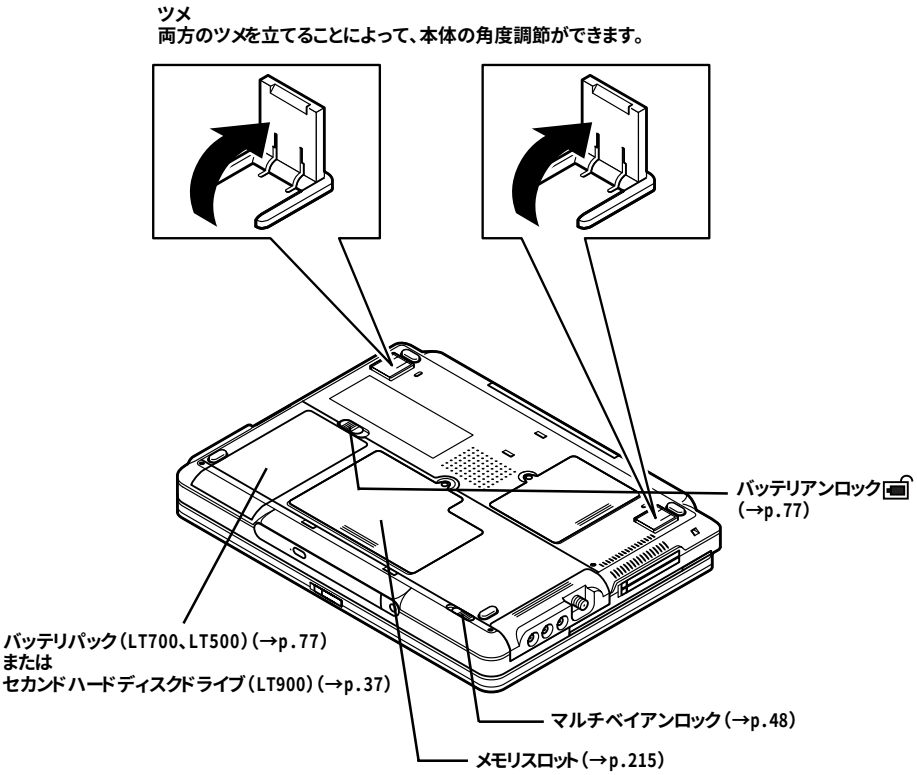
メモ

電源スイッチ、オーディオ電源スイッチ、【インターネット】ボタン、【メール】ボタン、【TV】ボタンは光ナビゲーション機能付きボタンです。光ナビゲーション機能については「光ナビゲーション機能付きボタン」(→p.5)をご覧ください。

本体背面


DCコネクタ
外部CRT用コネクタ(→p.201)
表示ランプ(→p.7)
イルミネーション・エンブレム™
背面の「LaVie」と
かかれている部分です。
(→p.9)
外付けスピーカ用
コネクタ
PCカードスロット(→p.208)
S映像出力端子(→p.202)
同軸デジタルオーディオ
(S/PDIF)出力端子
(→p.228)
同軸デジタルオーディオ
(S/PDIF)入力端子
(→p.228)
音声出力端子(R)
音声出力端子(L)
盗難防止用ロック(→p.95)
LAN用モジュラーコネクタ(→p.121)
電話回線用モジュラーコネクタ(→p.104)
USBコネクタ(→p.222)
IEEE1394コネクタ(→p.219)

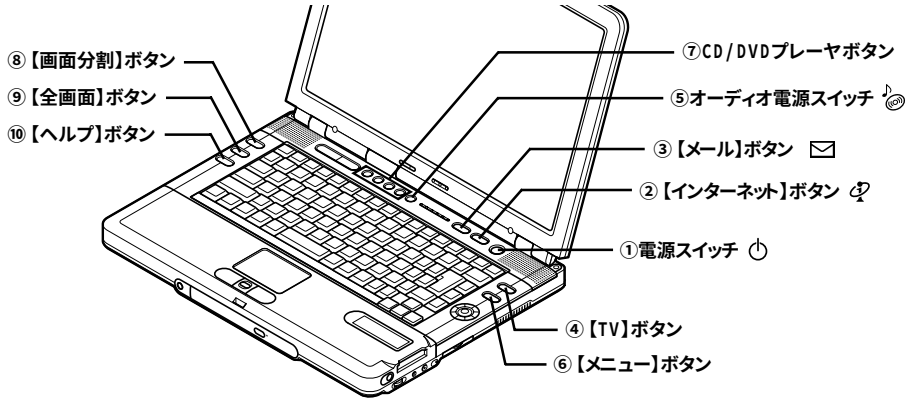
本体底面


ツメ
両方のツメを立てることによって、本体の角度調節ができます。
バッテリアンロック
（→p.77）
バッテリパック（LT700、LT500）（→p.77）
または
セカンドハードディスクドライブ（LT900）（→p.37）
マルチベイアンロック（→p.48）
メモリスロット（→p.215）

光ナビゲーション機能付きボタン／イルミネーション・ボタン

このパソコンは、光ナビゲーション機能付きボタンとイルミネーション・ボタンを内蔵しています。
液晶ディスプレイを開くと、光ナビゲーション機能付きボタンが約10秒間オレンジ色に点灯します。ボタンを押すと青色に点灯し、ボタンの機能に応じて簡単にパソコンを操作することができます。
イルミネーション・ボタンは、インテリア感覚で常時青色に点灯しています。

ボタンの名称と機能



①～⑤のボタンが光ナビゲーション機能付きボタンです。パソコンの電源が入っていないか、パソコンがスタンバイ状態や休止状態のときに、光ナビゲーション機能付きボタンを押すと、ボタンが点灯します。

① 電源スイッチ

電源スイッチを押すと、電源スイッチが約10秒間青色に点灯します。

②【インターネット】ボタン

【インターネット】ボタンを押すと、【インターネット】ボタンが約10秒間青色に点灯します。

参照
【インターネット】ボタンについて→このPARTの「ワンタッチスタートボタン」の「【インターネット】ボタン」(p.13)

③【メール】ボタン

【メール】ボタンを押すと、【メール】ボタンが約10秒間青色に点灯します。

参照

【メール】ボタンについて→このPARTの「ワンタッチスタートボタン」の「【メール】ボタン」(p.13)

④【TV】ボタン

【TV】ボタンを押すと、【TV】ボタンが約10秒間青色に点灯します。

参照

【TV】ボタンについて→このPARTの「ワンタッチスタートボタン」の「【TV】ボタン」(p.14)

⑤ オーディオ電源スイッチ

オーディオ電源スイッチを押すと、CDプレイモードが起動しCD/DVDプレーヤボタンが青色に点灯します。

メモ

CDプレイモードとは、電源が切れている状態、またはスタンバイ状態や休止状態のときに、パソコンをオーディオ機器としてのみ使用するためのモードです。

参照

- オーディオ電源スイッチについて→PART3の「音楽の再生／編集機能」の「音楽を再生するときに便利なボタン」(p.130)
- CDプレイモードについて→PART3の「音楽の再生／編集機能」(p.130)

①～⑤のボタンと次の⑥～⑪のボタンはイルミネーション・ボタンです。設定をおこなうと常時青色に点灯／消灯を切り替えることができます。

⑥【メニュー】ボタン

⑦ CD/DVDプレーヤボタン

⑧【画面分割】ボタン

⑨【全画面】ボタン

⑩【ヘルプ】ボタン

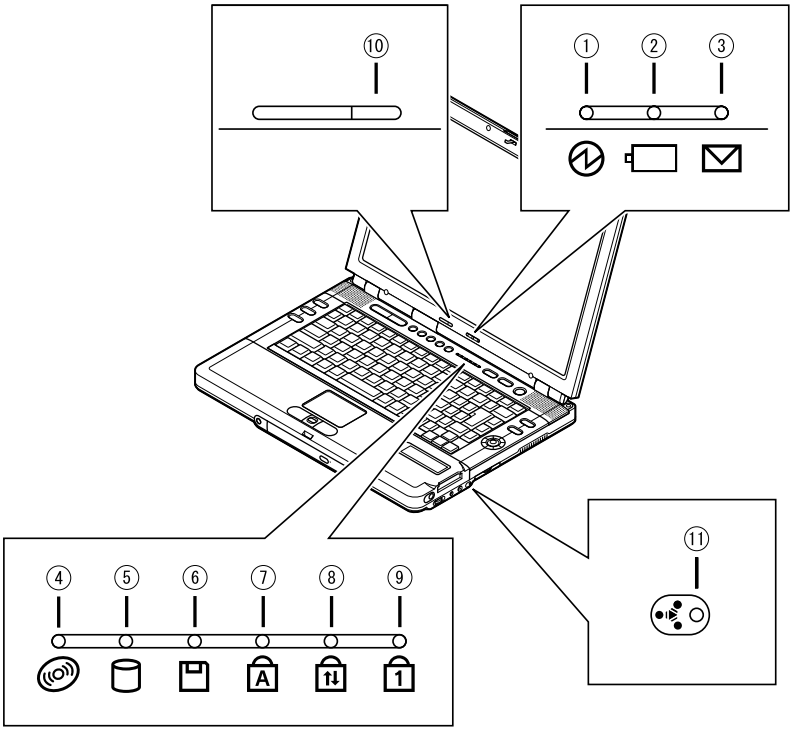
⑪ ジョグホイール

参照

常時青色に点灯する→「表示ランプ」の「イルミネーション・エンブレム™」(p.9)

表示ランプ

名称と役割



①電源ランプ(⏻)

ランプ		状態
緑	点灯	電源が入っている
	点滅	スタンバイ状態
黄色	点灯	バッテリ容量が少ない
	点滅	スタンバイ状態でバッテリ容量が少ない
オレンジ	点灯	バッテリ容量が残りわずか
	点滅	スタンバイ状態でバッテリ容量が残りわずか
消灯		電源が切れている、または休止状態

②バッテリ充電ランプ(▭)

ランプ		状態
オレンジ	点灯	バッテリ充電中
	点滅	バッテリのエラー※
消灯		ACアダプタが接続されていない、または充電完了

※：バッテリを取り付けなおしてもエラーが出るときは、バッテリリフレッシュを行ってください(→p.74)。

③メール着信ランプ(✉)

ランプ	状態
緑点灯	メール着信あり
消灯	メール着信なし

④CD/DVDアクセスランプ(◉)

ランプ	状態
緑点灯	CD-ROMやDVD-ROMなどのディスクにアクセス中
消灯	CD-ROMやDVD-ROMなどのディスクにアクセスしていない

⑤ハードディスクアクセスランプ(⛁)

ランプ	状態
緑点灯	ハードディスクやセカンドハードディスクにアクセス中
消灯	ハードディスクやセカンドハードディスクにアクセスしていない

⑥フロッピーディスクアクセスランプ(🖫)

ランプ	状態
緑点灯	フロッピーディスクにアクセス中
消灯	フロッピーディスクにアクセスしていない

⑦キャップスロックキーランプ(🄰)

ランプ	状態
緑点灯	【Caps Lock】がロックされている 英字を入力すると大文字になります
消灯	【Caps Lock】がロックされていない 英字を入力すると小文字になります

⑧スクロールロックキーランプ(Scr Lock)

ランプ	状態
緑点灯	【Scr Lock】がロックされている
消灯	【Scr Lock】がロックされていない

⑨ニューメリックロックキーランプ(1)

ランプ	状態
緑点灯	【Num Lock】がロックされている キーを押すとキー前面の文字が入力されます
消灯	【Num Lock】がロックされていない キーを押すとキー上面の文字が入力されます

⑩VISUALモードランプ

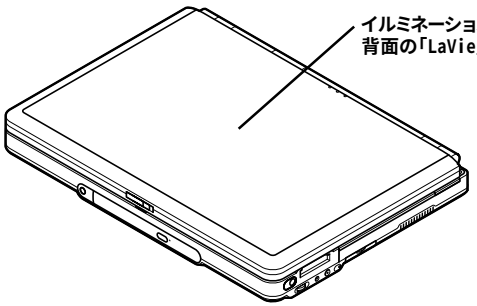
ランプ	状態
緑点灯	VISUALモードになっている液晶ディスプレイのバックライトがより明るくなります。
消灯	VISUALモードになっていない

⑪ワイヤレスランプ

ランプ	状態
緑点灯	ワイヤレスLAN／Bluetooth™機能が使用可能
消灯	ワイヤレスLAN／Bluetooth™機能が使用不可

イルミネーション・エンブレム™

イルミネーション・エンブレム™は、液晶ディスプレイの背面に搭載されているランプです。イルミネーション・エンブレム™には、誰からのメールが到着したのか、どこのホームページが更新されたのかをランプの色で知らせる機能があります。また、インテリア感覚で常時ランプを点灯させておくこともできます。



イルミネーション・エンブレム™の設定をする

イルミネーション・エンブレム™は、7種類（赤、緑、黄、青、紫、水色、白）の色に点灯させることができます。また点灯の方法として次のような設定ができます。

- 1色を点灯させる
- 定期的に色を変更しながら点灯させる
- Windows起動時に点灯させる

■ 1色を点灯させる

1 「スタート」ボタン→「プログラム」→「イルミネーション・エンブレム（TM）」→「イルミネーション・エンブレム（TM）の設定」をクリックする
「イルミネーション・エンブレム（TM）の設定」画面が起動します。

2 点灯のオン／オフボタン がグレー表示（オフ状態）になっている場合は、クリックして点灯をオンにする

3 「定期的に色を変更しながら点灯する」が☑になっている場合は、クリックして☐にする

4 点灯させたい色のボタンをクリックする

5 「OK」ボタンをクリックする

■ 定期的に色を変更しながら点灯させる

「定期的に色を変更しながら点灯する」を☑に設定してある場合は、指定した点灯間隔（1～60秒）ごとに色を変更しながら点灯させることができます。

1 「スタート」ボタン→「プログラム」→「イルミネーション・エンブレム（TM）」→「イルミネーション・エンブレム（TM）の設定」をクリックする
「イルミネーション・エンブレム（TM）の設定」画面が起動します。

2 点灯のオン／オフボタン がグレー表示（オフ状態）になっている場合は、クリックして点灯をオンにする

3 「定期的に色を変更しながら点灯する」が☐になっている場合は、クリックして☑にする

4 色を変更する時間を設定する
「点灯間隔」のつまみを左右にドラッグして設定します。

メモ

右へ動かすと点灯間隔が長くなり、左へ動かすと点灯間隔が短くなります。
設定は、最小1秒、最大60秒間隔で1秒ごとに設定できます。

5 「OK」ボタンをクリックする

■ Windows起動時に点灯させる

1 「スタート」ボタン→「プログラム」→「イルミネーション・エンブレム（TM）」→「イルミネーション・エンブレム（TM）の設定」をクリックする
「イルミネーション・エンブレム（TM）の設定」画面が起動します。

2 点灯のオン／オフボタン がグレー表示（オフ状態）になっている場合は、クリックして点灯をオンにする

3 「コンピュータ起動時に点灯する」が☐になっている場合は、クリックして☑にする

4 「OK」ボタンをクリックする

■ イルミネーション・ボタンを常に青色に点灯させる

1 「スタート」ボタン→「プログラム」→「イルミネーション・エンブレム（TM）」→「イルミネーション・ボタンを消灯する」または「イルミネーション・ボタンを点灯する」をクリックする
「イルミネーション・ボタン設定」画面が表示されます。

2 「はい」ボタンをクリックする
イルミネーション・ボタンが常に点灯または消灯します。

以上で、イルミネーション・ボタンの点灯／消灯が切り替わります。

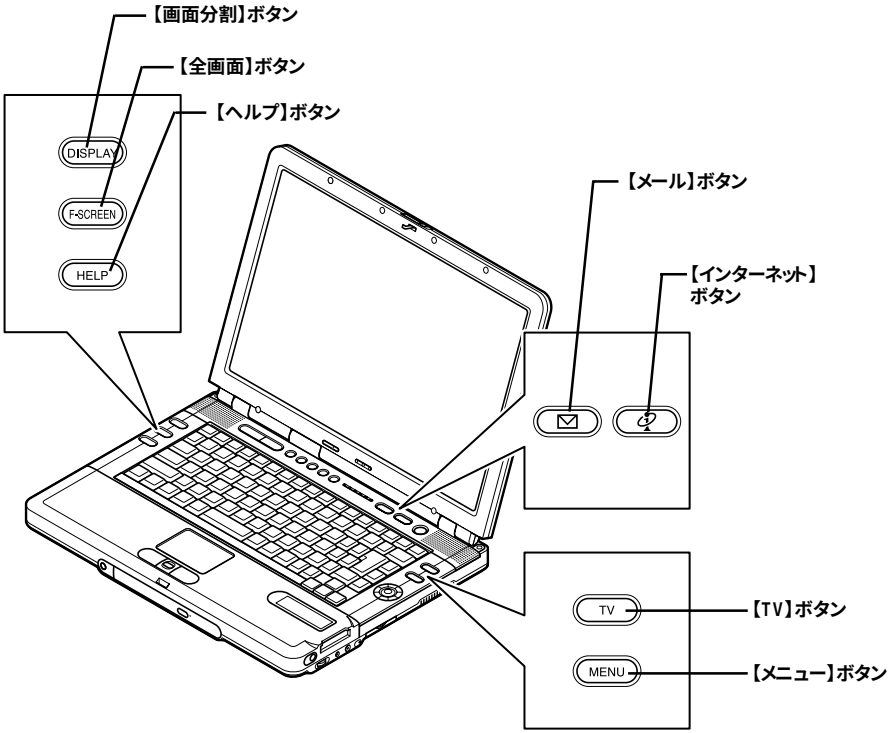
イルミネーション・エンブレム™を使用するときの注意

- イルミネーション・エンブレム™は、電源が入っている状態のときに機能します。休止状態、スタンバイ状態では機能しません。
- 自動メール受信ユーティリティを使用してメールの到着確認やホームページの更新チェックを行っている場合は、自動メール受信ユーティリティの設定が優先となるため、「イルミネーション・エンブレム（TM）の設定」で行った設定どおりにイルミネーション・エンブレム™を点灯させることはできません。

ワンタッチスタートボタン

ワンタッチスタートボタンを使う

このパソコンには次のワンタッチスタートボタンがあります。
ワンタッチスタートボタンは、機能をすばやく実行するためのボタンです。
【インターネット】ボタンと【メール】ボタンは、ボタンの機能をカスタマイズすることもできます（→p.15）。



チェック

セーフモードなど、Windows Meのキーボードドライバが動作しない状態では、ワンタッチスタートボタンの機能は使えません。

【インターネット】ボタン

■ 電源が入っている場合

パソコンの電源が入っている状態で【インターネット】ボタンを押すと、インターネットへの接続がはじまります。購入時の状態では、「インターネット無料体験」が起動するように設定されています。設定を変更すると「Internet Explorer」などのインターネットブラウザを起動することができます。

参照

【インターネット】ボタンの設定→「【インターネット】ボタン／【メール】ボタンの設定をする」(p.15)

■ 電源が入っていない場合／スタンバイ状態の場合／休止状態の場合

パソコンの電源が入っていない場合、またはスタンバイ状態や休止状態で【インターネット】ボタンを押すと、電源が入り、インターネットの接続がはじまります。購入時の状態では、「インターネット無料体験」が起動するように設定されています。設定を変更すると、「Internet Explorer」などのインターネットブラウザを起動することができます。

参照

【インターネット】ボタンの設定→「【インターネット】ボタン／【メール】ボタンの設定をする」(p.15)

【メール】ボタン

■ 電源が入っている場合

パソコンの電源が入っている状態で【メール】ボタンを押すと、メールソフトが起動します。購入時の状態では、「メールボタン利用のご案内」が表示されます。設定を変更すると、「Outlook Express」などのメールソフトを起動することができます。

参照

【メール】ボタンの設定→「【インターネット】ボタン／【メール】ボタンの設定をする」(p.15)

■ 電源が入っていない場合／スタンバイ状態の場合／休止状態の場合

パソコンの電源が入っていない場合、またはスタンバイ状態や休止状態で【メール】ボタンを押すと電源が入り、メールソフトが起動します。購入時の状態では、「メールボタン利用のご案内」が表示されます。設定を変更すると、「Outlook Express」などのメールソフトを起動することができます。

参照

【メール】ボタンの設定→「【インターネット】ボタン／【メール】ボタンの設定をする」(p.15)

【TV】ボタン

■ 電源が入っている場合

パソコンの電源が入っている状態で【TV】ボタンを押すと、SmartVision/TVが起動します。

■ 電源が入っていない場合／スタンバイ状態／休止状態の場合

パソコンの電源が入っていない場合、またはスタンバイ状態や休止状態で【TV】ボタンを押すと電源が入り、SmartVision/TVが起動します。

【メニュー】ボタン

・DVD VIDEOディスク再生中に【メニュー】ボタンを押すとタイトルメニューが表示されます。

チェック

DVDの種類によってはタイトルメニューが表示されない場合があります。

・SmartVision/TVでTVを視聴中に【メニュー】ボタンを押すとSmartVision/EPGが起動します

・インターネットエクスプローラが起動しているときに【メニュー】ボタンを押すと、「お気に入り」リストが表示されます。

電源が入っていない場合やスタンバイ状態、休止状態になっている場合には、使うことはできません。

【画面分割】ボタン

複数のアプリケーションが起動しているときに【画面分割】ボタンを押すと、画面が等分割され、アプリケーションを並べて見ることができます（ウィンドウサイズ固定等の一部アプリケーションを除く）。

電源が入っていない場合やスタンバイ状態、休止状態になっている場合には、使うことはできません。

参照

画面分割の設定→このPARTの「液晶ディスプレイ」の「画面分割機能」（p.68）

【全画面】ボタン

複数のアプリケーションのウィンドウが重なって表示されていたりする場合などに【全画面】ボタンを押すと、選択されているウィンドウがディスプレイ全体に表示させることができます。

電源が入っていない場合やスタンバイ状態、休止状態になっている場合には、使うことはできません。

【ヘルプ】ボタン

パソコンの電源が入っている状態で【ヘルプ】ボタンを押すと、「サポートセンタ」が起動します。
電源が入っていない場合やスタンバイ状態、休止状態になっている場合には、使うことはできません。

ワンタッチスタートボタンの設定を変更する

【インターネット】ボタン／【メール】ボタンの設定をする

【インターネット】ボタン／【メール】ボタンの設定は、「ワンタッチスタートボタンの設定」を使って行います。

■「ワンタッチスタートボタンの設定」を起動する

1 「スタート」ボタン→「プログラム」→「ワンタッチスタートボタンの設定」→「ワンタッチスタートボタンの設定」をクリックする
「ワンタッチスタートボタンの設定」画面が表示されます。

チェック

ショートカット（拡張子が.lnkのファイル）で、プロパティの「ショートカット」タブの「リンク先」に何も表示されていないファイルは、ワンタッチスタートボタンに登録してもショートカットが実行されません。
登録後正常に実行されない場合は、そのショートカットを右クリックし、プロパティの内容を確認してください。

メモ

インジケータ領域（タスクトレイ）にある をダブルクリックして起動することもできます。

参照

ワンタッチスタートボタンの設定→「添付ソフトの使い方」-「ワンタッチスタートボタンの設定」、または「スタート」ボタン→「プログラム」→「ワンタッチスタートボタンの設定」→「ワンタッチスタートボタンの設定ヘルプ」

ワンタッチスタートボタンの有効／無効を切り替える

次の操作でワンタッチスタートボタンの有効／無効を切り替えることができます。

1 「スタート」ボタン→「プログラム」→「ワンタッチスタートボタンの設定」で、「ワンタッチスタートボタンを無効にする」または「ワンタッチスタートボタンを有効にする」をクリックする

ワンタッチスタートボタンが無効の状態の場合は「ワンタッチスタートボタンを有効にする」が表示され、有効の状態の場合は「ワンタッチスタートボタンを無効にする」が表示されています。

2 ワンタッチスタートボタンを有効または無効にするメッセージが表示されたら「はい」ボタンをクリックする

3 再起動のメッセージが表示されたら「はい」ボタンをクリックする

Windowsが再起動します。

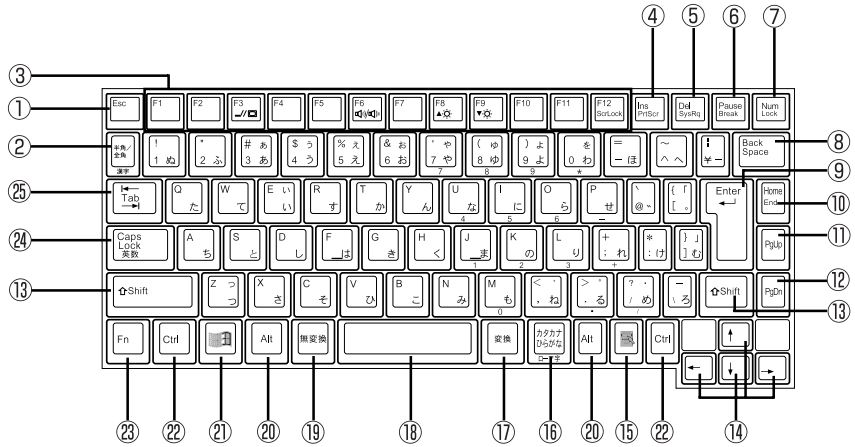
再起動後、ワンタッチスタートボタンの有効／無効が切り替わります。

チェック

- ワンタッチスタートボタンが無効に設定されている場合にワンタッチスタートボタンを操作すると、ボタンの設定と異なる機能が働くことがあります。これはWindows Meの標準的な動作です。
- ワンタッチスタートボタンが無効に設定されている場合は、「ワンタッチスタートボタンの設定」で登録したボタン設定、オンスクリーン表示や、DVD/CDプレーヤボタンによるJet-Audio Playerの制御は無効になります。
- ワンタッチスタートボタンを無効に設定と、メモリリソースの消費を軽減することができます。

キーボード

キーの名称



① 【Esc】：エスケープキー
② 【半角／全角】：半角／全角キー
③ 【F1】～【F12】：ファンクションキー
④ 【Ins】：インサートキー
⑤ 【Del】：デリートキー
⑥ 【Pause】：ポーズキー
⑦ 【Num Lock】：ニューメリックロックキー
⑧ 【Back Space】：バックスペースキー
⑨ 【Enter】：エンターキー（リターンキー）
⑩ 【Home】：ホームキー
⑪ 【PgUp】：ページアップキー
⑫ 【PgDn】：ページダウンキー
⑬ 【Shift】：シフトキー
⑭ 【↑】【↓】【←】【→】：カーソル移動キー
⑮ 【 】：アプリケーションキー
⑯ 【カタカナ ひらがな】：かなキー
⑰ 【変換】：変換キー
⑱ スペースキー
⑲ 【無変換】：無変換キー
⑳ 【Alt】：オルトキー
㉑ 【 】：Windowsキー
㉒ 【Ctrl】：コントロールキー
㉓ 【Fn】：エフエヌキー
㉔ 【Caps Lock】：キャップスロックキー
㉕ 【Tab】：タブキー

特殊なキーを使う

キー操作	説　明
【Num Lock】	一度押すとニューメリックロックキーランプ(1)が点灯し、キー前面に黄色で表示されている数字や記号が入力できるようになります。もう一度押すとランプは消灯し、キー上面の文字が入力できるようになります。
【Shift】+【Caps Lock】	一度押すとキャップスロックキーランプ(A)が点灯し、アルファベットを入力をすると大文字が入力されます。もう一度押すとランプは消灯し、アルファベットを入力をすると小文字が入力されます。
【Alt】+【半角／全角】 または 【半角／全角】	押すごとに、日本語入力システムのオン／オフが切り替わります。
【Alt】+ 【カタカナ ひらがな】	日本語入力システムがオンになっているとき、一度押すとかな入力モードになり、キー上面のかな文字で日本語を入力できるようになります。もう一度押すとローマ字入力モードになり、キー上面のアルファベットの組み合わせで日本語を入力できるようになります。
【Caps Lock】	日本語入力システムがオンになっているとき、一度押すと英数字を入力できるようになります。
【カタカナ ひらがな】	日本語入力システムがオンになっていて英数字が入力されるモードになっているとき、一度押すとひらがなやカタカナを入力できるようになります。
【Fn】	他のキーと組み合わせて機能を実行します(→p.19)。
【▤】	右クリックするのと同じ機能があります。
【⊞】	「スタート」ボタンをクリックするのと同じ機能があります。
【⊞】+【R】	「ファイル名を指定して実行」画面を表示します。
【⊞】+【M】	現在起動しているウィンドウをすべてアイコン化します。
【Shift】+【⊞】+【M】	【⊞】+【M】でアイコン化したウィンドウを元に戻します。
【⊞】+【F1】	Windowsのヘルプを表示します。
【⊞】+【F】	ファイルやフォルダを検索するウィンドウを表示します。
【Ctrl】+【⊞】+【F】	コンピュータを検索するウィンドウを表示します。
【⊞】+【Tab】	タスクバーに表示されているボタンを順番に切り替えます。

ホットキー機能を使う

【Fn】と他のキーを組み合わせることで、パソコンの設定をキー操作で簡単に調整することができます。これをホットキー機能といいます。
組み合わせが可能なキーとその機能のアイコンは、【Fn】と同じ黄色でキー上面に印刷されているものもあります。

キー操作	機　能	説　明
【Fn】＋【F2】	ワイヤレス機能のオン／オフ	ワイヤレスLAN／Bluetooth™機能のオン／オフ（電波を出す／出さない）を切り替えます。
【Fn】＋【F3】	ディスプレイの切り替え（▁／▣）	別売のCRTディスプレイが接続されているとき、キーを押すごとに、「液晶ディスプレイとCRTの同時表示」→「テレビ」※2→「液晶ディスプレイ」→「CRT」の順に切り替わります（→p.203）。
【Fn】＋【F6】	ビープ音オン／オフ（🔊/🔇）	ビープ音のオン／オフを設定します（→p.100）。
【Fn】＋【F8】	輝度を上げる（▲☼）	キーを押すごとに、液晶ディスプレイの輝度が増加します（8段階）（→p.65）。
【Fn】＋【F9】	輝度を下げる（▼☼）	キーを押すごとに、液晶ディスプレイの輝度が低下します（8段階）（→p.65）。
【Fn】＋【F10】	画面の伸縮	低解像度時に、ディスプレイの画面を拡大表示する／しないを切り替えます。
【Fn】＋【F12】	スクロールロック	【Scr Lock】の役割
【Fn】＋【Ins】	プリントスクリーン	【Prt Scr】の役割
【Fn】＋【Del】	システムリクエスト	【Sys Rq】の役割
【Fn】＋【⊞】	右Windows	右【⊞】の役割
【Fn】＋【Pause】	Break	【Break】の役割
【Fn】＋【Home】	End	【End】の役割

※1：LaVie GシリーズのBluetooth™モデルとワイヤレスLANモデルのみ
※2：テレビが接続されているときのみ切り替わります。

メモ

【Fn】＋【F2】～【F12】で設定した内容は、電源を切ったり再起動したりすると解除されます（【Fn】＋【F8】、【F9】を除く）。

キーボードの設定をする

1 **「コントロールパネル」を開き、「キーボード」アイコンをダブルクリックする**
「キーボードのプロパティ」画面が表示されます。

「キーボードのプロパティ」画面では、画面左上の「速度」「言語」の各タブを選ぶと、次のような設定を行うことができます。
- **文字入力時のくりかえし入力のタイミング調節**
- **カーソルの点滅速度の調節**
- **日本語入力システムの選択**
- **レイアウトの設定**

「速度」タブでの設定

● **表示までの待ち時間**
一つのキーを押し続けたときに、入力のくりかえしがはじまるまでの時間を調節します。

● **表示の間隔**
一つのキーを押し続けたときに、文字の入力がくりかえされる間隔を調節します。

● **カーソルの点滅速度**
カーソルの点滅間隔を調節します。

「言語」タブでの設定

● **追加**
「追加」ボタンをクリックして「入力言語の追加」または「言語の追加」画面を表示させ、追加したい言語を選びます。

● プロパティ

一覧から日本語入力システムを選んで、「プロパティ」ボタンをクリックすると、環境設定の画面が表示されます。「ローマ字／かな入力」、「入力モード／方式」、「句読点の種類」などを設定できます。

● 削除

削除したい言語を一覧から選んで、「削除」ボタンをクリックすると、その言語が一覧から削除されます。

● キーの設定

入力言語の切り替えを行うキーの組み合わせを選ぶことができます。

● タスクバー上に状態を表示（MS-IME2000の場合）

「タスクバー上に状態を表示」の☐をクリックして☑にすると、日本語や日本語入力システムを簡単に切り替えることができるメニューをタスクバーに表示できます。

● 言語バーをデスクトップ上に表示する（MS-IME2002の場合）

「基本設定」欄の「言語バー」ボタンをクリックして「言語バーをデスクトップ上に表示する」の☐をクリックして☑にすると、日本語や日本語入力システムを簡単に切り替えることができるメニューをデスクトップに表示できます。

別売のキーボードやテンキーボードを使うには

別売のテンキーボードやUSB対応のキーボードを接続して使用することができます。USB対応のキーボードを使う場合は、このパソコンのUSBコネクタ（ ）に接続することができます。別売のPS/2タイプのテンキーボードを接続して使用するには、別売のUSBポートバー（PK-UP012S/PK-UP012NS/PK-UP012US）が必要になります。

参照
USB対応機器の接続→PART4の「USB対応機器」（p.222）

日本語入力を使う

このパソコンでは、日本語入力システムとしてMS-IME2002、またはMS-IME2000を使用できます。

日本語入力システムのオン／オフを切り替える

日本語入力システムのオン／オフを切り替えるときは、【半角／全角】または【Alt】＋【半角／全角】を押します。日本語入力システムがオンになると、日本語入力システムのツールバーが表示されます。オン／オフは、キーを押すごとに切り替えることができます。

メモ

MS-IME2000の場合は、インジケータ領域（タスクトレイ）にある をクリックして表示されるメニューでオン／オフを切り替えることもできます。日本語入力システムがオンのときは、 は になっています。

日本語を入力する

日本語入力システムの詳しい使いかたは、日本語入力システムの「ヘルプ」を利用してください。

参照
日本語入力を練習する→「パソコンのいろは」-「ステップ4 日本語の入力」

■ MS-IME2002の「ヘルプ」を使う

1 MS-IME2002のツールバーから をクリックする

2 メニューの「Microsoft(R) IME スタンダード 2002」をクリックする

3 メニューの「目次とキーワード」をクリックする

4 表示されたヘルプ画面で、調べたい項目をダブルクリックする
ヘルプを終了したいときは、 をクリックします。

■ MS-IME2000の「ヘルプ」を使う

1 MS-IME2000のツールバーから をクリックする

2 メニューの「目次とキーワード」をクリックする

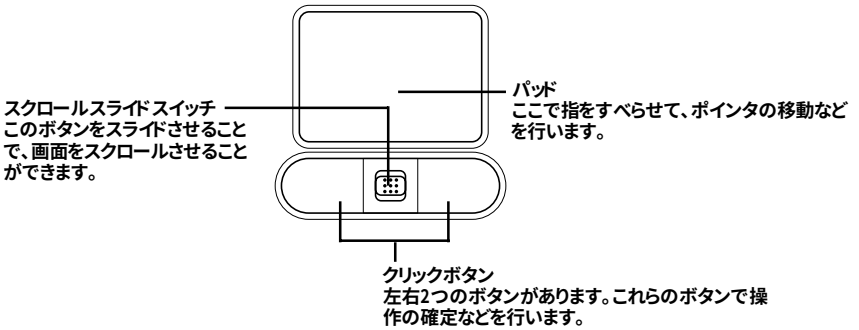
3 表示されたヘルプ画面で、調べたい項目をダブルクリックする
ヘルプを終了したいときは、 をクリックします。

NXパッド

NXパッドの使いかた

このパソコンにはポインティングデバイスとしてNXパッドが内蔵されています。

名称と役割

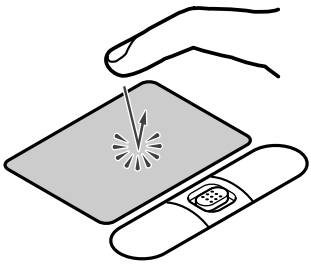


パッドのみを使って操作する

NXパッドではクリックボタンを使わずにパッドのみを使って操作することもできます。

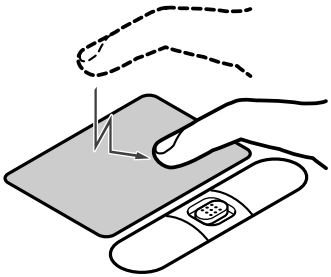
● タップとダブルタップ

指先で軽くパッドをたたく操作です。1回たたくことを「タップ」、2回続けてたたくことを「ダブルタップ」といい、それぞれクリック、ダブルクリックするのと同じことです。



●ドラッグ

アイコンやフォルダの上にポインタを合わせた状態で、パッドに2回続けて触れ、2回目に触れたときにパッドから指を離さずにすべらせるとドラッグできます。



参照

NXパッドの使いかたを練習する→「パソコンのいろは」ステップ 1の「NXパッドに慣れる」

スクロールスライドスイッチを使う

スクロールスライドスイッチを使うと、画面を上下左右にスクロールさせたり、画面を拡大縮小させることができます。

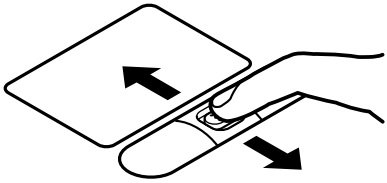
チェック

- スクロールスライドスイッチの機能に対応していないアプリケーションではスクロールスライドスイッチを使えません。
- アプリケーションによっては、ポインタの位置によって動作が異なることがあります。

● 画面を上下方向にスクロールさせる

1 アプリケーションの上下スクロールバーがある画面をクリックする

2 スクロールスライドスイッチをパッド側、または手前にスライドさせる
パッド側にスライドさせると画面が上にスクロールし、手前にスライドさせると画面が下にスクロールします。
また、スクロールスライドスイッチをスライドさせたままにすることで、連続して画面をスクロールさせることができます。



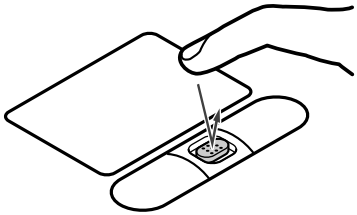
チェック

スクロールスライドスイッチを押した状態でスライドさせようとしてもスクロールしないことがあります。スクロールさせるときは、スクロールスライドスイッチを押さずに軽く指をおいてスライドさせてください。

● 画面を上下、左右方向にスクロールさせる

1 スクロールさせたい画面にポインタを移動する

2 スクロールスライドスイッチを押す
ポインタの形が↕や↔に変わります。



チェック

スクロールスライドスイッチを押すときは、スライドさせないように注意してください。スライドさせた場合、通常の上下方向のスクロール機能が働きます。

3 ポインタの形が変わったら、パッドを使ってスクロールさせる
パッド上で指をすべらせた方向にスクロールします。
パッドによるスクロールを終了したい場合は、もう一度、スクロールスライドスイッチを押してください。ポインタの形が元に戻ります。

チェック

- アプリケーションによってスクロールできる方向は異なります。
- ポインタの形が⇕のときは、上下方向にのみスクロールできます。

● ズーム機能を使う

1 拡大、縮小したい画面にポインタを動かす

2 キーボードの【Ctrl】を押したまま、スクロールスライドスイッチをパッド側、または手前にスライドさせる
パッド側にスライドさせると画面の表示が拡大され、手前にスライドさせると縮小されます。

● NXパッドの一時的なオン／オフ機能として使う
スクロールスライドスイッチを使って、NXパッドを一時的にオンまたはオフにすることができます。

NXパッドの設定をする

WindowsでNXパッドをより使いやすく設定することができます。

1 「コントロールパネル」を開き、「マウス」アイコンをダブルクリックする
「マウスのプロパティ」画面が表示されます。

「マウスのプロパティ」画面では、ウィンドウの左上の各タブを選ぶと、次のような設定を行うことができます。

- ボタンの設定
- オートスクロール機能
- ポインタデザインの選択
- NXパッドの動作の調節
- オートジャンプの設定
- タッピングの調節
- ジェスチャーの調節（NXパッド使用時のみ設定可能）
- その他

「ボタン」タブの設定

● **ボタン設定**
左右のクリックボタンの設定や、スクロールスライドスイッチ（スライドスイッチ）の設定ができます。

● **ダブルクリック速度**
ダブルクリックのクリック間隔の調整を行います。

● **スクロール機能**
スクロール中にスライドスイッチを押すことで、スクロールを継続させるスクロールロック機能の設定や、スクロールの速度の設定ができます。スクロールロック機能は、クリックボタンやスライドスイッチを押すか、タップすることで解除できます。

チェック
スクロールロック機能を解除しない場合、自動的にスタンバイ状態にならない場合があります。

「ポインタ」タブの設定

● **デザイン**
ポインタのデザインを変更することができます。

「動作」タブの設定

● **速度と加速度**
ポインタの動作速度を調節します。

● **アクセラレーション**
パッド上で指をすばやく動かすことで、ポインタの移動速度を「速度」で設定した以上に速くすることができます。パッド上でゆっくり指を動かしたときは、「速度」で設定した速度で動きます。

● **オートジャンプ**
ウィンドウやダイアログボックスを開いたときに、ポインタをボタンの上に自動的に合わせるように設定できます。

● **軌跡**
「表示する」の ☐ をクリックして ☑ にすると、ポインタの軌跡が表示されます。

「タッピング」タブの設定

● タッピング

☑ をクリックして☐ にすると、タップが効かないように設定できます。

● タッピング速度

タップする速度を調節します。タップの間隔（指をパッドに触れてから離すまで）を調整することで、間違って触れただけではタップにならないように設定できます。

● ドラッグロックの設定

パッド上でドラッグをしている場合のドラッグロックの設定ができます。ドラッグしている途中でパッドから指を離しても、ドラッグしたままの状態を保つことができます。

● タイピング

キー入力時に間違ってタップされたり、ポインタが移動するのを防ぐことができます。

「ジェスチャー」タブの設定

● コーナータップ

パッドの左上角や右上角をタップする動作に、次の機能を割り当てることができます。

- ショートカットメニューの表示
- オートスクロール
- イージーキャプチャー
- ディスプレイジャンプ
- 全ウィンドウ最小化
- 最近使ったファイルの表示
- お気に入りの表示

メモ

- イージーキャプチャーは、「ペイント」などのアプリケーションを起動しなくても、NXパッドを操作して簡単な絵を作成し、起動中のアプリケーションに貼り付けることができる機能です。
- ディスプレイジャンプ機能は、デュアルディスプレイ実行中、画面間でポインタを移動させる機能です。

● ブラウザ補助機能

パッドの上端を左右どちらかになぞって指を離すと、ブラウザの「進む」「戻る」の操作ができます。

● スクロール機能

「スクロール機能を使う」の ☐ をクリックして ☑ にして「設定」ボタンを選ぶと、次の各機能を使うように設定できます。

- スクロール速度
  スクロールする速度を設定することができます。
- スクロール領域
  パッド上のスクロール機能で使用する部分を「スクロール領域」といいます。スクロール領域の広さを変更することができます。

「その他」タブの設定

●トレイアイコン

「タスクバーにアイコンを表示する」の ☑ をクリックして ☐ にすると、インジケータ領域（タスクトレイ）にNXパッドのアイコンが表示されなくなります。

● IMEキャプチャー

IMEパッドの手書き入力エリアでタップすると、絶対座標モードで入力できるようになります。「使用する」の ☐ をクリックして ☑ にすると、この機能が有効になります。

● イージーキャプチャーの設定

「イージーキャプチャーの設定」ボタンをクリックすると、次の各設定を変更できます。

イージーキャプチャーは、「ジェスチャー」タブの中の「左（または右）コーナータップ」で割り当てることができます。

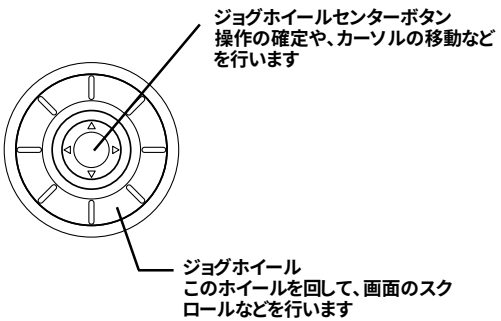
- キャンバスサイズ
  使用するキャンバスの幅、高さを変更できます。
- 線の種類
  使用する線の太さ、色を変更できます。
- オプション
  「前回のイメージを保持する」の ☐ をクリックして ☑ にすると、イージーキャプチャーで描いたイメージが保存され、次回イージーキャプチャーを開いたときに表示されます。

ジョグホイール

ジョグホイールの使いかた

このパソコンには、NXパッドの他にポインティングデバイスとしてジョグホイールが内蔵されています。ジョグホイールにはアプリケーションにより固有の操作が割り当てられている場合があります。アプリケーションごとの詳しい操作方法は、「PART3 マルチメディア機能」をご覧ください。
ここでは、一般的な操作の方法を説明します。

名称と役割

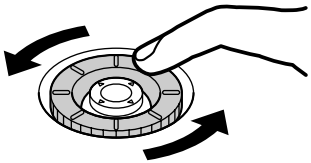


ジョグホイールを使う

ジョグホイールを使うと、画面のスクロールなどができます。ジョグホイールセンターボタンを使うと、カーソルを上下左右に移動させることができます。

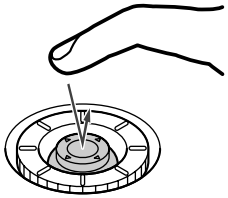
■ ジョグホイールを回す

画面を下にスクロールしたい場合は、ジョグホイールを時計回りに回します。画面を上にスクロールしたい場合は、ジョグホイールを反時計回りに回します。ジョグホイールを回すときに、センターボタンを同時に押さないようご注意ください（左右にスクロールすることはできません）。



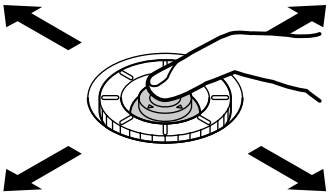
■ ジョグホイールセンターボタンを押す

ジョグホイールセンターボタンの上から垂直にボタンを1回押します。キーボードの【Enter】と同じ働きをします。



■ ジョグホイールセンターボタンを上下左右方向にたおす

カーソルを移動させることができます（ポインタの移動はできません）。
カーソルを移動させたい方向に合わせて、センターボタンを液晶側、手前、左方向、または右方向にたおすと、キーボードの【↑】【↓】【←】【→】と同じ働きをします。



インナーシートホルダー

メディア用ポケットをデザインする

メディア用ポケットとは、このパソコンのキーボード右下にあるスロットのことです。

メディア用ポケットには、透明のインナーシートホルダーがあらかじめ差しこまれており、この中にデザインされたインナーシートをはさみこんだりして、外観を自由にデザインすることができます。

インナーシートホルダーの中のシートを変える

らくちんプリントを使ってインナーシートを作成し、インナーシートホルダーの中に差しこみます。

1 シートをデザインする

らくちんプリントを使ってインナーシートを作成します。

参照

らくちんプリントの使いかた→らくちんプリントのオンラインマニュアル

2 インナーシートを印刷する

参照

- プリンタの接続のしかた→PART4の「プリンタ」(p.191)、またはプリンタに添付のマニュアル
- 印刷のしかた→らくちんプリントのオンラインマニュアル

3 印刷できたインナーシートを切り取る

4 インナーシートホルダーをパソコンから取り外す

参照

インナーシートホルダーの取り外しかた→「インナーシートホルダーを取り外す」(p.34)

5 インナーシートをインナーシートホルダーにセットする

6 インナーシートホルダーをパソコンに取り付ける

インナーシートを作成する

らくちんプリントについて

ご購入時の状態では、「らくちんプリント」はインストールされていません。「らくちんプリント」を使う場合は、添付の「アプリケーションCD-ROM」を使ってインストールしてください。

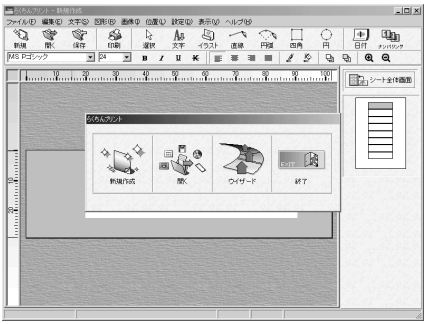
参照
「らくちんプリント」のインストール→「サポートセンタ」-「アプリケーションの追加と削除」

「らくちんプリント」は、インナーシートを作成、編集、印刷するためのアプリケーションです。
既に用意されているデザインの中からお気に入りのインナーシートを選んだり、好きな画像データを使ってオリジナルデザインのインナーシートを作成することができます。
「らくちんプリント」をご使用になる前に、プリンタを使用できる状態にしておいてください。プリンタの設定がされていないと、「らくちんプリント」を使用することはできません。

参照
プリンタの接続のしかた、ドライバのインストールのしかた→PART4の「プリンタ」(p.191)

■ インナーシートを作成する

1 「スタート」ボタン→「プログラム」→「らくちんプリント」→「らくちんプリント」をクリックする
「らくちんプリント」画面が表示されます。



2 「らくちんプリント」画面で「ウィザード」ボタンをクリックする
「ウィザード 1/5 ジャンルの選択」画面が表示されます。

3 「本機専用ラベル」が選択されていることを確認し、「次へ」ボタンをクリックする
「ウィザード 2/5 用紙の選択」画面が表示されます。

4 用紙の情報を選択し、「次へ」ボタンをクリックする
「ウィザード 3/5 デザインの選択」画面が表示されます。

5 デザインパターンを選択し、「次へ」ボタンをクリックする
「ウィザード 4/5 入力項目の指定」画面が表示されます。

6 ラベルタイトルの文字列を入力し、「次へ」ボタンをクリックする
「ウィザード 5/5 作成データの確認」画面が表示されます。

7 「完了」ボタンをクリックする

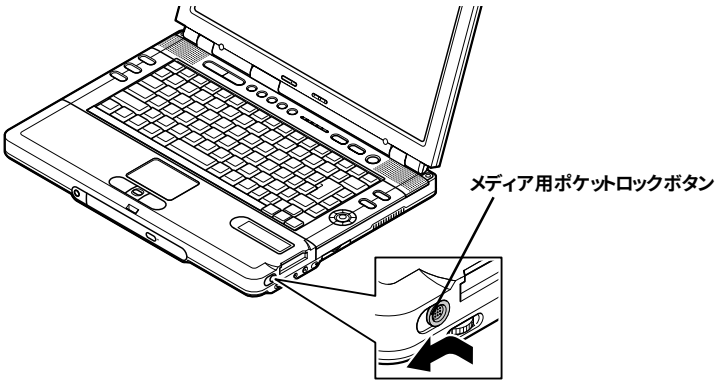
8 インナーシートが完成したら、「印刷」ボタンをクリックして印刷する

メモ

らくちんプリントでは、インナーシートの他に、名刺などを市販されているラベルシートに印刷することもできます。

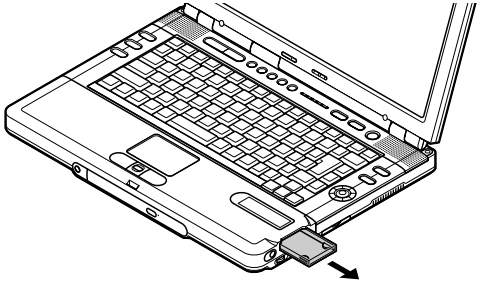
■ インナーシートホルダーを取り外す

1 メディア用ポケットロックボタンを図の矢印の方向にスライドさせる



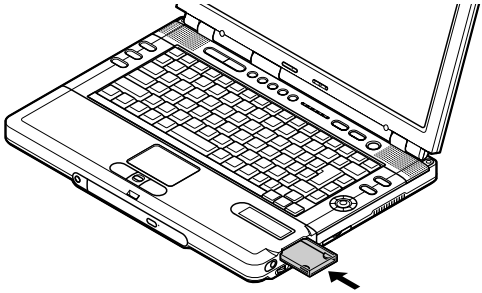
インナーシートホルダーが少しとび出します。

2 インナーシートホルダーを水平に静かに引き抜く



■ インナーシートホルダーを取り付ける

1 インナーシートホルダーの差し込む向きを確認し、ラベル面を上にして水平に静かに差しこむ



ハードディスク

ハードディスクを使用するときの注意

ハードディスクとは

ハードディスクとは、Windows Meやアプリケーションなどのソフトウェア、またはそれらで作成したデータを記録し、読み出すための装置です。非常に精密な機械なので、強い衝撃や過度の重量などが加わらないように注意してください。

チェック

データの読み書き中（ハードディスクアクセスランプ（）の点灯中）は少しの衝撃が故障の原因となる場合がありますので注意してください。

データのバックアップについて

ハードディスクが故障すると、大切なデータが失われてしまうことがあります。特に、自分で作成したデータなどは再セットアップしても元通りにはできません。
大切なデータは、フロッピーディスクやCD-R、CD-RWなどのハードディスク以外の媒体にこまめにバックアップ（コピー）をとっておくことをおすすめします。

参照

バックアップの取りかた→『困ったときのQ&A』PART1の「トラブルの予防」、または「サポートセンタ」-「トラブルの予防」-「大事なデータはバックアップを取ろう」

ハードディスクの購入時の状態

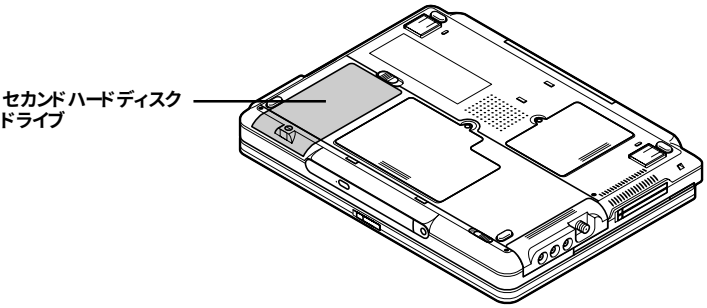
このパソコンは購入時、ハードディスク全容量の75%がCドライブ、残りの25%がDドライブに割り当てられます。
セカンドハードディスクドライブ搭載モデルの場合、全容量の50%がセカンドハードディスクドライブ、37.5%がCドライブ、12.5%がEドライブに割り当てられます。

参照

FAT32について→「FAT32ファイルシステムの利用」（p.43）

セカンドハードディスクドライブを使う

セカンドハードディスクドライブ搭載モデルにはセカンドハードディスクドライブがあらかじめ搭載されています。
セカンドハードディスクドライブが搭載されていないモデルでは別売のセカンドハードディスクドライブ（PC-VP-WU10）を利用することができます。
セカンドハードディスクを利用すると、より大量のデータをハードディスクに保存できるようになります。



チェック

セカンドハードディスクを使用中はACアダプタを本体から取り外さないでください。

セカンドハードディスクドライブの取り外しかたと取り付けかた

セカンドハードディスクドライブを取り外す

1 パソコンを使用中の場合は、「スタート」ボタン→「Windowsの終了」で、▼をクリックして「終了」を選び、「OK」ボタンをクリックして電源を切る

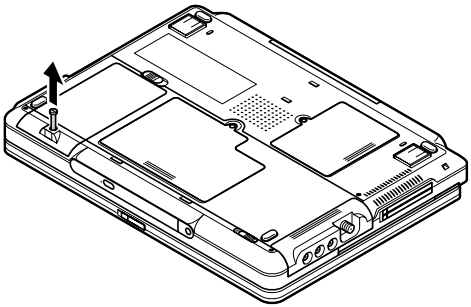
チェック

セカンドハードディスクドライブを取り付ける場合は必ず電源を切ってください。スタンバイ状態や休止状態で取り外すと、元の状態に復帰できなくなります。

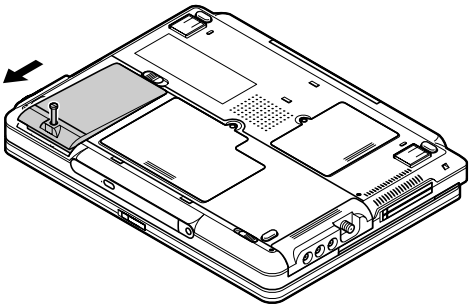
2 電源コードのプラグをACコンセントから抜いてから、ACアダプタを本体から取り外す

3 液晶ディスプレイを閉じて、本体を裏返す

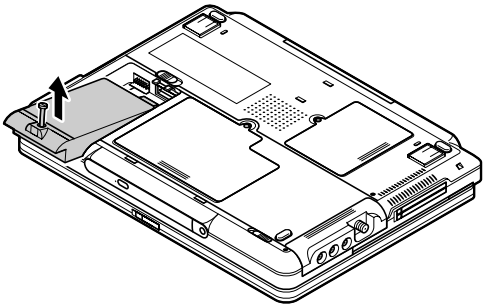
4 マイナスドライバでネジを緩め、ネジを上方に持ち上げる



5 ネジを上方に持ち上げたまま、セカンドハードディスクドライブをコネクタから外れるまで矢印の方向に引っぱる



6 ネジを上方に持ち上げたまま、セカンドハードディスクドライブを矢印の方向に持ち上げて取り外す



セカンドハードディスクドライブを取り付ける

バッテリパックを使用している場合は、あらかじめバッテリパックを取り外しておいてください。

参照
バッテリパックを取り外す→このPARTの「バッテリ」の「バッテリパックを交換する」（p.76）

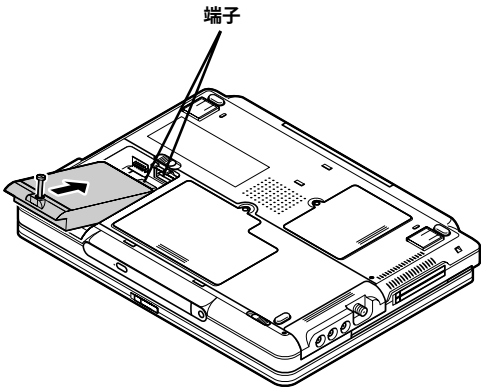
1 パソコンを使用中の場合は、「スタート」ボタン→「Windowsの終了」で、▼をクリックして「終了」を選び、「OK」ボタンをクリックして電源を切る

チェック
セカンドハードディスクドライブを取り付ける場合は必ず電源を切ってください。スタンバイ状態や休止状態で取り付けると、元の状態に復帰できなくなります。

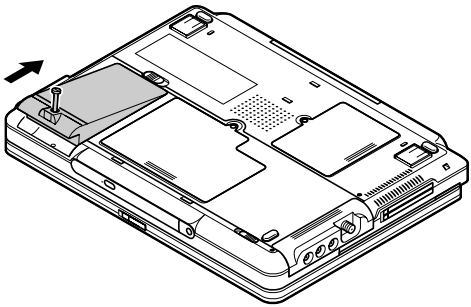
2 電源コードのプラグをACコンセントから抜いてから、ACアダプタを本体から取り外す

3 液晶ディスプレイを閉じて、本体を裏返す

4 セカンドハードディスクドライブを端子の位置に注意してバッテリスロットにセットする



5 セカンドハードディスクドライブをできるだけ本体背面に水平にして図の矢印の方向にセカンドハードディスクドライブを押し込む



6 マイナスドライバでネジを締める

ハードディスクの領域の確保とフォーマット

ハードディスクの領域を削除した場合や、新たにハードディスクを増設した場合などには、ハードディスクの領域の確保とフォーマットが必要です。
ハードディスクの領域の確保とフォーマットは、「容量の確認」→「領域の確保」→「フォーマット」の順に行います。

ハードディスクの容量の確認

はじめに、領域を確保しようとしているハードディスクの容量を確認します。

1 「スタート」ボタン→「プログラム」→「アクセサリ」→「MS-DOSプロンプト」をクリックする
次のように表示されます。

```
C:¥WINDOWS>
```

2 次のように入力する

```
FDISK ↵
```

「大容量ディスクのサポートを使用可能にしますか(Y／N)」と表示されます。

メモ

「FDISK」コマンドは「領域の確保」「領域の削除」「ハードディスクの状態の確認」を行うプログラムです。

3 「Y」を選んで【Enter】を押す
「FDISKオプション」の画面が表示されます。

4 「4」を入力し、【Enter】を押す

5 表示された画面でハードディスクの容量を確認する

6 【Esc】を押す

7 【Esc】を押す
次のように表示されます。

```
C:¥WINDOWS>
```

ハードディスクの領域の確保

1 次のように入力する
・ハードディスクの総容量が8,192Mバイト以下の場合

```
FDISK /x ↵
```

・ハードディスクの総容量が8,193Mバイト以上の場合

```
FDISK ↵
```

「大容量ディスクのサポートを使用可能にしますか(Y／N)」と表示されます。

2 「Y」を入力する
FAT32ファイルシステムで領域を作成します。
より効率よく大容量ハードディスクを利用することができます。
「N」を入力した場合は、FAT16ファイルシステムで領域を作成します。
最大2Gバイトまでの容量をひとつのドライブとして扱えます。

「FDISKオプション」の画面が表示されます。

3 「1」を入力し【Enter】を押す
領域を作成する画面が表示されます。

4 「2」を入力し【Enter】を押す
「領域のサイズをMバイトか全体に対する割合(%)で入力してください.拡張MS-DOS領域を作ります」と表示されます。

チェック

確保される領域は、入力した領域サイズよりも大きくなる場合があります。例えば、FAT16で2,047Mバイトを取得しようとすると、2,052Mバイトなどの値になり、FAT16で取得できない場合があります。このような場合は、2,047Mバイトより小さい値で入力してください。

5 【Enter】を押す
「拡張MS-DOS領域を作成しました.」と表示されます。

6 【Esc】を押す

7 サイズを入力して【Enter】を押す

8 拡張MS-DOS領域がなくなるまで手順7をくりかえし、すべての拡張MS-DOS領域を論理ドライブに割り当てる

9 【Esc】を3回押す
次のように表示されます。

```
C:¥WINDOWS>
```

10 次のように入力する

```
EXIT ↵
```

Windows Meの画面に戻ります。

11 「スタート」ボタン→「Windowsの終了」で▼をクリックして「再起動」を選び、「OK」ボタンをクリックする
Windowsが再起動します。

ハードディスクをフォーマットする

領域を確保したら、続いてハードディスクをフォーマットします。

1 「マイコンピュータ」アイコンをダブルクリックする

2 新たに領域を確保したドライブをクリックする

3 「ファイル」メニュー→「フォーマット」をクリックする
「フォーマット」の画面が表示されます。

4 「通常のフォーマット」をクリックする

5 「開始」ボタンをクリックする
確認の画面が表示されます。

6 「OK」ボタンをクリックする
フォーマットが始まります。
しばらくすると、フォーマットが終了してフォーマットの結果が表示されます。

7 「閉じる」ボタンをクリックする
スキャンディスクの実行をうながす画面とヘルプが表示されます。

8 「OK」ボタンをクリックする

9 「フォーマット」画面をクリックする

10 「閉じる」ボタンをクリックする

11 ヘルプにしたがって、スキャンディスクを実行する
複数の領域を確保したいときは、手順2〜11の操作をくりかえしてください。

FAT32ファイルシステムの利用

FATとは

FAT(File Allocation Table)ファイルシステムとは、MS-DOSやWindowsで、ディスクのどの場所にどのようなファイルがあるかを記録／管理するシステムのことです。Windows Meでは次の2つのFATファイルシステムをサポートしています。

● FAT32

FAT16を拡張したファイルシステムです。FAT32では理論上2Tバイト(2,048Gバイト)までの容量を扱うことができます。またFAT16よりも効率よく大容量ハードディスクを利用することができます。

参照
FAT32に関する情報→「Windows」フォルダのGENERAL.TXT

● FAT16

MS-DOSや従来のWindowsで使われている基本的なファイルシステムです。最大2Gバイトまでの容量をひとつのドライブとして扱うことができます。

FAT32ファイルシステムを使用するときの注意

FAT32を使用するときは、次の注意事項を確認してから使用してください。

- FAT32はこのパソコンにインストールされているWindows Meでのみ使うことができます。
- 購入時の状態では、FAT32ファイルシステムでハードディスクの領域が確保されています。購入時の状態で使用する場合は、ここでFAT32の設定を行う必要はありません。
- 別売のアプリケーションによっては正しく動作しないことがあります。
- スキャンディスク、バックアップ、およびデフラグなど、「アクセサリ」の「システムツール」にあるディスク管理ツールはFAT32に対応しています。ただし、「ドライブスペース」でFAT32のドライブを圧縮することはできません。

「FDISK」コマンドでFAT32の領域を作成する

1 「スタート」ボタン→「プログラム」→「アクセサリ」→「MS-DOSプロンプト」をクリックする
「MS-DOSプロンプト」画面が表示されます。

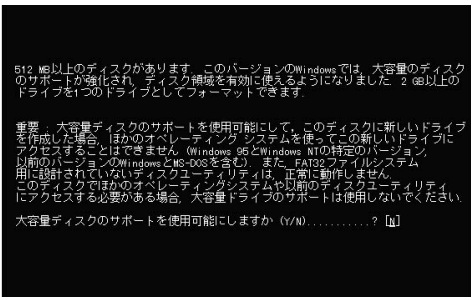
2 次のように入力する
・ハードディスクの総容量が8,192Mバイト以下の場合

```
FDISK /x
```

・ハードディスクの総容量が8,193Mバイト以上の場合

```
FDISK
```

ハードディスクの容量が512Mバイト以上のときは、次のような大容量ディスクのサポートを行うかどうかを確認するメッセージが表示されます。



参照
ハードディスクの容量を確認する→「ハードディスクの容量の確認」(p.40)

3 【Y】を押して【Enter】を押す

4 領域を作成する
512Mバイト以上の領域を作成すると、その領域にはFAT32が適用されます。作成した領域が512Mバイトよりも小さいときには自動的にFAT16が適用されます。

5 領域の作成が終了したら、【Esc】を押す

6 次のように入力する

7 「スタート」ボタン→「Windowsの終了」で▼をクリックして「再起動」を選び、「OK」ボタンをクリックする
Windowsが再起動します。

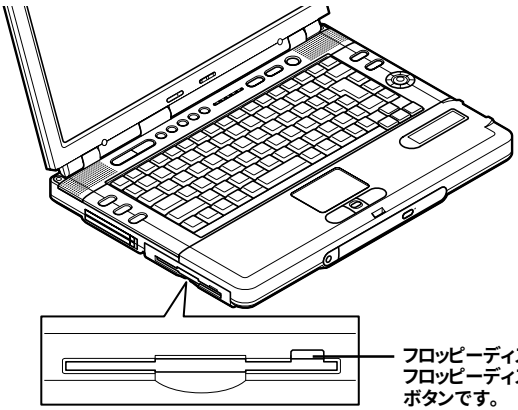
8 作成したドライブをフォーマットする(→p.42)

フロッピーディスクドライブ

チェック

購入時にはTVチューナパックが取り付けられています。フロッピーディスクドライブを使用する場合は、TVチューナパックを外して、添付のフロッピーディスクドライブを取り付けてください（→p.48）。

名称と役割



このパソコンで使用できるフロッピーディスクの種類

このパソコンのフロッピーディスクドライブでは、次の形式のフロッピーディスクを使うことができます。

チェック

1.2Mバイトのフロッピーディスクを使用するには、3モード対応フロッピーディスクドライバが必要です。添付の「アプリケーションCD-ROM Vol.2」の中に入っているREADME.TXTをご覧になり、セットアップを行ってください。
EドライブにCD-ROMをセットした場合
E:¥win98¥3modefd¥readme.txt

作業内容 / フォーマット	データの読み書き	フォーマット	ディスクコピー
640Kバイト	―	―	―
720Kバイト	○	○	○
1.2Mバイト	△	―	―
1.44Mバイト	○	○	○

○：使用可
―：使用不可
△：3モード対応フロッピーディスクドライバが必要

フロッピーディスクドライブを使用するときの注意

- TVチューナパックとフロッピーディスクドライブを交換するときは、必ずパソコンの電源を切ってから作業してください。電源を入れたままで交換を行うと、TVチューナパックやフロッピーディスクドライブの故障の原因となります。
- このパソコンでは、PC-9800シリーズのパソコンでフォーマットされたフロッピーディスクを使ってシステムを起動することはできません。
- Windowsの「ディスクのコピー」、またはMS-DOSプロンプトのDISKCOPYコマンドでコピーを行うときは、コピー先のフロッピーディスクは、コピー元のフロッピーディスクと同じ容量でフォーマットされたものを使用してください。
- フォーマットしていないフロッピーディスクをマイコンピュータなどで選択すると、フロッピーディスクアクセスランプ（凹）が点灯し続けたり、フォーマットしようとするとフォーマット開始までの時間が長くかかる場合があります。これは、フロッピーディスクの種類を判別しているためなので、処理が開始されるまでしばらくお待ちください。
- MS-DOS Ver.6.2以前のFORMATコマンドでフォーマットしたフロッピーディスクを、MS-DOSプロンプトからDISKCOPYコマンドでディスクコピーすることはできません。「マイコンピュータ」の「3.5インチFD」アイコンを右クリックし、「メニュー」から「ディスクのコピー」を実行してください。
- 2DDのフロッピーディスクを720KBでフォーマットした場合、いったんフロッピーディスクを取り出し、もう一度入れ直してから使用してください。フォーマット後に、フロッピーディスクを入れ直さずにファイルを書き込もうとすると、フォーマットが正常に終了していても、エラーが発生する場合があります。
  クイックフォーマットされたフロッピーディスクの場合は、この手順は必要ありません。

フロッピーディスクドライブの取り付けかた

添付のフロッピーディスクドライブを使用する場合には、TVチューナパックを取り外します。

⚠注意

●パソコンの使用直後は、TVチューナパックおよびその周辺が熱くなっていますので、取り扱いにご注意ください。
TVチューナパックを取り外す場合には、パソコンの電源を切って数分たってから行うことをお勧めします。

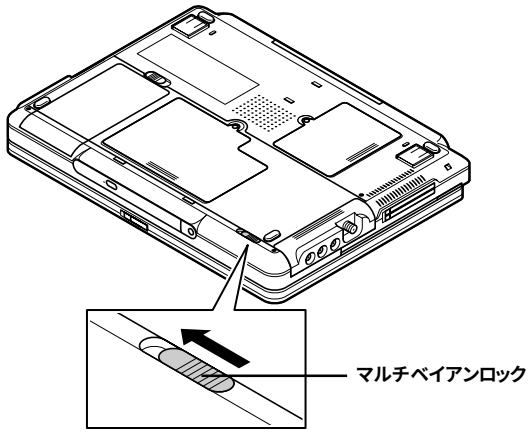
1 パソコンを使用中の場合は、「スタート」ボタン→「Windowsの終了」で▼をクリックして「終了」を選び、「OK」ボタンをクリックして電源を切る

2 電源コードのプラグをACコンセントから抜いてから、ACアダプタをパソコンから取り外す

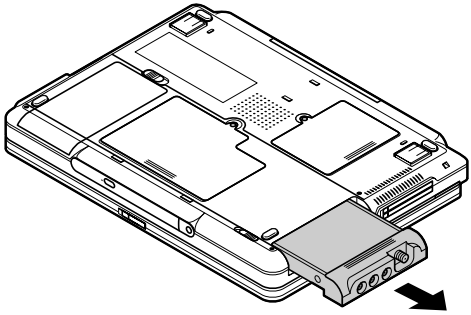
3 パソコンからアンテナケーブルを取り外す

4 液晶ディスプレイを閉じて、パソコンを裏返す

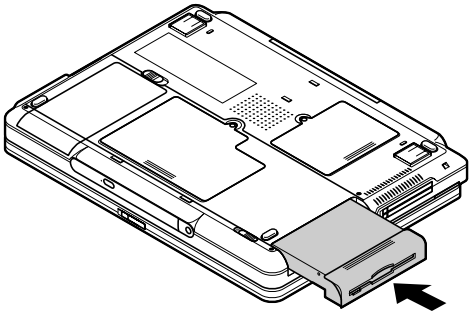
5 マルチベイアンロックを矢印の方向へスライドさせる
スライドさせたままの状態で、次の手順に進んでください。



6 TVチューナパックを矢印の方向にスライドさせる
TVチューナパックがはずれます。



7 フロッピーディスクドライブを矢印の方向にカチッという音がするまで差し込む
これで、接続の終了です。

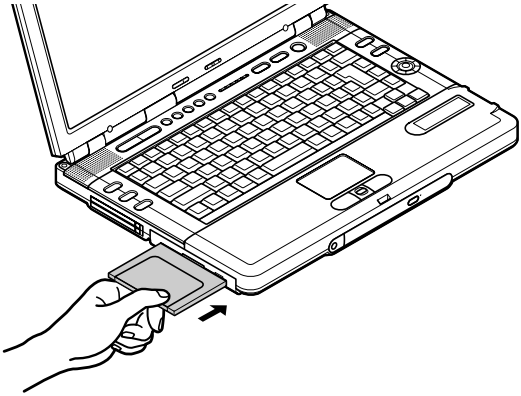


パソコンでテレビを見るときには、同様の手順でフロッピーディスクドライブを取り外し、TVチューナパックを取り付けてください。

フロッピーディスクのセットのしかたと取り出しかた

フロッピーディスクをセットする

1 カチッと音がするまでフロッピーディスクをゆっくりと水平に差し込む
フロッピーディスクがセットされるとイジェクトボタンが少し飛び出します。

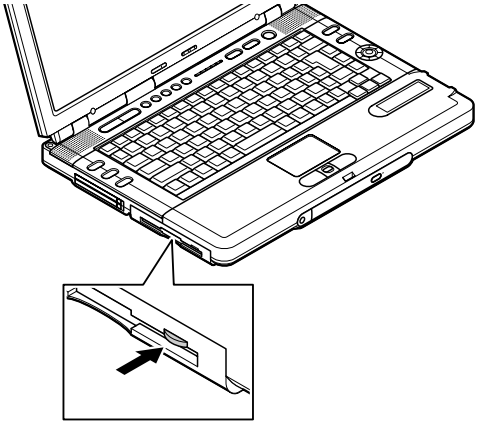


フロッピーディスクを取り出す

チェック

フロッピーディスクに書き込み中、または読み取り中は、フロッピーディスクアクセスランプ(凹)が点灯します。アクセスランプ点灯中は、絶対にフロッピーディスクを取り出さないでください。ドライブの故障やデータの不具合の原因となります。

1 イジェクトボタンを押す
フロッピーディスクが少し飛び出します。



2 フロッピーディスクをゆっくりと水平に引き出す

フロッピーディスクをフォーマットする

1 フロッピーディスクをセットする

2 「マイコンピュータ」アイコンをダブルクリックする
「マイコンピュータ」画面が開きます。

3 「3.5インチFD」アイコンをクリックする

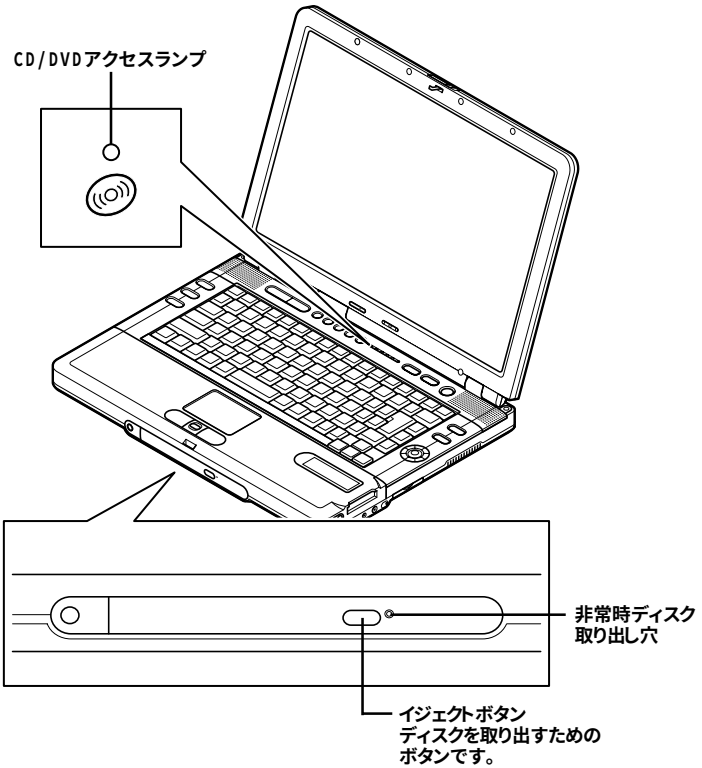
4 「ファイル」メニュー→「フォーマット」をクリックする
「フォーマット」画面が表示されます。

5 「フォーマットの種類」から実行するフォーマットの種類を選ぶ
はじめてフォーマットをするフロッピーディスクのときは「通常のフォーマット」を選んでください。

6 「開始」ボタンをクリックする
フォーマット作業が始まります。

CD-R/RW with DVD-ROMドライブ

名称と役割



メモ

CD-R/RW with DVD-ROMドライブのボタンや非常時ディスク取り出し穴の位置や形状は、イラストと多少異なることがあります。

使用できるディスク

● 再生可能なディスク
音楽CD、ビデオCD、フォトCD、DVD VIDEOディスク

● 読み込み可能なディスク
CD-ROM、CD-R、CD-RW、DVD-ROM

● 書き込み可能なディスク
CD-R、CD-RW

● 書き換え可能なディスク
CD-RW

■CD-RやCD-RWへの書き込み

使用できるCD-RおよびCD-RWは、ISO9660に準拠したディスクです。書き込みできる容量は、使用するアプリケーションによって異なりますので、詳しくはアプリケーションのヘルプをご覧ください。
CD-RまたはCD-RWに書き込みするときは、「Easy CD Creator」または「DirectCD」というアプリケーションを使用します。それぞれの機能や使用方法については、「Easy CD Creatorを使う」(p.58)または「DirectCDを使う」(p.61)をご覧ください。

■CD-RやCD-RWへ書き込むときの注意

- お客様がオリジナルのCD-ROM、音楽CD、ビデオCDなどからのコピー作成およびその利用のための著作権を所有していなかったり、著作権の所有者からコピーの許可を得ていない場合は、使用許諾条件または著作権法に違反する場合があります。コピーの際は、オリジナルのCDの使用許諾条件、複製に関する注意事項にしたがってください。
- Easy CD Creatorなど、Track at once(トラック アット ワンス)方式やDisk at once(ディスク アット ワンス)方式で書き込みを行うアプリケーションでは、CD-R、CD-RWへのデータ書き込み中に、他のアプリケーションを使用したり、自動的に省電力機能や一定時間が経過してスクリーンセーバーが働いたり、メールの自動受信プログラムなどが常駐していると、書き込みエラー(バッファアンダーラン)が発生する場合があります。書き込みエラーの発生を抑えるため、データ書き込みの際は、他の動作プログラムを閉じ、省電力機能や常駐するプログラムを無効(オフ)にすることをおすすめします。
- バッテリの残量がなくなると、書き込みエラーの原因になります。バッテリのみでパソコンを使用している場合は、書き込みを行う前にACアダプタを接続して、ACコンセントから電源を供給してください。
- パソコンに振動や衝撃をあたえないでください。書き込みエラーの原因となります。

メモ

- ディスクにデータを書き込むために、パソコンはCD-R/RW with DVD-ROMドライブにデータを転送しています。転送されてきたデータはCD-R/RW with DVD-ROMドライブのバッファ（データの一時的な蓄積場所）に貯められてからディスクに書き込まれますが、途中で割り込んでくる操作（たとえばスクリーンセーバーの起動など）があると、バッファへのデータの転送に遅れが生じてバッファが空になってしまい、ディスクへの書き込みに失敗してしまうことがあります。このような現象を「バッファアンダーラン」と呼びます。
- DirectCDなど、Packet Write（パケット ライト）方式で書き込みを行うアプリケーションでは、書き込みエラー（バッファアンダーラン）は起こりません。

- 書き込みに失敗したCD-Rは再生できなくなります。書き込みの失敗によるCD-Rの補償はできませんので注意してください。
- DirectCDを使って、データの書き込みや削除をくりかえすと、CD-Rの空き容量が減っていきます。
- フォーマット形式などによっては、他のCD-ROMドライブ、CD-R/RWドライブでは使用できない場合があります。
- 市販されているCD-RおよびCD-RWの一部に規格外のものがあります。規格外のCD-RおよびCD-RWでは正常に読み込めない場合があります。
- データを書き込んだCD-RWを他のパソコンで読む場合、マルチリード対応のCD-ROMドライブを使用してください。マルチリード対応CD-ROMドライブの確認は、各メーカーにお問い合わせください。

メモ

マルチリード対応のCD-ROMドライブとは、CD-RWを読み出せるようにしたCD-ROMドライブのことです。CD-RWはCD-ROMに比べて光の反射率が低いため、マルチリードに対応していないCD-ROMドライブでは読み出すことができません。

CD-R/RW with DVD-ROMドライブを使用するときの注意

CD-R/RW with DVD-ROMドライブ内のレンズには触れないでください。指紋などの汚れによってデータが正しく読み取れなくなるおそれがあります。

- 本体のCD/DVDアクセスランプ（ ）が点灯しているときは、ディスクを絶対に取り出さないでください。故障の原因となります。
- ディスクの盤面にはラベルやテープなどを貼らないでください。故障の原因となることがあります。またラベルやテープが貼られているなど、重心バランスの悪いディスクを使用すると、操作中に手に振動を感じることがあります。

ディスクのセットのしかたと取り出しかた

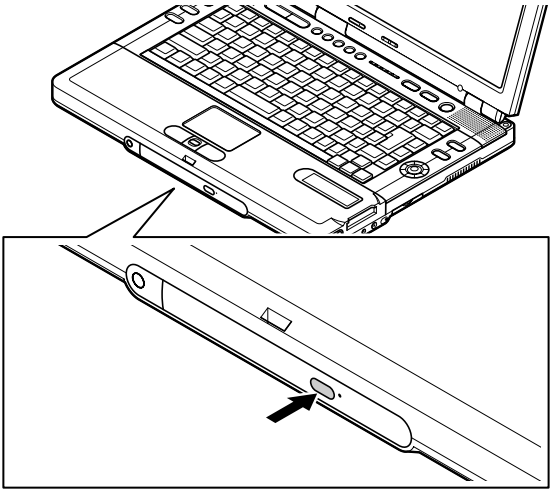
ディスクをセットする

メモ

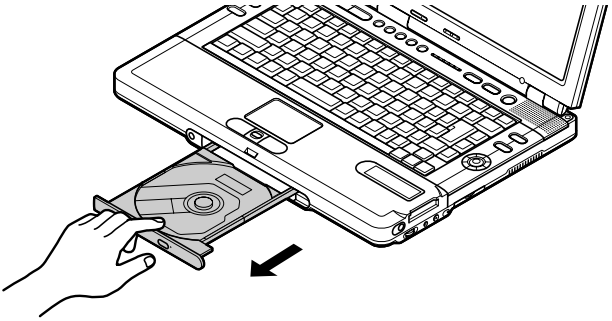
パソコンの電源が入っていない場合は、ディスクをセットすることはできません。パソコンの電源を入れるか、オーディオ電源スイッチ（♪）を押してCDプレイモードにしてください。また、スタンバイ状態でもディスクをセットすることはできます。

1 イジェクトボタンを押す

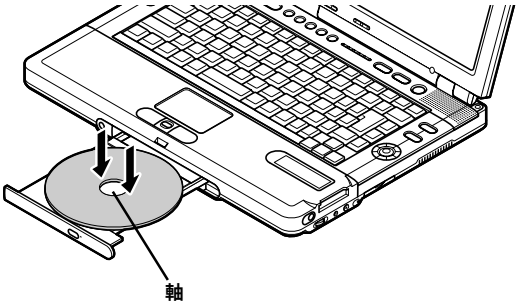
ディスクトレイが少し飛び出します。



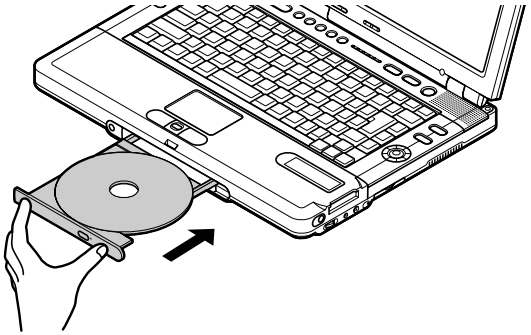
2 手でディスクトレイを静かに引き出す



3 ディスクのデータ面（文字などが印刷されていない面）を下にして、傷など付けないようディスクトレイの中央に置き、ディスクを軸にしっかりはめ込む



4 イジェクトボタンに触れないようにディスクトレイ前面を押して、ディスクトレイを元の位置に戻す



ディスクを取り出す

メモ

パソコンの電源が入っていない場合は、ディスクを取り出すことはできません。パソコンの電源を入れるか、オーディオ電源スイッチ（♪）を押してCDプレイモードにしてください。また、スタンバイ状態でもディスクを取り出すことはできます。

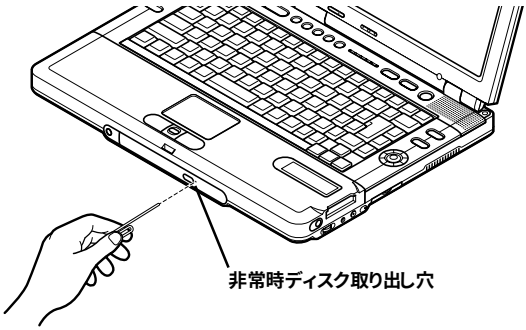
1 イジェクトボタンを押す
ディスクトレイが少し飛び出します。

2 手でディスクトレイを静かに引き出してから、ディスクを取り出す

3 イジェクトボタンに触れないようにディスクトレイの前面を押して、ディスクトレイを元の位置に戻す

ディスクを取り出せなくなった場合は

ソフトウェアの暴走など不慮の原因で、イジェクトボタンを押してもディスクトレイが出てこなくなった場合は、非常時ディスク取り出し穴に太さ1.3 mm程の針金を押し込むと、トレイを手動で引き出すことができます。針金は太めのペーパークリップなどを引き伸ばして代用できます。



チェック

イジェクトボタンを押してもディスクトレイが出てこない、といった非常時以外は、非常時ディスク取り出し穴を使わないようにしてください。

CDやDVDを再生する

このパソコンにはCD/DVDプレーヤボタンが内蔵されています。このボタンを使って、CDやDVD VIDEOディスクを再生するための「Jet-Audio Player」の操作を行うことができます。また、電源が切れている、またはスタンバイ状態や休止状態の場合にも、CDプレイモードを使ってCD/DVDプレーヤボタンで音楽CDを再生することができます。

メモ

- 電源が切れている、またはスタンバイ状態や休止状態のときに、CDプレイモードでDVDを入れるとパソコンの電源が入り、DVDが再生されます。
- DVD VIDEOディスクは、リージョンコード（国別地域番号。日本は2です）によって管理されているため、リージョンコードが2もしくはフリーに設定されているディスクのみ再生することができます。海外で購入したDVD VIDEOディスクについては、特にこの点に注意してください。

参照

- CD/DVDプレーヤボタンの使いかた→PART3の「CDプレイモードで音楽CDを再生する」（p.132）
- 「DVDプレーヤ」の使いかた→「添付ソフトの使い方」-「Jet-Audio Player」

■ DVD VIDEOディスクの映像をテレビに表示する

このパソコンは、再生しているDVD VIDEOディスクの映像を、接続しているテレビに表示することができます。

参照

- DVD VIDEOディスクを再生する→PART3の「映像の再生／編集機能」（p.137）
- パソコンにテレビを接続する、DVD VIDEOディスクの映像をテレビに表示する→PART4の「外部ディスプレイを使う」（p.200）

Easy CD Creatorを使う

Easy CD Creatorは、CD-RやCD-RWにデータを書き込むことができるアプリケーションです。データを書き込む以外にも、音楽CDを作成したり、CD全体のバックアップなどの機能があります。ここでは、基本的なデータを書き込む操作について説明します。そのほかの機能について詳しくは、ヘルプをご覧ください。

メモ

Easy CD Creatorで書き込んだCD-RWは、マルチリード対応のCD-ROMドライブで読み出すことができます。

データを書き込む

ここでは、CD-Rを使ったデータの書き込みについて説明します。
はじめに、CD-Rを用意しておいてください。なお、CD-RWの場合でも同様の手順で利用できます。その際はCD-RをCD-RWに読み替えてください。

1 CD-RをCD-R/RW with DVD-ROMドライブにセットする
次の画面が表示されます 。

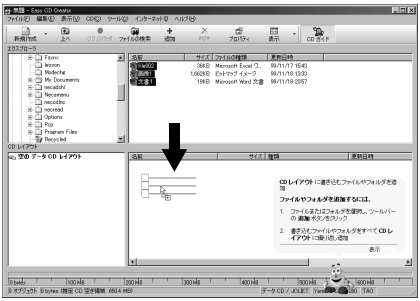
2 メニューから「データ」をクリックし、「データCD」をクリックする

3 画面の上段で、書き込みたいデータがあるフォルダを選び、データのファイル名を表示させる

Copyright © 1994 - 2001 Adaptec,Inc. All rights reserved.

4 書き込みたいデータのファイル名を選んで、画面の下段にドラッグ&ドロップする

書き込むデータが画面の下段に表示されます。このとき、まだ書き込みは開始していません。



画面は多少異なる場合があります。

メモ

- ファイル名を選んだ後、＋ 追加 （追加）ボタンを押しても同様の操作ができます。
- 書き込みたいデータがほかにもある場合は、手順3～4をくりかえしてください。
- 下段に表示されたデータの中で書き込みを取りやめたいものがあれば、そのファイル名を選んで × 削除 （削除）ボタンをクリックしてください。

5 CD の作成 （CDの作成）ボタンをクリックする

6 「CD作成セットアップ」画面が表示されるので、「OK」ボタンをクリックする

書き込みを開始します。

「コンパティビリティの警告」画面が表示された場合は、「OK」ボタンをクリックしてください。

7 書き込み終了後、「CD作成が成功しました。」と表示されたら「OK」ボタンをクリックする

「CDレイアウトの変更を無題に保存します。」というメッセージが表示されます。書き込みが正常に終了した場合は保存の必要がないので、「いいえ」ボタンをクリックしてください。書き込みに失敗した場合や同じデータを別のCD-Rに書き込む場合は、「はい」ボタンをクリックして保存してください。

8 画面右上の × ボタンをクリックし、Easy CD Creatorを終了する

DirectCDを使う

DirectCDを使うと、フロッピーディスクやハードディスクと同じような感覚で、CD-RやCD-RWにデータを保存したり移動したりすることができます。簡単にデータを保存することができるので、データのバックアップなどに適しています。
ここでは、DirectCDを使ってCD-RまたはCD-RWにデータを書き込むときの基本的な操作を説明しています。
そのほかの機能や使いかたについて詳しくは、ヘルプをご覧ください。

準備をする

DirectCDで使用するCD-RまたはCD-RWは、フォーマットされている必要があります。データを書き込む前に、次の手順でフォーマットしてください。すでにフォーマットされたCD-RまたはCD-RWを使用する場合は、この手順は必要ありません。次の「DirectCDで書き込む」の手順でデータの書き込みを行ってください。

1 CD-RまたはCD-RWをCD-R/RW with DVD-ROMドライブにセットする
次の画面が表示されます。
フォーマット済みのCD-RまたはCD-RWをセットした場合、「CDの準備ができました」と表示されます。次の「DirectCDで書き込む」の手順2に進んで、データの書き込みを行ってください。

2 メニューから「データ」をクリックし、「DIRECT CD」をクリックする
Adaptec DirectCD ウィザードの画面が表示されます。

3 「次へ」ボタンをクリックする
レコーダ情報の画面が表示されます。

4 「次へ」ボタンをクリックする
CDのフォーマットの画面が表示されます。

5 「次へ」ボタンをクリックする
CD名を付ける画面が表示されます。

6 「CD名」欄にCD名を入力して、「完了」ボタンをクリックする
CD名を付けておくと、あとから何のデータが入っているCDかを検索したいときに便利です。特に付ける必要がない場合は、何も入力しないで「完了」ボタンをクリックしてください。

7 処理時間を確認する画面が表示された場合は、処理時間を確認して「OK」ボタンをクリックする
フォーマットが始まりますので、そのまましばらくお待ちください。
フォーマットが終了すると「CDの準備ができました」と表示されます。

8 「OK」ボタンをクリックする
CD-R/RW with DVD-ROMドライブの画面が自動的に開いた場合は、 ボタンをクリックして画面を閉じてください。

これで、CD-RまたはCD-RWをDirectCDで使用するための準備ができました。このまま続けてデータの書き込みを行う場合は、次の「DirectCDで書き込む」の手順3に進んでください。

DirectCDで書き込む

1 DirectCDでフォーマットしたCD-RまたはCD-RWをCD-R/RW with DVD-ROMドライブにセットしていない場合はセットする
「CDの準備ができました」と表示されます。

2 「OK」ボタンをクリックする

3 CD-RまたはCD-RWにデータを書き込む
フロッピーディスクやハードディスクと同じように、「マイコンピュータ」や「エクスプローラ」を使ってデータを書き込むことができます。

CD-RまたはCD-RWを取り出す

DirectCDを使用しているときは、ディスクによって取り出しかたが異なります。

■ CD-Rを取り出す

CD-Rを取り出すときは、DirectCDで書き込んだCD-RをほかのパソコンのCD-ROMドライブで読み出すことができるようにするかどうかを選ぶ必要があります。

1 CD-R/RW with DVD-ROMドライブのイジェクトボタンを押す
「CDの取り出し」画面が表示されます。

メモ

インジケータ領域(タスクトレイ)に表示されているを右クリックし、表示されたメニューから「取り出し」をクリックしても同様の操作ができます。

2 CD-Rに、ほかのパソコンのCD-ROMドライブでも読み出せるように処理を行うかどうかを選ぶ

次もDirectCDで使用する場合は、「次回、このCDへはDirectCDで読み書きを行います。」がになっていることを確認してください。

ほかのパソコンのCD-ROMドライブで読み出したい場合は、「Windows 95/98、Windows NT 4.0(SP3以上)およびWindows 2000のCD-ROMドライブで読み込めるようにCDを構成します。」のをクリックしてにします。また、必要であれば「再び書き込みができないように、CDを書き込み禁止にする」のをクリックしてにしてください。

メモ

「Windows 95/98、Windows NT 4.0(SP3以上)およびWindows 2000のCD-ROMドライブで読み込めるようにCDを構成します。」を選んで取り出した後、再度DirectCDで書き込みを行いたい場合は、を右クリックして「書き込み可能にする」を選び、設定を行ってください。

3 「完了」ボタンをクリックする

「CDは取り出されました。」と表示されるまで、そのまましばらくお待ちください。自動的にディスクトレイが少し飛び出します。

4 表示されているメッセージを確認して、「OK」ボタンをクリックする

チェック

書き込んだCD-Rを読み出すことができる環境についてのメッセージが表示されています。表示されたメッセージ以外の環境では、このCD-Rを読み出すことはできません。

5 CD-R/RW with DVD-ROMドライブからCD-Rを取り出し、ディスクトレイを元の位置に戻す

■ CD-RWを取り出す

1 CD-R/RW with DVD-ROMドライブのイジェクトボタンを押す

しばらくすると、「CDは取り出されました。」と表示され、ディスクトレイが少し飛び出します。

メモ

インジケータ領域（タスクトレイ）に表示されている を右クリックし、表示されたメニューから「取り出し」をクリックしても同様の操作ができます。

2 表示されているメッセージを確認して「OK」ボタンをクリックする

チェック

書き込んだCD-RWを読み出すことができる環境についてのメッセージが表示されています。表示されたメッセージ以外の環境では、このCD-RWを読み出すことはできませんので注意してください。

3 CD-R/RW with DVD-ROMドライブからCD-RWを取り出し、ディスクトレイを元の位置に戻す

液晶ディスプレイ

画面表示を調整する

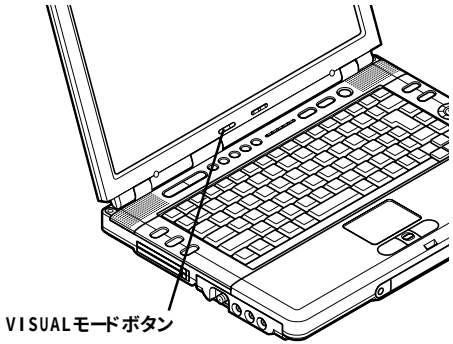
このパソコンでは、キーボードの【Fn】やボタンを使って画面表示の調整ができます。

明るさを調整する

■ キーボードを使う

機能	キー操作	説明
輝度を上げる(▲☼)	【Fn】＋【F8】	キーを押すごとに、液晶ディスプレイの輝度が増加します(8段階)。
輝度を下げる(▼☼)	【Fn】＋【F9】	キーを押すごとに、液晶ディスプレイの輝度が低下します(8段階)。

■ VISUALモードボタンを使う



VISUALモードボタンを押すとVISUALモードのオン／オフが切り替わります。VISUALモードにすると、バックライトが明るくなります(VISUALモード時は、VISUALモードランプが緑色に点灯します)。

画面の伸縮を調整する

■ キーボードを使う

機能	キー操作	説明
画面の伸縮	【Fn】＋【F10】	低解像度時に、ディスプレイの画面を拡大表示する／しないを切り替えます。

表示できる解像度と表示色

メモ

解像度とは、ディスプレイの画面上に表示できる文字や図面などの情報量を表すものです。この数字が大きくなるほど、画面上に一度に多くの情報を表示することができ、より細かな表現ができます。

このパソコンでは、標準で次の解像度と表示色を表示できます。

解像度（ドット）	表示色	液晶ディスプレイのみに表示	別売のディスプレイのみに表示	液晶ディスプレイと別売のディスプレイの同時表示※1	テレビのみ
640×480	26万色中256色	①	◎	④	◎
	65,536色	①	◎	④	◎
	1,677万色※2	①	◎	④	◎
800×600	26万色中256色	①	◎	④	◎
	65,536色	①	◎	④	◎
	1,677万色※2	①	◎	④	◎
1,024×768	26万色中256色	②	◎	⑤	◎
	65,536色	②	◎	⑤	◎
	1,677万色※2	②	◎	⑤	◎
1,280×768	26万色中256色	◎	×	⑥	⑧
	65,536色※3	◎	×	⑥	⑧
	1,677万色	◎	×	⑥	⑧
1,280×1,024	26万色中256色	③	◎	⑦	⑧
	65,536色	③	◎	⑦	⑧
	1,677万色	③	◎	⑦	⑧
1,600×1,200	26万色中256色	③	◎	⑦	⑧
	65,536色	③	◎	⑦	⑧
	1,677万色	③	◎	⑦	⑧

◎：フルスクリーン表示可能
×：表示不可

①：【Fn】押しながら【F10】を押して拡大／縮小切り替え可能（拡大画面の場合、縦横比が正しく表示されない）
②：【Fn】押しながら【F10】を押して拡大／縮小切り替え可能（拡大画面の場合、縦横比が正しく表示されず、縮小画面の場合、画面の両端が黒く表示される）
③：バーチャルスクリーンでのみ表示可能で、【Fn】押しながら【F10】を押して拡大／縮小切り替え可能（拡大画面の場合、縦横比が正しく表示されず、縮小画面の場合、画面の両端が黒く表示される）
④：【Fn】押しながら【F10】を押して拡大／縮小切り替え可能（縮小画面の場合、縦横比が正しく表示されない）
⑤：【Fn】押しながら【F10】を押して拡大／縮小切り替え可能（縮小画面の場合、縦横比が正しく表示されず、画面の両端が黒く表示される）
⑥：【Fn】押しながら【F10】を押して拡大／縮小切り替え可能（別売のディスプレイの縦横比が正しく表示されない）
⑦：バーチャルスクリーンでのみ表示可能で、【Fn】押しながら【F10】を押して拡大／縮小切り替え可能（拡大画面の場合、画面の両端が黒く表示され、縮小画面の場合、縦横比が正しく表示されない）
⑧：バーチャルスクリーンでのみ表示可能

※1：別売のCRTディスプレイ未接続時は、このパソコンの液晶ディスプレイのみに表示される
※2：このパソコンの液晶ディスプレイでは、グラフィックアクセラレータのディザリング機能により実現
※3：購入時の設定

メモ

320×200ドット、320×240ドット解像度対応のアプリケーションなどは、このパソコンでは画面のまわりが黒く表示されます。

解像度と表示色の設定

ディスプレイの解像度と表示色はコントロールパネルで設定します。

1 「コントロールパネル」を開き、「画面」アイコンをダブルクリックする
「画面のプロパティ」画面が表示されます。

2 「設定」タブをクリックする

3 「画面の領域」または「色」を変更する

・ 画面の領域の変更をする場合
「画面の領域」欄でつまみを「大」の方向へドラッグすると高解像度に、「小」の方向へドラッグすると低解像度になります。

チェック

設定により、マニュアルに記載されていない解像度を選択することができる場合がありますが、動作を保証するものではありません。必ずマニュアルに記載されている解像度で使用してください。

・ 色の変更をする場合
「色」欄で ▼ をクリックし、選択一覧から変更します。この選択一覧には、使用している液晶ディスプレイとディスプレイアダプタが対応しているカラーパレットが一覧表示されます。

メモ

High Colorとは65,536色のことで、True Colorは1,677万色のことです。

4 設定が終了したら、「OK」ボタンをクリックする
このあとは、画面の指示にしたがって操作してください。

バーチャルスクリーン

バーチャルスクリーンとは、実際に表示可能な解像度よりも大きい解像度を使用できるようにするための仮想画面のことです。バーチャルスクリーンでは、仮想画面全体のサイズが実際のディスプレイの画面より大きくなるので、ディスプレイには常に仮想画面の一部が表示されている状態となります。画面をスクロールすると、ディスプレイの画面上で見えていない部分を表示することができます。

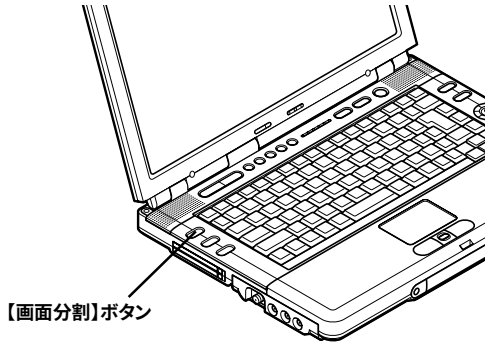
メモ

バーチャルスクリーンでは、「スタート」ボタンがディスプレイの画面上から外れ、表示されないことがあります。ディスプレイの画面上の見えていない部分を見るには、ポインタをディスプレイの画面の端に移動させます。ポインタの移動した方向に画面がスクロールし、見えなかった部分が表示されます。

画面分割機能

2つ以上のアプリケーションのウィンドウをワンタッチ操作でディスプレイ上に表示することができる機能です。デスクトップ上を2分割(縦)、2分割(横)、4分割、6分割にして起動しているアプリケーションを表示することができます。分割のしかたは設定で変更することができます。

1 【画面分割】ボタンを押す



2つ以上のアプリケーションのウィンドウが並べて表示されます。

画面の分割数や、表示するアプリケーションは右側の設定画面で簡単に選んで変更することができます。

画面の分割のしかたを設定します。分割したい画面の数と方法をクリックしてください。

ディスプレイに表示したいアプリケーションを選べます。（ウィンドウサイズ固定等の一部アプリケーションは、起動していても表示されません。）

もう一度【画面分割】ボタンをクリックすると、通常のデスクトップの画面に戻ります。

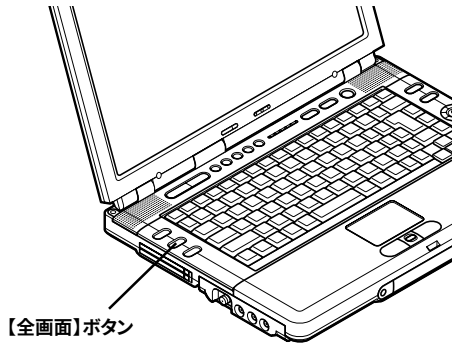
【全画面】ボタンを使う

アプリケーションのウィンドウが分割していたり、重なっていたりしてウィンドウの内容が見えにくくなるときがあります。そんなときは、【全画面】ボタンでディスプレイいっぱいにアプリケーションのウィンドウを開くことができます。

1 ディスプレイいっぱいに表示したいアプリケーションのウィンドウをクリックする

最小化されてタスクバーにある場合は、タスクバーにある表示したいアプリケーションのボタンをクリックします。

2 【全画面】ボタンを押す



アプリケーションのウィンドウがディスプレイいっぱいに表示されます。

バッテリ

バッテリのみで使う

セカンドハードディスクドライブが搭載されていないモデルでは、ACアダプタを使用せずにバッテリだけで駆動することができます。セカンドハードディスクドライブ搭載モデルでは、別売のバッテリパック（PC-VP-WP32）を利用するとACアダプタを使用せずに駆動することができます。
バッテリだけでの駆動時間は限られていますので、長時間使用する場合は、省電力機能を使用することをおすすめします。

参照
省電力機能について→このPARTの「省電力機能」（p.79）

さらに次のような点に気をつけると、バッテリパックを長持ちさせることができます。
- バッテリの残量をできるだけなくしてから充電する
- 充電はフル充電（バッテリ充電ランプが消灯）になるまで中断しない
- 定期的にバッテリリフレッシュを実行する（→p.74）
- このパソコンを1カ月以上使わないときは、バッテリパックを取り外して、涼しいところに保管する

メモ

バッテリは自然放電していますので、使用していない場合でも2～3カ月に一度は充電することをおすすめします。

バッテリを充電する

チェック

- バッテリの充電中は、バッテリパックをパソコンから取り外さないでください。ショートや接触不良の原因になります。
- 購入直後や長時間放置したバッテリでは、バッテリ駆動ができないことや動作時間が短くなること、バッテリ残量が正しく表示されないことなどがあります。必ずフル充電してから使用してください。
- 充電を行う際にはできるだけフル充電するようにしてください。バッテリ残量が少ない場合などに少量の充放電を何度もくりかえして使用すると、バッテリ残量に誤差が生じることがあります。

バッテリの充電のしかた

バッテリパックを取り付けてACアダプタをACコンセントに接続すると、自動的にバッテリの充電がはじまります。
パソコンの電源を入れて使用しているときでもバッテリは充電されます。

メモ

充電できる電池容量は、周囲の温度によって変わります。また、高温になると充電が中断されることがありますので、18～28℃での充電をおすすめします。

参照
バッテリの充電時間について→PART6の「機能一覧」(p.245)

充電状態を表示ランプで確認する

バッテリの充電状態を、バッテリ充電ランプ( )で確認することができます(→p.8)。

ランプ		状態
オレンジ	点灯	バッテリ充電中
	点滅	バッテリのエラー※
消灯		ACアダプタが接続されていない、または充電完了

※:バッテリを取り付けなおしてもエラーが出るときは、バッテリリフレッシュを行ってください(→p.74)。

バッテリの残量を確認する

バッテリ残量は、次の3つの方法で確認することができます。

● インジケータ領域（タスクトレイ）にある の上にポインタを合わせる

アイコンはバッテリの残量により異なります。

● インジケータ領域（タスクトレイ）の をダブルクリックして、表示された「電源メーター」画面を見る

● 「コントロールパネル」を開き、「電源の管理」アイコンをダブルクリックして、表示された「電源の管理のプロパティ」画面の「電源メーター」タブを見る

メモ

ACコンセントから電源を供給している場合は、 は に変わります。

バッテリ駆動中にバッテリ残量が少なくなったときは

バッテリの残量が少なくなると、電源ランプ(㉀)が黄色に点灯します。この場合は、状況に応じて次の操作を行ってください。

● ACコンセントから電源を供給できる場合

ACアダプタを接続してACコンセントから電源を供給してください。 ACコンセントから電源を供給すると、バッテリ充電ランプ(▭)が点灯し、バッテリの充電がはじまります。また、バッテリを充電しながらパソコンを使用することもできます。

● ACコンセントが使えない場合

使用中のアプリケーションを終了して、パソコンの電源を切ってください。

上記の操作をしないでそのままにしておくと、再度バッテリ残量が少ないというメッセージが表示され、しばらくすると自動的に休止状態になります。また、パソコンをバッテリのみで使用している場合は、バッテリ残量が少なくなったときにパソコンをどのような状態にするかを設定しておくこともできます。次の「バッテリ残量が少なくなったときの動作の設定」をご覧ください。

チェック

フロッピーディスクやハードディスクの読み書き中にバッテリ残量がなくなり、電源が切れてしまうと、作成中のデータが失われたり、フロッピーディスクやハードディスクのデータが失われたり、壊れたりすることがあります。

バッテリ残量が少なくなったときの動作の設定

バッテリのみで使用している場合、バッテリ残量が少なくなったとき、どのような動作をさせるかを設定します。設定の手順は次のとおりです。

1 「コントロールパネル」を開き、「電源の管理」アイコンをダブルクリックする

2 「アラーム」タブをクリックする

3 バッテリ残量が少ないとき(バッテリ低下の警告)と、バッテリ残量がわずかなとき(バッテリ消耗の警告)に、それぞれどのような動作をするようにしたいかを設定する
「警告の動作」ボタンをクリックすると、動作を選ぶことができます。

4 「OK」ボタンをクリックする

バッテリリフレッシュ

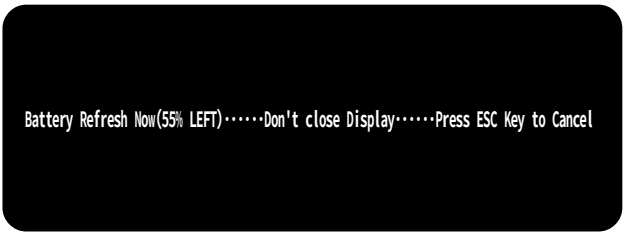
バッテリリフレッシュは、一時的に低下したバッテリの性能を回復させるときに行います。次のようなときには、バッテリリフレッシュを実行してください。

- **バッテリでの駆動時間が短くなった**
  バッテリを完全に使い切らないまま充電をくりかえしていると、バッテリの充電可能容量が目減りして、駆動時間が短くなる場合があります。これをバッテリの「メモリ効果」と呼びます。
- **購入直後や、長期間の放置で、バッテリの性能が一時的に低下した**
- **バッテリの残量表示に誤差が生じている**
  バッテリの充電が完了し、バッテリ充電ランプ( )が消えてしばらくしても、バッテリの残量表示が95%以上にならない場合は、バッテリの残量表示に誤差が生じていると考えられます。

バッテリリフレッシュの実行

1. パソコンを使用中の場合は、「スタート」ボタン→「Windowsの終了」で をクリックして「終了」を選び、「OK」ボタンをクリックして電源を切る
2. バッテリパックを取り付けていない場合は、バッテリパックを本体に取り付ける(→p.78)
3. パソコンにACアダプタを接続していない場合は、ACアダプタを接続し、電源コードをACコンセントに接続する
4. バッテリ充電ランプが点滅している場合は、一度バッテリパックを本体から外して、再度取り付ける
5. バッテリをフル充電(バッテリ充電ランプが消灯した状態)まで充電する
6. BIOSセットアップメニューを起動する(→p.232)
7. 電源コードのプラグをACコンセントから抜いてから、ACアダプタを本体から取り外す
8. 【↑】または【↓】で「バッテリリフレッシュ」を選び、【Enter】を押す

次のような画面が表示され、バッテリリフレッシュがはじまります。
バッテリリフレッシュが完了し、バッテリ内の電力がなくなると自動的にパソコンの電源が切れますので、電源が切れるまでお待ちください。



チェック

バッテリリフレッシュ中は、液晶ディスプレイを開いたままにしてください。液晶ディスプレイを閉じると、ピピピと警告音が鳴ります。

メモ

バッテリリフレッシュの所要時間の目安は、約80分です。

■ バッテリリフレッシュを中断する

バッテリリフレッシュを中断するときは、次の手順で行ってください。

1 【Esc】を押す
次のようなメッセージが表示されます。

2 【↑】または【↓】で「Cancel Battery Refresh」を選び、【Enter】を押す
Windowsが再起動します。

メモ

バッテリリフレッシュ中にパソコンの電源を切ろうとしたり、ACアダプタを接続したときも、バッテリリフレッシュの中断を確認するメッセージが表示されます。バッテリリフレッシュを続ける場合は「Continue Battery Refresh」を選んでください。中断する場合は「Cancel Battery Refresh」を選ぶと、バッテリリフレッシュを中断して再起動します。

バッテリパックを交換する

交換の目安

フル充電(バッテリを充電してバッテリ充電ランプ(▭)が消灯した状態)にしても使用できる時間が短くなったら、バッテリリフレッシュ(→p.74)を行ってください。それでも使用できる時間が回復しないときは、新しいバッテリパックを購入して交換してください。

■ 交換用のバッテリパック

このパソコンに取り付けられる交換用バッテリパックは次のものです。

・PC-VP-WP32(バッテリパック(リチウムイオン))

バッテリパックの交換のしかた

⚠警告

感電注意

●雷が鳴りだしたら、本機や電源コードに触れないでください。また、機器の接続や取り外しを行わないでください。 落雷による感電のおそれがあります。

破裂注意

毒物注意

●使用を終えたバッテリパックを分解したり、火気に投じることは危険です。絶対にしないでください。破裂したり、液漏れしたりすることがあります。

⚠注意

感電注意

●濡れた手で電源コードを抜き差ししないでください。感電の原因となります。

チェック

・バッテリスロットの端子部分には絶対に触れないでください。 接触不良の原因となります。

・スタンバイ状態のときにバッテリパックを交換すると、作業中のデータが失われます。 電源ランプ(⏻)が点滅しているときには、一度スタンバイ状態から復帰し、作業中のデータを保存してからWindowsを終了し、パソコンの電源を切ってください。

・特に必要でない限り、バッテリパックの取り付けや取り外しをしないでください。故障の原因になります。

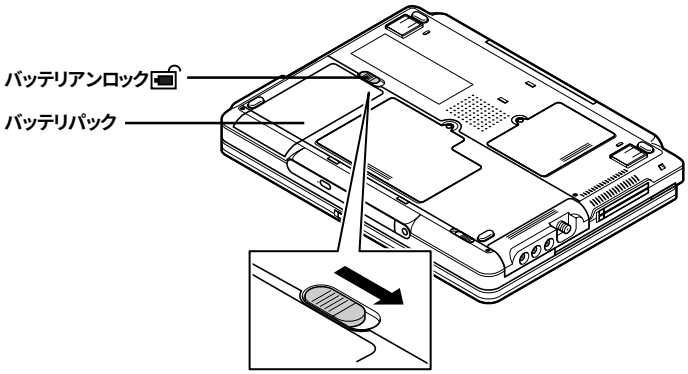
■ バッテリパックを取り外す

1 パソコンを使用中の場合は、「スタート」ボタン→「Windowsの終了」で、▼をクリックして「終了」を選び、「OK」ボタンをクリックして電源を切る

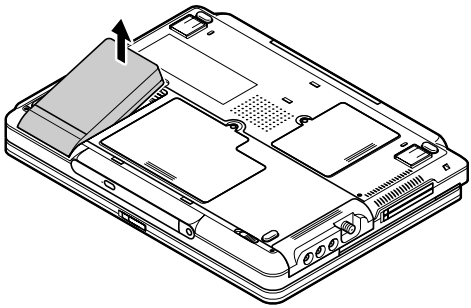
2 電源コードのプラグをACコンセントから抜いてから、ACアダプタを本体から取り外す

3 液晶ディスプレイを閉じて、本体を裏返す

4 バッテリパックの横にあるバッテリアンロック(🔓)を矢印の方向にスライドさせる
バッテリアンロック(🔓)をスライドさせると、バッテリパックが少し持ち上がります。スライドさせたままの状態で、次の手順へ進んでください。



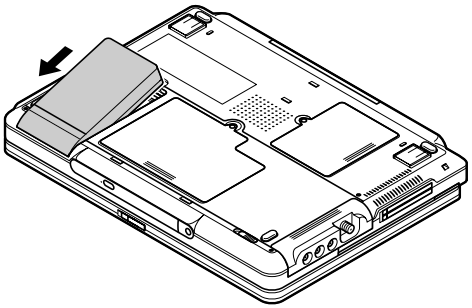
5 バッテリパックを矢印の方向に持ち上げて取り外す



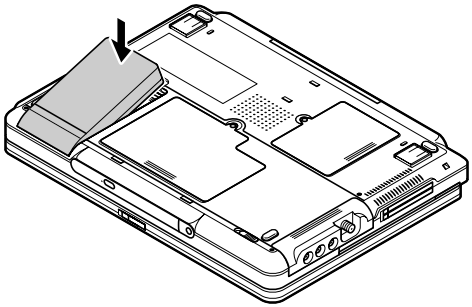
■ バッテリパックを取り付ける

1 「バッテリパックを取り外す」(p.77)の手順1～3を行う

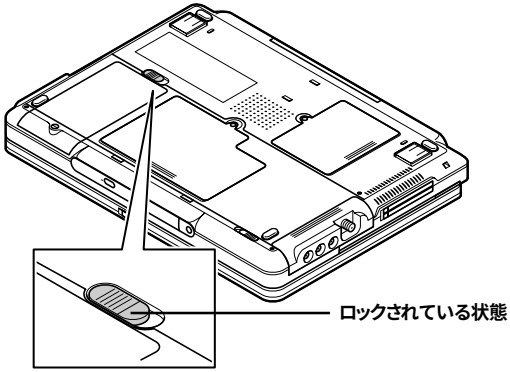
2 新しいバッテリパックをバッテリスロットにセットする



3 図の矢印の方向にバッテリパックを倒し込む



4 バッテリアンロック(🔓)がロックされていることを確認する



省電力機能

省電力機能とは

省電力機能とは、CPUやハードディスク、ディスプレイといった、パソコンの主要な部分への電力供給を停止することで、本体の消費電力を抑える機能です。また、作業を一時的に中断したいときや、中断した作業をすぐに再開したいときにも便利な機能です。

このパソコンの省電力機能

このパソコンの省電力機能には、「スタンバイ状態（サスペンド）」、「休止状態（ハイバネーション）」、「Intel® SpeedStep™テクノロジ」があります。「スタンバイ状態」と「休止状態」を合わせて「スリープ状態」と呼ぶこともあります。このパソコンでの省電力機能の設定は、「コントロールパネル」の「電源の管理」で行います。

● スタンバイ状態（サスペンド）

作業中のデータを一時的にメモリに保存し、消費電力を抑える機能です。スタンバイ状態のことを「サスペンド」と呼ぶこともあります。データはメモリに保存されているため、すぐに元の状態に戻すことができます。元の状態に戻すことを「復帰（レジューム）」と呼びます。

参照
スタンバイ状態にする→「スタンバイ状態（サスペンド）」（p.82）

● 休止状態（ハイバネーション）

作業中のデータをハードディスクに保存し、電源を切る機能です。休止状態のことを「ハイバネーション」と呼ぶこともあります。普通に電源を切るのとは異なり、次に電源を入れるときに、Windowsを起動する操作をせずに、すぐに元の状態に戻すことができます。元の状態に戻すことを「復帰（レジューム）」と呼びます。
データを保持するための電力を消費しないので、長時間作業を中断するときなどに便利です。

参照
休止状態にする→「休止状態（ハイバネーション）」（p.85）

● Intel® SpeedStep™テクノロジ（LT500を除く）

電源の種類によって、動作性能を切り替えることができます。
BIOSセットアップメニューで設定する方法と、Windowsのコントロールパネルで設定する方法の2種類があります。

参照

Intel® SpeedStep™テクノロジの設定をする→「Intel® SpeedStep™テクノロジ」(p.87)

チェック

BIOSセットアップメニューでも省電力機能の設定項目がありますが、BIOSセットアップメニューでの設定は無効になります。

省電力機能を使用するときの注意

スタンバイ状態または休止状態を利用できないとき

次のようなときには、スタンバイ状態または休止状態にしないでください。パソコンが正常に動かなくなったり、正しく復帰できなくなることがあります。

- プリンタへ出力中
- 通信用アプリケーションを実行中
- 電話回線を使って通信中
- 音声または動画を再生中
- ハードディスク、CD-ROMなどのディスク、フロッピーディスクなどにアクセス中
- 「システムのプロパティ」画面を表示中
- Windowsの起動／終了処理中
- スタンバイ状態または休止状態に対応していないアプリケーションを使用中
- スタンバイ状態または休止状態に対応していないPCカード、USB対応機器、IEEE1394対応機器を使用中

スタンバイ状態または休止状態を使用するときの注意

スタンバイ状態または休止状態にするときは、次のことに注意してください。

- スタンバイ状態では、ネットワーク機能がいったん停止します。ネットワークを使用するアプリケーションによっては、スタンバイ状態になったときにデータが失われることがあります。ネットワークを使用するアプリケーションを使う場合には、システム管理者に確認のうえ、スタンバイ状態を使用してください。
- バッテリのみで使用している場合は、あらかじめバッテリの残量を確認しておいてください。また、バッテリ駆動時にバッテリ残量が少なくなってきたとき、パソコンをどのような動作にさせるかなどの設定もできます(→p.73)。
- セカンドハードディスクドライブ搭載モデルをお使いの場合は、ACアダプタをパソコンから取り外さないでください。
- スタンバイ状態または休止状態への移行中は、各種ディスクやPCカードの入れ替えなどを行わないでください。データが正しく保存されないことがあります。
- スタンバイ状態または休止状態のときに、PCカードを入れ替えるなどの機器構成の変更をすると、スタンバイ状態から正しく復帰できなくなることがあります。

- 「コントロールパネル」を開き、「画面」アイコンをダブルクリックすると表示される「画面のプロパティ」の「スクリーン セーバー」タブで設定できるディスプレイの省電力機能を利用する場合は、スクリーンセーバー機能もあわせて使用してください。スクリーンセーバー機能を使用しない場合、MS-DOSプロンプト使用時に省電力機能は利用できません。
- このパソコンにフォトCDを入れたままスタンバイ状態または休止状態にした場合、復帰に時間がかかることがあります。
- SCSI PCカードを使用している場合、SCSI PCカードと接続されている機器の組み合わせによってはスタンバイ状態または休止状態から正しく復帰できない場合があります。このような場合は、スタンバイ状態または休止状態にしないでください。
- フロッピーディスクやCD-ROMをセットしたまま休止状態から復帰すると、正しく復帰できずにフロッピーディスクやCD-ROMから起動してしまうことがあります。休止状態にする場合は、フロッピーディスクやCD-ROMを取り出してから休止状態にしてください。また、フロッピーディスクを使用しているときは、必要なファイルを保存してから、フロッピーディスクを取り出してください。

スタンバイ状態または休止状態から復帰するときの注意

スタンバイ状態または休止状態から復帰させるときには、次のことに注意してください。

- スタンバイ状態または休止状態にしてからすぐに復帰させたいときは、パソコンに負担がかからないよう、スタンバイ状態または休止状態になった後、約5秒以上たってから操作してください。
- スタンバイ状態または休止状態のときにPCカードの入れ替えやセカンドハードディスクドライブなど周辺機器の取り付け／取り外しなどの機器構成の変更をすると、正常に復帰できなくなることがあります。
- タイマ、FAXモデムの自動受信操作および液晶ディスプレイを開いてのスタンバイ状態からの復帰を行った場合、パソコンはスタンバイ状態から復帰していますが、液晶ディスプレイに何も表示されない状態になります。この場合はNXパッドを操作するかキーボードのキーを押すことによって液晶ディスプレイを表示することができます。
- スタンバイ状態または休止状態からの復帰時にパスワードを入力するように設定してある場合は、パスワード入力画面でパスワードを入力してください。

参照
パスワード設定時の復帰→このPARTの「セキュリティ機能」の「パスワードを設定しているときの復帰のしかた」(p.94)

スタンバイ状態（サスペンド）

スタンバイ状態にする

購入時の状態では、次のいずれかの方法でスタンバイ状態にすることができます。スタンバイ状態になると、電源ランプ（⏻）が緑色に点滅します。

- 「スタート」ボタン→「Windowsの終了」で▼をクリックして「スタンバイ」を選び、「OK」ボタンをクリックする
- キーボードやNXパッドからの入力がなくなってから一定時間経過後、自動的にスタンバイ状態にする

ほかにも、設定を行うことにより次のような方法でスタンバイ状態にすることもできます。

- 電源スイッチを押す

  電源スイッチを押してスタンバイ状態にするには、「コントロールパネル」を開き、「電源の管理」アイコンをダブルクリックすると表示される「電源の管理のプロパティ」の「詳細設定」タブで、「コンピュータの電源ボタンを押したとき」を「スタンバイ」に設定します。

- 液晶ディスプレイを閉じる

  液晶ディスプレイを閉じたときにスタンバイ状態にするには、「コントロールパネル」を開き、「電源の管理」アイコンをダブルクリックすると表示される「電源の管理のプロパティ」の「詳細設定」タブで「ポータブル コンピュータを閉じたとき」を「スタンバイ」に設定します。

メモ

- ATAカードをセットした状態でスタンバイ状態にすると、スタンバイ状態になるまでに時間がかかる場合があります。
- 「コントロールパネル」を開き、「画面」アイコンをダブルクリックすると表示される「画面のプロパティ」の「Web」タブの「Active DesktopにWebコンテンツを表示」にチェックマークがついていると、自動的にスタンバイ状態にできない場合があります。この場合は、「Active DesktopにWebコンテンツを表示」の左の☑をクリックして☐にしてください。

スタンバイ状態から復帰する

スタンバイ状態から元の状態に戻すことを「復帰」または「レジューム」といいます。スタンバイ状態からの復帰は次の方法で行うことができます。

- 電源スイッチを押す

  スタンバイ状態にする前の元の状態が表示されます。

メモ

液晶ディスプレイを閉じてスタンバイ状態にした場合、液晶ディスプレイを開けることによって復帰することができます。
また、タスクスケジューラを使って時刻を指定してスタンバイ状態から復帰することもできます。タスクスケジューラについて詳しくはWindowsのヘルプをご覧ください。

スタンバイ状態の設定をする

■「電源設定」で設定をする

「コントロールパネル」の「電源の管理」の「電源設定」では、スタンバイ状態にするまでの時間を変更したり、ACアダプタ駆動時にもスタンバイ状態になるように設定することができます。
また、あらかじめ設定されている電源設定モードを選んでスタンバイ状態にするまでの時間を設定することもできます。購入時には「LaVie/VersaPro」のモードに設定されています。モードは「常にオン」「ホーム／オフィス デスク」「ポータブル／ラップトップ」「LaVie/VersaPro」の4つがあります。

1 「コントロールパネル」を開き、「電源の管理」アイコンをダブルクリックする
「電源の管理のプロパティ」画面が表示されます。

2 「電源設定」タブをクリックする

3 「電源設定」欄でモードを選ぶか、または画面の下段でそれぞれの時間を設定する

項目	説明
モニタの電源を切る	入力が何も行われないまま指定した時間が経過すると、モニタの電源を切ります。
ハード ディスクの電源を切る	指定した時間、ハードディスクへのアクセスがないと、ハードディスクの電源を切ります。
システム スタンバイ	指定した時間何の入力もなく、ハードディスクへのアクセスがないと、パソコンがスタンバイ状態になり、消費電力を抑えます。
システム休止状態	指定した時間何の入力もなく、またハードディスクへのアクセスがないと、パソコンが休止状態になり、電源が切れます。

メモ

- 画面の下段の「××の電源の設定」の「××」には、上段の「電源設定」欄で選んだモード名が表示され、それぞれの項目欄には、モードの設定時間が表示されます。
- 「電源設定」欄で新しいモードを作成することもできます。

4 「適用」ボタンをクリックして、「OK」ボタンをクリックする

■ 新しいモードを作成する

パソコンの利用状態に合わせて、モードを新たに登録することができます。

1 「コントロールパネル」を開き、「電源の管理」アイコンをダブルクリックする
「電源の管理のプロパティ」画面が表示されます。

2 「電源設定」タブをクリックする

3 「モニタの電源を切る」「ハードディスクの電源を切る」「システムスタンバイ」「システム休止状態」のそれぞれの時間を設定する

4 「名前を付けて保存」ボタンをクリックする

5 任意の保存名を入力し、「OK」ボタンをクリックする
これで、新しいモードが登録されました。

6 「適用」ボタンをクリックして、「OK」ボタンをクリックする

休止状態（ハイバネーション）

休止状態にする

次のいずれかの方法で休止状態にすることができます。
休止状態になると、電源ランプ（⏻）が消灯し、パソコンの電源が切れます。

- 「スタート」ボタン→「Windowsの終了」で▼をクリックして「休止状態」を選び、「OK」ボタンをクリックする
- バッテリ駆動時、キーボードやNXパッドからの入力がなくなってから一定時間経過後、自動的に休止状態にする

ほかにも、設定を行うことにより次のいずれかの方法で休止状態にすることができます。

- 電源スイッチを押す

電源スイッチを押して休止状態にするには、「コントロールパネル」を開き、「電源の管理」アイコンをダブルクリックすると表示される「電源の管理のプロパティ」の「詳細設定」タブで、「コンピュータの電源ボタンを押したとき」を「休止状態」に設定します。

- 液晶ディスプレイを閉じる

液晶ディスプレイを閉じたときに休止状態にするには、「コントロールパネル」を開き、「電源の管理」アイコンをダブルクリックすると表示される「電源の管理のプロパティ」の「詳細設定」タブで、「ポータブル コンピュータを閉じたとき」を「休止状態」に設定します。

上記の方法で休止状態にするためには、次の「休止状態を利用するための準備」の手順を行ってください。

■ 休止状態を利用するための準備

- 電源スイッチを押して休止状態にする

1 「コントロールパネル」を開き、「電源の管理」アイコンをダブルクリックする
「電源の管理のプロパティ」画面が表示されます。

2 「休止状態」タブをクリックする

3 「休止状態をサポートする」が☑になっていることを確認する

4 「電源の管理のプロパティ」画面で「詳細設定」タブをクリックする

5 「電源ボタン」欄の「コンピュータの電源ボタンを押したとき」で「休止状態」を選ぶ

6 「適用」ボタンをクリックして、「OK」ボタンをクリックする

● 液晶ディスプレイを閉じたときに休止状態にする

1 「電源スイッチを押して休止状態にする」の手順1～4を行う

2 「電源ボタン」欄の「ポータブル コンピュータを閉じたとき」で「休止状態」を選ぶ

3 「適用」ボタンをクリックして、「OK」ボタンをクリックする

メモ

- ATAカードをセットした状態で休止状態にすると、時間がかかる場合があります。
- 「コントロールパネル」を開き、「画面「アイコンをダブルクリックすると表示される「画面のプロパティ」の「Web」タブの「Active DesktopにWebコンテンツを表示」にチェックマークがついていると、自動的に休止状態にできない場合があります。この場合は、「Active DesktopにWebコンテンツを表示」の左の☑をクリックして☐にしてください。

休止状態から復帰する

休止状態から元の状態に戻すことを「復帰」または「レジューム」といいます。休止状態からの復帰は次の方法で行います。

● 電源スイッチを押す

「Returning to Windows ...」の表示とともに、作業状況を示す棒グラフが表示され、復帰が完了すると、元の状態（休止状態に入る前）の画面が表示されます。

Intel® SpeedStep™テクノロジ

ここでは、LT900、LT700、LG10JE、LG80JEのIntel® SpeedStep™テクノロジについて説明しています。

Intel® SpeedStep™テクノロジのセットアップ

Intel® SpeedStep™ テクノロジを使用できるようにするには、次の手順でセットアップを行う必要があります。

1 デスクトップ上の(SpeedStep)をダブルクリックする

2 「ようこそ」画面で「次へ」ボタンをクリックする

3 「ライセンス契約」の内容を読み、内容に同意できる場合には「はい」ボタンをクリックする

4 「セットアップの完了」画面で、「はい、直ちにコンピュータを再起動します。」を選んで「完了」ボタンをクリックする

Windowsが自動的に再起動します。

Intel® SpeedStep™テクノロジの設定をする

チェック

バッテリ駆動時はクロック周波数が下がります。バッテリ駆動時のクロック周波数は次のとおりです。

LG10JE ：1.0GHz→700MHz
LT900 ：1.0GHz→700MHz
LG80JE ：800MHz→650MHz
LT700 ：800MHz→650MHz

■ BIOSセットアップメニューで設定する

BIOSセットアップメニューの「拡張設定」の「Intel(R) SpeedStep(TM) テクノロジ」で設定できます。

モード	機能
自動※	AC電源で駆動中にこのパソコンを使用する場合、最高性能で動作します。
バッテリ最適化	常にバッテリ最適性能で動作します。
使用しない	本機能が、無効になります。

※購入時の設定

参照

BIOSセットアップメニュー→PART5の「BIOSセットアップメニュー」(→p.232)

■ コントロールパネルの「電源の管理」で設定する

1 「コントロールパネル」を開き、「電源の管理」アイコンをダブルクリックする
「電源の管理のプロパティ」画面が表示されます。

2 「Intel(R) SpeedStep(TM) テクノロジ」タブをクリックする

メモ

インジケータ領域(タスクトレイ)の をダブルクリックしても起動することができます。

パソコンをバッテリのみで使用するときと、AC電源で使用するときの設定を行います。

● バッテリモードの場合
「バッテリに合わせたパフォーマンス」に設定されています。この項目は変更できません。

● AC電源の場合
「バッテリに合わせたパフォーマンス」、または「最大パフォーマンス」のどちらかを選択できます。
をクリックして選んでください。

メモ

- 「電源が変更されたときにパフォーマンスを自動的に変更」が☑になっているとバッテリ駆動からAC駆動に変更した場合、自動的に「AC電源の場合」で設定した動作に変わります。
- 「パフォーマンスを自動的に変更する前に確認」が☑になっているとバッテリ駆動からAC駆動に変更した場合に、パフォーマンスを自動的に変更するかどうかの確認メッセージが表示されます。
- 「Intel(R) SpeedStep(TM) テクノロジ」タブでの設定内容は、このパソコンの終了時にBIOSセットアップメニューに反映されます。

セキュリティ機能

このパソコンのセキュリティ機能

セキュリティ機能を利用すると、パソコンの不正使用やデータの盗難を防止するためのパスワードを設定したり、起動に必要なファイルを保護したりすることができます。

チェック

セキュリティ機能を使用している場合でも、「絶対に安全」ということはありません。重要なデータなどの管理や取り扱いには十分注意してください。

パスワードを設定してパソコンの使用者を制限する

パスワードを設定することで、このパソコンの使用者を制限するとともに、不正使用を防止することができます。パスワードはBIOSセットアップメニューで設定します。パスワードを設定することにより、次のような機能を制限することができます。

- パソコンの起動
- BIOSセットアップメニューの起動と設定変更
- スリープ状態（スタンバイ状態または休止状態）からの復帰
- キーボードやポインティングデバイスからの入力

チェック

- 設定したパスワードを忘れないようにしてください。パスワードは再セットアップしても解除できません。パスワードは忘れないように控えておくことをおすすめします。
- ご購入元、NECフィールディングの各支店、営業所などにこのパソコンの修理を依頼される際は、設定したパスワードは解除しておいてください。

参照

パスワードを忘れてしまった→『困ったときのQ&A』PART2の「パスワード」

パスワードの種類

設定可能なパスワードには、「スーパバイザパスワード」と「ユーザパスワード」があります。

● スーパバイザパスワード

スーパバイザパスワードは、おもに管理者用のパスワードで、管理者以外の不正な使用や設定の変更を防止したり、このパソコンの使用者を制限するために設定します。また、使用者の使用できる機能を制限することもできます。
パスワードを設定しておくと、BIOSセットアップメニュー起動時にパスワードの入力画面が表示され、パスワードを入力しないかぎりBIOSセットアップメニューを起動できなくなります。また、パスワード入力のタイミングを、起動時やスリープからの復帰時に設定しておくこともできます。

● ユーザパスワード

ユーザパスワードは、スーパバイザパスワードが設定されていないと設定できないパスワードです。おもに使用者のためのパスワードで、パスワードを入力しないと、パソコンを使用できなくなります。

パスワードを使った管理

たとえば、管理者がスーパバイザパスワードとユーザパスワードの両方を設定し、通常の利用者にはユーザパスワードのみを通知します。このように設定しておくと、管理者以外はBIOSセットアップメニューの設定を変更できなくなります。また、どちらのパスワードも通知されていない人は、パソコンを起動することもできません。

パスワードを設定する

スーパバイザパスワードとユーザパスワードは、BIOSセットアップメニューで設定します。パスワードを設定後にBIOSセットアップメニューを起動するときは、設定したパスワードを入力しなければ、BIOSセットアップメニューを起動することができなくなります。

1 BIOSセットアップメニューを起動する(→p.232)

2 「セキュリティ」を選ぶ

3 【↑】または【↓】で、「スーパバイザパスワードの設定」または「ユーザパスワードの設定」を選ぶ

チェック

スーパバイザパスワードを設定していないと、ユーザパスワードを設定することはできません。

4 【Enter】を押す
パスワード設定の画面が表示されます。

5 パスワードを入力する

チェック
パスワードの文字列は、6文字以内で設定してください。使用できる文字は、半角英字のA～Z（大文字／小文字の区別はありません）と半角数字の0～9だけです。

6 【Enter】を押す

7 手順5で入力したパスワードを、もう一度入力する

8 【Enter】を押す

チェック
設定したパスワードを忘れないようにしてください。パスワードは再セットアップしても解除できません。パスワードは忘れないように控えておくことをおすすめします。

パスワードを入力するタイミング

パスワードを設定しておくと、BIOSセットアップメニュー起動時にパスワードを入力するように要求されます。BIOSセットアップメニュー起動時以外にも、次のようなタイミングに設定できます。

■ パソコンの起動時

パソコンの起動時に常にパスワードを入力するように設定するには、次の手順で行います。

1 BIOSセットアップメニューを起動する（→p.232）

2 「セキュリティ」の「起動時のパスワード」を選ぶ

3 「はい」を選ぶ

4 BIOSセットアップメニューを終了する

■ スリープ状態からの復帰時

チェック

「起動時のパスワード」を「はい」に設定していないと、「レジューム時のパスワード」の設定は変更できません。

スリープ状態からの復帰時にパスワードを入力するように設定するには、次の手順で行います。

1 BIOSセットアップメニューを起動する（→p.232）

2 「セキュリティ」の「レジューム時のパスワード」を選ぶ

3 「はい」を選ぶ

4 BIOSセットアップメニューを終了する

パスワードを入力する

■ パスワードを設定しているときの電源の入れかた

BIOSセットアップメニューの「セキュリティ」の「起動時のパスワード」が「はい」に設定されている場合は、次の手順で電源を入れます。

1 パソコンの電源を入れる
次のようなパスワードを入力する画面が表示されます。

```
Enter CURRENT Password：_
```

2 設定されているパスワードを入力する

3 【Enter】を押す

正しいパスワードが入力されると、Windowsが起動します。

チェック

- 誤ったパスワードが入力されると、警告が表示されます。パスワードの入力に3回失敗すると、パスワードが入力できなくなります。このときは、電源スイッチ（⏻）を押して電源を切ったあと、もう一度手順1からやり直してください。
- パスワードの入力中にキーボードの【Back Space】などを押しても、文字を修正することはできません。

■ パスワードを設定しているときの復帰のしかた

BIOSセットアップメニューの「セキュリティ」の「レジューム時のパスワード」が「はい」に設定されている場合は、次の手順で電源を入れます。

1 パソコンの電源を入れる
キャップスロックキーランプ(Ⓐ)とスクロールロックキーランプ(⇅)が同時に点滅します。このとき、画面には何も表示されません。

2 設定されているパスワードをキーボードから入力する

3 【Enter】を押す
正しいパスワードが入力されると、データが復帰されてデータの内容が表示されます。

チェック
- スーパバイザパスワードとユーザパスワードの両方が設定されている場合、前回、電源を入れたときに入力したパスワードでないと復帰できません。
- 誤ったパスワードが入力されると復帰できません。
- パスワードの入力中にキーボードの【Back Space】などを押しても、文字を修正することはできません。

キーボードロック

キーボードロックを設定すると、キーボードやポインティングデバイスからの入力ができなくなります。

■ キーボードロックを設定する

1 パスワードが設定されているときに【Ctrl】+【Alt】+【Back Space】または【Fn】+【Back Space】を押す
キャップスロックキーランプ(Ⓐ)とスクロールロックキーランプ(⇅)が同時に点滅し、キーボードやポインティングデバイスからの入力ができなくなります。

■ キーボードロックを解除する

キーボードロックは次の手順で解除してください。

1 キャップスロックキーランプ(Ⓐ)とスクロールロックキーランプ(⇅)が同時に点滅していることを確認する

2 設定されているパスワードをキーボードから入力する
このとき、画面にはパスワード入力画面は表示されません。

3 【Enter】を押す

正しいパスワードが入力されるとランプは消灯し、キーボードやポインティングデバイスからの入力が可能になります。

チェック

- スーパバイザパスワードとユーザパスワードの両方が設定されている場合、前回、電源を入れたときに入力したパスワードでないと解除できません。
- 誤ったパスワードが入力されると解除できません。
- パスワードの入力中にキーボードの【Back Space】などを押しても、文字を修正することはできません。

その他のセキュリティ機能を使う

起動セクタへのウィルス感染防止

ハードディスクの起動セクタを書き込み禁止に設定できます。起動セクタ部分が削除されたり、書き換えられたりすると、パソコンを正常に起動することができなくなります。書き込み禁止に設定すると、起動セクタをコンピュータウイルスなどから保護できます。

「起動セクタへのウィルス感染防止」の設定は、BIOSセットアップメニューで行います。

参照

ハードディスク起動セクタを保護する→PART5の「標準セットアップ」(p.235)

盗難防止用ロック

本体の盗難防止用ロックに別売の「セキュリティケーブル(PK-SC/CA01)」を取り付けると、本体の盗難を防止できます。

参照

盗難防止用ロック→このPARTの「本体の各部の名称」の「本体背面」(p.3)

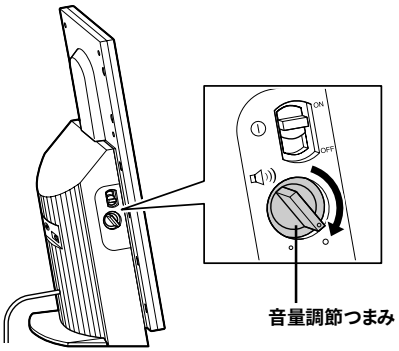
サウンド機能

このパソコンのサウンド機能

このパソコンには外付けのスピーカが添付されています。外付けスピーカからの生成音量は、スピーカ本体の「音量調節つまみ」や、Windows Meの「ボリュームコントロール」を使っても調節できます。
外付けスピーカを接続していない場合は、パソコンに内蔵されているスピーカから出力されます。内蔵スピーカの音量はパソコン本体の「音量調節つまみ」や、Windows Meの「ボリュームコントロール」を使っても調節できます。

音量を調節する

1 外付けスピーカの音量調節つまみを回して調節する
音量を上げたい場合はつまみを右に回し、下げたい場合は左に回します。

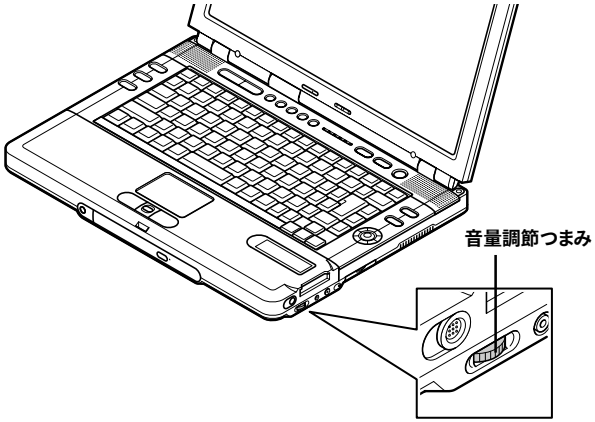


チェック

- 外付けスピーカーの音量は本体の音量とも連動しています。外付けスピーカーの音量調節つまみで調節してもうまく調節できない場合は、次の「外付けスピーカーを接続していない場合」をご覧になり、パソコン本体の音量調節つまみでも調節してください（パソコン本体で最大、外付けスピーカーで最大にしたときに最大の音が出ます）。
- 外付けスピーカ使用時は、パソコン本体のスピーカは動作しません。

■ 外付けスピーカを接続していない場合

1 パソコン本体の音量調節つまみで調節する
音量を上げたい場合はつまみを奥にたおし、下げたい場合は手前にたおします。

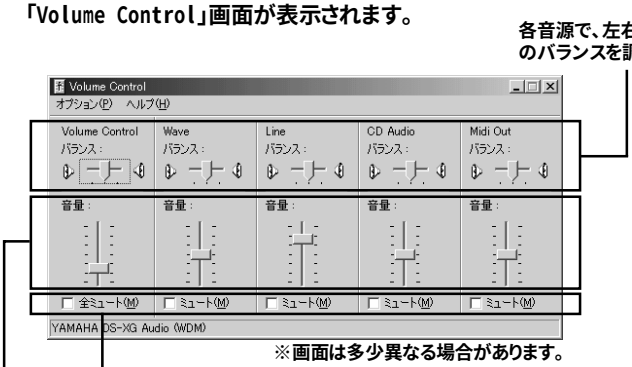


ボリュームコントロールを使う

ボリュームコントロールでは、内蔵音源の再生音量や録音するときの入力レベルを調節することができます。

ボリュームコントロールを起動する

1 「スタート」ボタン→「プログラム」→「アクセサリ」→「エンターテイメント」→「ボリュームコントロール」をクリックする
「Volume Control」画面が表示されます。



2 や をドラッグして調節する

チェック

ディスプレイの解像度を低解像度に設定しているときにボリュームコントロールを表示させると、ボリュームコントロールのすべての音源コントロールが表示されない場合や右端の音源コントロールの表示が一部欠ける場合があります。このようなときには、ディスプレイの解像度を変更する(→p.67)か、または「プロパティ」ウィンドウの「表示するコントロール」欄で、使用しない音源の選択を解除し、必要な音源コントロールが表示されるように変更してください。なお、ディスプレイの解像度を変更する場合は、ボリュームコントロールをいったん終了し、解像度を変更後に再度ボリュームコントロールを起動してください。

表示項目を切り替える

ボリュームコントロールに表示させる項目を切り替えることができます。

1 メニューバーの「オプション」→「プロパティ」をクリックする
「プロパティ」画面が表示されます。

※画面は多少異なる場合があります。

2 「再生」「録音」のどちらかをクリックして にする
表示項目が切り替わります。

■ 設定項目一覧

表示できる項目と各項目の説明は、次のようになります。

項目	音量調整の種類		説明
	再生	録音	
Volume Control	○		スピーカから出力されるすべてのボリュームを調整します。
Wave	○		WAVEなどのPCM音源のボリュームを調整します。
DigitalIn	○	○	Digital Inから入力される音声のボリュームを調整します。
Microphone	○	○	マイクロホン端子から入力される音声をスピーカから出力するとき、または録音するときのボリュームを調整します。
Line	○	○	本機では使用できません。
CD Audio	○	○	CD-ROMで再生した音楽CDを再生、または録音する時のボリュームを調整します。
Video	○	○	Videoから入力される音声のボリュームを調整します。
Midi Out	○		MIDIのボリュームを調整します。
3D Wide	○		3Dエンハンストの効果を調整します。3Dエンハンストはステレオ音声に対して効果がかかります。
Stereo Out		○	Line Outへ出力する音声をループバックさせて録音するときのボリュームを調整します。ステレオのまま録音されます。

マイクの感度を調整する

1 「Volume Control」画面に「Microphone」が表示されていることを確認し、メニューバーの「オプション」→「トーン調整」をクリックする
「Volume Control」画面の「Microphone」項目に「トーン」ボタンが追加表示されます。

2 「トーン」ボタンをクリックする
「Microphoneの詳細設定」画面が表示されます。

3 「Mic 20dB(1)」の☐をクリックして☑にする
マイクの感度が上がります。

4 「閉じる」ボタンをクリックする

チェック

- このパソコンでは「そのほかの調整」のみ調整可能です。
- このパソコンには、ハードウェアに高音、低音の調整機能がないため「トーン調整」の高音、低音の調整はできません。

ビープ音を設定する

キーボードを使ってビープ音のオン／オフの設定ができます。

1 【Fn】＋【F6】を押す
キーを押すごとに、ビープ音のオン／オフを切り替えることができます。

同軸デジタルオーディオ（S/PDIF）入出力機能について

このパソコンには同軸デジタルオーディオ（S/PDIF）入出力端子が用意されており、デジタル入出力を持ったオーディオ機器を接続して音楽などを再生したり、録音することができます。

メモ

デジタル入出力端子を持つオーディオ機器として、MDデッキやAVアンプ、DVDプレーヤなどがあります。

同軸デジタルオーディオ（S/PDIF）出力端子からは、スピーカから出力されるすべての音声をデジタル出力できます。
（WAVE出力、MIDI出力、音楽CDの再生音など）

参照
同軸デジタルオーディオ（S/PDIF）入出力端子→PART4の「同軸デジタルオーディオ（S/PDIF）入出力端子」（p.228）

同軸デジタルオーディオ（S/PDIF）出力するための設定

このパソコンで同軸デジタルオーディオ（S/PDIF）出力端子からデジタルで出力するためには、以下の設定が必要です。

1 「コントロールパネル」を開き、「ヤマハ　DS-XG設定」アイコンをダブルクリックする

2 「デジタル出力」タブをクリックする

3 「OFF」以外の設定にする

4 「OK」ボタンをクリックする

光デジタルオーディオ(S/PDIF)出力機能について

このパソコンには、ヘッドホン／光デジタルオーディオ(S/PDIF)出力端子が用意されており、光デジタル入力を持ったオーディオ機器に接続して音を聞いたり、オーディオ機器にデジタル録音できます。

メモ

光デジタル入力端子を持つオーディオ機器として、MDデッキやAVアンプなどがあります。

ヘッドホン／光デジタルオーディオ(S/PDIF)出力端子からは、スピーカから出力されるすべての音声をデジタル出力できます。
(WAVE出力、MIDI出力、音楽CDの再生音など)

参照
ヘッドホン／光デジタルオーディオ(S/PDIF)出力端子→PART4の「ヘッドホン／光デジタルオーディオ(S/PDIF)出力端子」(p.229)

光デジタルオーディオ(S/PDIF)出力するための設定

このパソコンで光デジタルオーディオ(S/PDIF)出力端子からデジタルで出力するためには、以下の設定が必要です。

1 「コントロールパネル」を開き、「ヤマハ　DS-XG設定」アイコンをダブルクリックする

2 「デジタル出力」タブをクリックする

3 「OFF」以外の設定にする

4 「OK」ボタンをクリックする

音楽CDのデジタル出力設定

音楽CDを、同軸デジタルオーディオ（S/PDIF）出力端子からデジタル出力する場合、または、光デジタルオーディオ（S/PDIF）出力端子から光デジタル出力する場合は次の手順で設定を変更してください。

1 コントロールパネルを開き、「システム」アイコンをダブルクリックする

2 「デバイスマネージャ」タブをクリックし、「CD-ROM」の左の＋をクリックして、その下に表示されるCD-ROMデバイスをクリックし、「プロパティ」ボタンをクリックする

3 「プロパティ」タブの「このCD-ROMデバイスでデジタル音楽CDを使用可能にする」の☐をクリックして☑にする

4 「OK」ボタンをクリックする

5 「OK」ボタンをクリックする

PART

2

通信機能

このパソコンを、一般の電話回線、携帯電話、PHS
などに接続して使う方法を説明します。

モデム

内蔵のモデムを利用する

内蔵モデムと電話回線を接続すると、「インターネットに接続する」「メールの送受信をする」「FAXの送受信をする」などができるようになります。

電話回線に接続するときは

使用する電話回線の種類によってはすぐに接続できない場合があります。

電話回線の種類	対処方法
モジュラージャック方式	このパソコンに付属しているモジュラーケーブルを使って接続してください。
3ピンプラグ式コンセント	そのままでは接続できません。市販の3ピンプラグ変換アダプタを使用するか、NTTにモジュラージャックの取り付けをご相談ください。
直結配線方式	そのままでは接続できません。モジュラージャックに変更する必要があります。NTTにモジュラージャックの取り付けをご相談ください。

■ 電話回線に接続する

このパソコンと電話回線とを接続するときは、添付のモジュラーケーブルを使用して、本体の電話回線用モジュラーコネクタと電話回線を接続してください。
接続について詳しくは、『はじめにお読みください』をご覧ください。

参照

電話回線に接続する→『はじめにお読みください』の「インターネットに接続しよう」

メモ

このパソコンに付属のモジュラーケーブルの長さが足りないときには、十分な長さの市販のモジュラーケーブルを購入してください。

チェック

内蔵のFAXモデムは、加入電話回線に適合するように設計されています。加入電話回線以外と接続すると、うまく動作しないことや、内蔵FAXモデムやパソコン本体などを破損するおそれがあります。

1つの電話回線のモジュラージャックをパソコン以外の機器（たとえば電話機など）と共用する場合は、機器を使用するごとにケーブルの接続や取り外しが必要になります。パソコンと電話機などを両方とも電話回線に接続したままにしたい場合は、次の「1つの電話回線にパソコンと電話機の両方を接続する」をご覧ください。

1つの電話回線にパソコンと電話機の両方を接続する

電話回線のモジュラージャックが1つの場合、パソコンで通信している間は、電話機のモジュラーケーブルの接続を取り外す必要があります。電話機のモジュラーケーブルを取り外したくない場合は、市販の分岐アダプタを利用することができます。

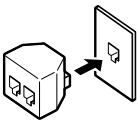
⚠警告

●雷が鳴りだしたら、本機や電源コードに触れないでください。また、機器の接続や取り外しを行わないでください。落雷による感電のおそれがあります。

⚠注意

●モジュラージャックの端子に触れないでください。電話回線と接続しているモジュラージャックを抜いたときに電話がかかってくると、電話回線上に電圧がかかるため、端子に触れると感電することがあります。

1 分岐アダプタをモジュラージャックに接続する



2 モジュラーケーブルを、分岐アダプタの一方と内蔵モデムのモジュラージャックに接続する

3 電話機と分岐アダプタのもう一方のモジュラージャックを接続する

チェック

- 分岐アダプタを使用しても、パソコンと電話機が同時に電話回線を使用することはできません。
- パソコンで通信中は、電話機の受話器を外さないでください。通信が妨害され、切断されることがあります。

メモ

分岐アダプタの2つのモジュラージャックは同じものです。電話機とパソコンのどちらも接続可能です。

内蔵モデム使用上の注意

- このパソコンでは、データ通信、ファクシミリ通信、インターネット通信の各機能が使えますが、これらの機能は添付のアプリケーション以外では動作しない場合があります。これらの機能の詳しい使用方法については「サポートセンタ」をご覧ください。
- 内蔵FAXモデムは一般電話回線のみに対応しています。
- 構内交換機（PBX）の種類によっては、内蔵FAXモデムが使用できない場合があります。
- 加入電話回線がトーン式かパルス式かわからないときは、NTTに確認してください。
- 回線の状態によっては、接続しにくかったり、通信時に雑音が入ることがあります。
- キャッチホンサービスを受けている場合、モデムで通信中に電話がかかってくると、モデムによる通信が切れる場合があります。
- ダイヤルアップネットワーク接続の場合、Internet Explorerを終了しても回線が接続されたままになっている場合があります。回線を切断する必要がある場合は、インジケータ領域（タスクトレイ）の「ダイヤルアップネットワーク」アイコンを右クリックし、表示されたメニューから「切断」をクリックしてください。
- コードレスホンや親子電話などの加入電話回線以外の回線を使っている場合は、正常なデータの送受信ができなくなる場合があります。
- 回線の状態によっては、希望の通信速度で通信できない場合があります。
- 電話局の交換機の種類によっては、14400bpsでのファクシミリ通信ができないことがあります。この場合には、通信速度を9600bpsにしてください。
- データ通信を行う場合、フロー制御はRTS/CTSに設定してください。それ以外に設定すると、データ抜けが生じる可能性があります。
- 通常の電話回線を使用する場合、送信レベルは購入時の設定から変更する必要はありません。ただし、回線状態が悪く、うまく接続できない場合には、送信レベルの調整が必要なことがあります。送信レベルの調整は、工事担任者以外が行うことは法律で禁じられていますので、当社指定のサービス窓口にお問い合わせください。
- このパソコンに内蔵されているモデムは、海外では使用できません。
- 回線を使って通信中は、スタンバイ状態や休止状態にしないでください。
- ハイパーターミナルなどを使って通信する場合、ATコマンドが必要です。
- 内蔵FAXモデムで通信を行う場合は、使用していないアプリケーションを終了させてください。

参照

ATコマンドについて→「サポートセンタ」-「ハードウェア情報」-「ATコマンド一覧」

インターネットへの通信環境を切り替える

インターネット設定切替ツールを使うと、複数のダイヤルアップ接続を使い分けたり、ダイヤルアップ接続からLAN接続へ切り替えたりと、利用シーンに応じて通信環境を切り替えることができます。
パソコンを携帯して、外出先でインターネットを利用するときなどに便利な機能です。

参照

「インターネット設定切替ツール」の詳しい使いかた→「添付ソフトの使い方」→「インターネット設定切替ツール」

携帯電話／PHS接続機能

携帯電話またはPHSと接続する

このパソコンに携帯電話やPHSを接続して、屋外でもインターネットや電子メールを利用することができます。
このパソコンで携帯電話やPHSを接続する場合は、次のような別売のPHS接続ケーブルや携帯電話接続ケーブルが必要です（LaVie Gシリーズでそれぞれのケーブル添付のモデルを購入された場合を除く）。

- 携帯電話（DoPa/PDC）接続ケーブル（PC-VP-WK05）
- cdmaOne接続ケーブル（PC-VP-WK06）
- PHS（NTTドコモ／アステル）接続ケーブル（PC-VP-WK07）
- PHS（DDIポケット）接続ケーブル（PC-VP-WK08）

メモ

接続できる携帯電話またはPHSについては、NECのホームページ「121ware.com（ワントゥワンウェア ドット コム）」をご覧ください。

http://121ware.com/

接続の方法

このパソコンに携帯電話またはPHSを接続する方法は、次のとおりです。

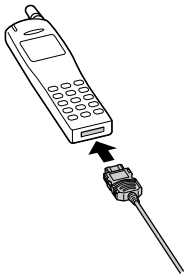
⚠警告

感電注意

●雷が鳴り出したら、本機や電源コードに触れないでください。また、機器の接続や取り外しを行わないでください。落雷による感電のおそれがあります。

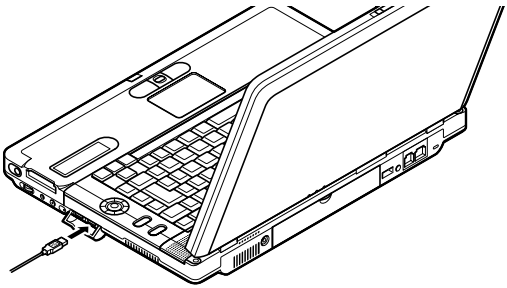
1 携帯電話接続ケーブルまたはPHS接続ケーブルのプラグを、携帯電話またはPHS本体に接続する

プラグの向きに注意し、カチッと音がして止まるまで軽く押し込んでください。



2 パソコンのUSBコネクタ()に、ケーブルのUSBプラグを接続する

プラグの向きに注意して、止まるまで軽く押し込んでください。
本体のどのUSBコネクタに接続してもかまいません。



携帯電話／PHS接続機能使用上の注意

- このパソコンの携帯電話／PHS接続機能で使用できるアプリケーションは、購入時にインストールまたは添付されているもののみです。携帯電話またはPHS用に市販されているアプリケーションを使用することはできません。
- ハイパーターミナルなどを使って通信する場合、ATコマンドが必要です。

参照

ATコマンドについて→「サポートセンタ」-「ハードウェア情報」-「ATコマンド一覧」

接続先を設定する

プロバイダなどへの接続先を、携帯電話またはPHSを使用した接続設定にする場合は、「ダイヤルアップネットワーク」で「新しい接続」を作成するときに、「モデムの選択」で「SunComm MultiMobile3 USB」を選んでください。

チェック

お使いの携帯電話またはPHSによっては、電話機側に設定が必要な場合や専用のアクセスポイントへの接続が必要な場合があります。詳しくは携帯電話、PHSのマニュアルをご覧ください。また、専用のアクセスポイントについては、インターネットのサービスプロバイダにお問い合わせください。

ダイヤル設定のしかた

携帯電話またはPHSを接続して、屋外などでインターネットや電子メールをご利用になる場合、近くのアクセスポイントを使えば電話料金を節約することができます。

メモ

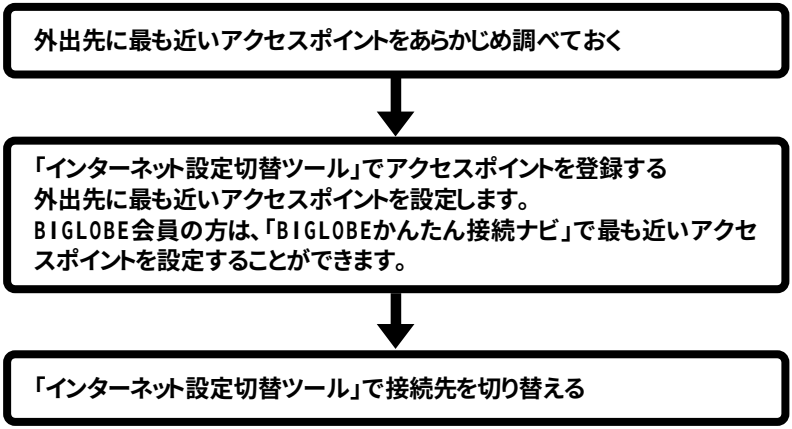
ここでの説明は、すでにプロバイダとの契約が終わっていることが前提となっています。

このパソコンに添付されている「インターネット設定切替ツール」を使って、モバイルする場所にあわせて最適な設定へ簡単に切り替えることができます。
ご購入時の状態では、「インターネット設定切替ツール」はインストールされていません。「インターネット設定切替ツール」を使う場合は、添付の「アプリケーションCD-ROM」を使ってインストールしてください。

参照

「インターネット設定切替ツール」のインストール→「サポートセンタ」-「アプリケーションの追加と削除」

「インターネット設定切替ツール」でアクセスポイントなどの設定を切り替えるには、まず自分が使用する予定の場所の市外局番やダイヤル方法、アクセスポイントを設定しておく必要があります。
一度設定すると、接続先を選ぶだけでインターネットエクスプローラやメールソフトの設定など、インターネットへの接続環境をすべて同時に変更することができます。
外出先でも快適にモバイルするために、以下の説明を読んで必要な設定を行ってください。



これで外出先でインターネットやメールを楽しむことができます。

メモ

- アクセスポイントを変更しなくてもインターネットやメールを楽しむことはできますが、アクセスポイントまでの電話料金がたくさんかかることになります。最も近いアクセスポイントに変更することによって電話料金をおさえることができます。
- 「BIGLOBEかんたん接続ナビ」でアクセスポイントを変更する→「添付ソフトの使い方」-「インターネットするならBIGLOBE」

参照

「インターネット設定切替ツール」の詳しい使いかた→「添付ソフトの使い方」-「インターネット設定切替ツール」

設定を元に戻す

外出先でインターネットやメールを楽しんだあとは、変更した設定を元に戻す必要があります。
外出時にインターネット接続に関する設定を変更しなかった場合は、そのままインターネットやメールを楽しめます。

インターネット接続の設定を元に戻す
「インターネット設定切替ツール」でインターネット接続の設定を自宅の設定に戻します。

自宅のインターネット接続の設定を「インターネット設定切替ツール」に登録していない場合は、p.111のフローチャートを参考にして、「インターネット設定切替ツール」に自宅でのインターネット接続の設定を登録してください。

参照
「インターネット設定切替ツール」の詳しい使いかた→「添付ソフトの使い方」-「インターネット設定切替ツール」

いろいろなデータ通信を行う

このパソコンの携帯電話／PHS接続機能では、通常のデータ通信のほかに、次のようなデータ通信を行うことができます。

cdmaOneでデータ通信を行う

cdmaOne電話機のデータ通信モードを「Async」に設定して接続すると、cdmaOneでデータ通信が利用できます。
cdmaOne電話機のデータ通信モードを「Packet」に設定してUSBコネクタに接続すると、cdmaOneでPacket通信が利用できます。「Async」モードおよび「Packet」モードの切り替えは、cdmaOneの取扱説明書をご覧ください。

チェック
cdmaOneを使用するには、別売のcdmaOne接続ケーブル(PC-VP-WK06)が必要です(LaVie GシリーズのcdmaOne接続ケーブル添付のモデルを購入された場合を除く)。

NTTドコモのDoPaサービスでデータ通信を行う

次の手順を行うとNTTドコモのDoPaサービス(パケット通信サービス)を利用できます。

チェック

NTTドコモのDoPaサービスを使用するには、別売の携帯電話(DoPa/PDC)接続ケーブル(PC-VP-WK05)が必要です(LaVie Gシリーズの携帯電話(DoPa/PDC)接続ケーブル添付のモデルを購入された場合を除く)。

1 NTTドコモのDoPaサービスが利用可能な携帯電話を、携帯電話(DoPa/PDC)接続ケーブルを使ってパソコンのUSBコネクタに接続する

2 「ダイヤルアップの接続」画面で、電話番号の最後に「##02」を追加する

チェック

- DoPaによる通信をする場合には、DoPa対応のアクセスポイントへ接続する必要があります。
- DoPaサービスを利用せずに9600bpsデータ通信を行う場合には、「##02」を追加する必要はありません。

NTTドコモのドッチーモでPIAFS32Kのデータ通信を行う

次の手順を行うとNTTドコモのドッチーモでPIAFS32Kの通信が利用できます。

チェック

NTTドコモのドッチーモでPIAFS32Kのデータ通信を使用するには、別売の携帯電話(DoPa/PDC)接続ケーブル(PC-VP-WK05)が必要です(LaVie Gシリーズの携帯電話(DoPa/PDC)接続ケーブル添付のモデルを購入された場合を除く)。

1 ドッチーモを、携帯電話(DoPa/PDC)接続ケーブルを使ってパソコンのUSBコネクタに接続する

2 「ダイヤルアップの接続」画面で、電話番号の最後に「##3」を追加する

チェック

- ドッチーモでPIAFS32K通信を行う場合には、ドッチーモの待ち受けモードを「PHS専用」に切り替える必要があります。
- NTTドコモ、アステル、DDIポケットのPHSを接続している場合は、「##3」を追加する必要はありません。

NTTドコモのPHS（64K対応）またはドッチーモでPIAFS64Kのデータ通信を行う

次の手順を行うとNTTドコモのPHS（64K対応）またはドッチーモでPIAFS64Kの通信が利用できます。

チェック

- NTTドコモのPHSを使用するには、別売のPHS（NTTドコモ／アステル）接続ケーブル（PC-VP-WK07）が必要です（LaVie GシリーズのPHS（NTTドコモ／アステル）接続ケーブル添付のモデルを購入された場合を除く）。
- NTTドコモのドッチーモでPIAFS64Kのデータ通信を使用するには、別売の携帯電話（DoPa/PDC）接続ケーブル（PC-VP-WK05）が必要です（LaVie Gシリーズの携帯電話（DoPa/PDC）接続ケーブル添付のモデルを購入された場合を除く）。

1 NTT ドコモのPHS（64K対応）またはドッチーモを、接続ケーブルを使ってパソコンのUSBコネクタに接続する

2 「ダイヤルアップの接続」画面で、電話番号の最後に「##4」を追加する

チェック

- ドッチーモでPIAFS64K通信を行う場合には、ドッチーモの待ち受けモードを「PHS専用」に切り替える必要があります。
- PIAFS64K通信モードで、PIAFS32K専用のアクセスポイントへ誤って接続した場合、いったん接続した後で切断されることがあります。PIAFS64Kで通信を行う場合は、必ずPIAFS64K対応のアクセスポイントに接続してください。

DDIポケットの電話機（32K対応）でPIAFS32Kのデータ通信を行う

チェック

DDIポケットの電話機を利用するには、別売のPHS（DDIポケット）接続ケーブル（PC-VP-WK08）が必要です（LaVie GシリーズのPHS（DDIポケット）接続ケーブル添付のモデルを購入された場合を除く）。

1 DDIポケットの電話機（32K対応）を接続ケーブルを使ってパソコンのUSBコネクタに接続する

2 「ダイヤルアップの接続」画面で、電話番号の最後に「##3」を追加する

チェック

DDIポケットの電話機を使ってPIAFS32Kデータ通信を行う場合には、PIAFSに対応したアクセスポイントに接続する必要があります。

DDIポケットのH"(エッジ)でPIAFS64Kのデータ通信を行う

チェック

DDIポケットのH"を使用するには、PHS(DDIポケット)接続ケーブル(PC-VP-WK08)が必要です(LaVie GシリーズのPHS(DDIポケット)接続ケーブル添付のモデルを購入された場合を除く)。

1 H"(電話機)を接続ケーブルを使ってパソコンのUSBコネクタに接続する

2 「ダイヤルアップの接続」画面で、電話番号の最後に「##4」を追加する

チェック

- 電話番号の最後に「##4」を追加せずに発信すると32Kbpsでの接続になります。
- 一部の地域では64Kbpsでのデータ通信ができない場合がありますが、32Kbpsでのデータ通信は可能です。
- 回線の混雑具合により、32Kbpsで接続される場合があります。

携帯電話連携機能

携帯電話連携機能とは

このパソコンには、携帯電話をより便利に使うためのアプリケーションがインストールされています。携帯電話に登録してある情報を編集したり、パソコンで入力した予定表や連絡先、パソコンで作成した画像などのデータを、iモード機能を備えている携帯電話で閲覧することができます。

携帯電話に登録してある情報を編集する

このパソコンと携帯電話を接続して、携帯電話に登録してある電話番号や連絡先などの情報をパソコン上で編集することができます。編集作業には「携快電話4N」を使います。また、携快電話4Nでは、着信メロディやメールの編集に利用することもできます。

携快電話4Nを使う

携快電話4Nを使うためには、次の装置が必要です。

- 市販の携帯電話
- 携帯電話接続ケーブル

  このパソコンと携帯電話を接続するためのケーブルです。
  LaVie Gシリーズの携帯電話(DoPa/PDC)接続ケーブル添付のモデル、LaVie GシリーズのcdmaOne接続ケーブル添付のモデルには携帯電話接続ケーブルが添付されています。
  上記以外のモデルをお使いの場合は、別売の携帯電話(DoPa/PDC)接続ケーブル(PC-VP-WK05)、またはcdmaOne接続ケーブル(PC-VP-WK06)が必要です。携帯電話の機種によって接続できるケーブルが異なりますので、購入の際に確認してください。

メモ

携快電話4Nが使える携帯電話の機種、注意事項などの情報は、NECのホームページ「121ware.com(ワントゥワンウェア ドット コム)」やReadmeファイルをご覧ください。

- ホームページのアドレス　http://121ware.com/
- 「スタート」ボタン→「プログラム」→「携快電話4N」→「お読みください」をクリックすると表示される携快電話4NのReadmeファイル

参照

携快電話4Nの詳しい使いかた→携快電話4Nのヘルプまたは「添付ソフトの使い方」-「携快電話4N」

iモード機能を備えている携帯電話と連携して使う

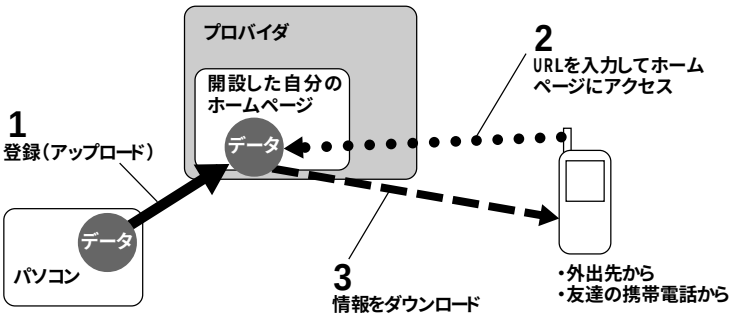
予定表や連絡先をホームページ上で入力したり、作成した画像データなどをあらかじめホームページに登録しておき、そのデータをiモード機能を備えている携帯電話を使って閲覧することができます。
携帯電話でデータを閲覧できるようにするためには、次の装置が必要です。

● iモード機能を備えた市販の携帯電話

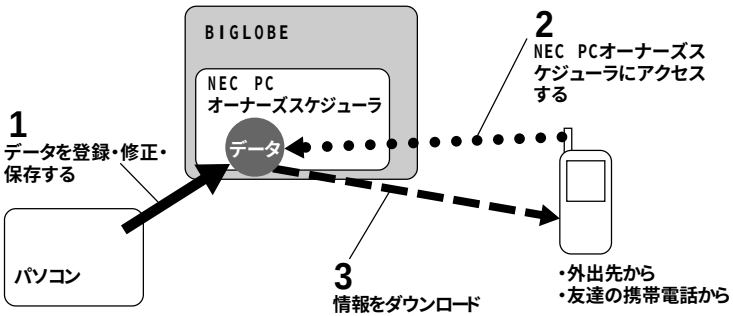
携帯電話でデータを閲覧するには

次の図のような流れでデータを登録し、携帯電話で閲覧します。

● 自分のホームページを使用する場合



● NEC PCオーナーズスケジューラを使用する場合



携帯電話でデータを閲覧するための準備

● インターネットに接続できる環境にする

プロバイダに入会してインターネットに接続できるように設定しておきます。

参照

インターネットに接続する→『はじめにお読みください』の「インターネットに接続しよう」または『使っておぼえるパソコンの基本』または「添付ソフトの使い方」-「インターネットをはじめたい」

● 閲覧したいデータを置いておく場所を確保する

・自分のホームページスペースを開設する

FTPプロトコル（インターネット上でファイル転送するための規格）に対応した、インターネットに公開可能なホームページスペースを開設しておきます。
ホームページの開設方法は、各プロバイダに確認してください。

メモ

ここでいうホームページスペースとは、プロバイダに入会して開設した個人ホームページのことです。開設した個人ホームページに自分の予定表や好きな画像などのデータを登録し、携帯電話からその場所を閲覧します。

・NEC PCオーナーズスケジューラに登録する

NEC PCオーナーズスケジューラは、予定表、アドレス帳などの情報をインターネット上でまとめて管理するためのホームページです。
NEC PCオーナーズスケジューラの基本サービスへの登録は無料です。

NEC PCオーナーズスケジューラのURL
http://www.biglobe.ne.jp/nec_pc/imodel/schedule/

携帯電話で登録したデータを見る

インターネットに接続できる環境にし、データを置いておく場所を確保する(→p.118)

予定表や連絡先などを携帯電話で見たい

NEC PCオーナーズスケジューラに予定表などの情報を登録する

NEC PCオーナーズスケジューラにアクセスし、情報を登録します。予定をカレンダで管理したり、アドレス帳を利用することができます。

→ NEC PCオーナーズスケジューラのヘルプ

ホームページのアドレスを入力して、登録したデータを携帯電話のiモード機能で見る

→ お使いの携帯電話のマニュアル

NEC PCオーナーズスケジューラにアクセスし、メンバー名とパスワードを入力すると、登録したデータを見ることができます。

→ NEC PCオーナーズスケジューラのヘルプ

写真画像を携帯電話で見たい

携帯電話で見ることができるように写真画像を変換する

このパソコンの「スナップショット」を使って、画像データを携帯電話のiモード機能で見ることができる画像データに変換できます。

→ スナップショットのヘルプ

→「添付ソフトの使い方」-「スナップショット」

画像データを個人ホームページに登録する

開設した個人ホームページに画像データを登録します。

→ 各プロバイダごとのホームページへのデータの登録(アップロード)方法

BIGLOBEに入会している場合は、BIGLOBEのiモードサービス「らくらくピクチャー・ミニfor iモード」(有料)が利用できます。らくらくピクチャー・ミニfor iモードでは、アルバム形式でホームページに画像を登録できます。

ホームページのアドレスを入力して、登録したデータを携帯電話のiモード機能で見る

→ お使いの携帯電話のマニュアル

LAN（ローカルエリアネットワーク）

ここでは、LAN内蔵モデルについての説明をしています。

LANへの接続

このパソコンの内蔵LANボードは、100BASE-TXまたは10BASE-Tネットワークシステムに接続することができます。

メモ

100BASE-TXは、従来のEthernet（10BASE-T）の環境で転送速度100Mbpsを実現したネットワークです。従来のネットワーク構成を変更せずに既存のハブやリンクケーブルを変更するだけで、高速化がはかれます。このパソコンは、どちらの環境にも接続することができます。

LANの設置

はじめて100BASE-TXネットワークを設置するためには、配線工事などの技術が必要ですので、ご購入元または当社指定のサービス窓口にお問い合わせください。また、このパソコンに接続するケーブル類やハブなどは、当社製品を使用してください。他社製品を使用し、システムに異常が発生した場合の責任は負いかねますので、ご了承ください。

接続方法

既存のネットワークに、端末としてこのパソコンを接続する場合について説明します。

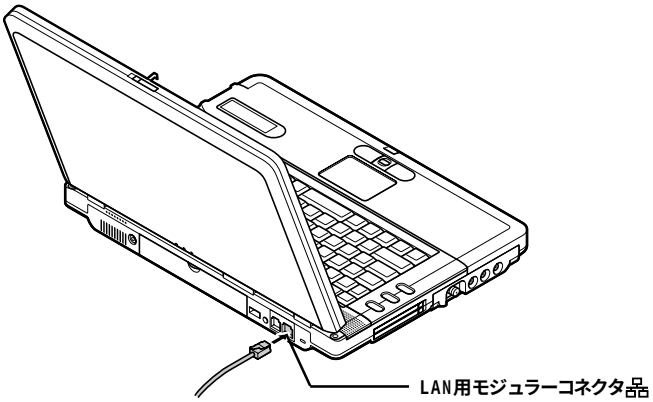
ネットワークへの接続には、リンクケーブルが必要です。
このパソコンに内蔵されているLANインターフェイスは、100Mbpsで動作する100BASE-TX基準を満たしています。100BASE-TX（100Mbps）で使用するときには、必ずカテゴリ5のリンクケーブルを使用してください。10BASE-T（10Mbps）で使用するときには、カテゴリ3または5のリンクケーブルを使用してください。

チェック

このパソコンを稼働中のLANに接続するには、システム管理者またはネットワーク管理者の指示にしたがって、ネットワークの設定やリンクケーブルの接続を行ってください。

1 パソコンを使用中の場合は、「スタート」ボタン→「Windowsの終了」で▼をクリックして「終了」を選び、「OK」ボタンをクリックして電源を切る

2 リンクケーブルの一端を、このパソコンのLAN用モジュラーコネクタに、奥までしっかり差し込む



3 リンクケーブルのもう一方を、ネットワーク（100BASE-TXハブなど）に接続する

ネットワーク側の接続や設定については、接続した機器のマニュアルをご覧ください。

運用上の注意

LANに接続してこのパソコンを使用するときは、次の点に注意してください。

- システム運用中は、ハブからリンクケーブルを外さないでください。ネットワークが切断されます。ネットワーク接続中にリンクケーブルが外れた場合は、すぐに接続することで復旧し、使用できる場合もありますが、使用できない場合は、Windowsを再起動してください。
- LAN回線を接続してネットワーク通信をする場合には、このパソコンにACアダプタを接続して使用するようにしてください。バッテリパックのみで使用すると、使用時間が短くなります。
- ネットワーク（LAN）に接続して通信状態の場合は、スタンバイ状態や休止状態にしないでください。このパソコンが正常に動かなくなることがあります。
- 100BASE-TX/10BASE-Tシステムの保守については、ご購入元または当社指定のサービス窓口にお問い合わせください。

電源回復（スタンバイ状態からの復帰）の設定

次の設定を行うと、このパソコンをネットワークに接続して使用している場合、電源回復イベントが発生したときに、パソコンをスタンバイ状態から自動的に復帰させることができます。

メモ

電源回復イベントには、従来からサポートされているMagicPacket検出に加えて、電源回復フレーム検出（例えば、ARPリクエスト、NETBIOS名検索、コンピュータに直接送られてきたIPフレームなどの検出）が追加されています。

ARPリクエスト、NETBIOS名検索、コンピュータに直接送られてきたIPフレームなどは、コンピュータをネットワークに接続して使用していると、他のコンピュータから不定期に送られてくるため、パソコンをスタンバイ状態にしておくと、これらが検出されたときに、不定期にスタンバイから復帰することがあります。

チェック

電源回復イベントの設定を行った場合は、購入時の設定で使う場合にくらべて、パソコンのバッテリの消費量が大きくなります。バッテリ駆動時間を優先してパソコンを使いたい場合は、電源設定は行わずに出荷時の設定で使用してください。

1 「コントロールパネル」を開き、「システム」アイコンをダブルクリックする

2 「デバイスマネージャ」タブをクリックする

3 「ネットワークアダプタ」の左の⊞をクリックして、表示されたLANアダプタをダブルクリックする

4 「電源の管理」タブをクリックする

5 以下の設定を行う
- 「節電のために、コンピュータでこのデバイスの電源をオフにできるようにする」が☑になっていることを確認する
- 「コンピュータのスタンバイ解除の管理をこのデバイスで行う」の☐をクリックして☑にする

ユニバーサル管理アドレス（MACアドレス）

ユニバーサル管理アドレスは、IEEE（米国電気電子技術者協会）で管理されているアドレスで、主に他のネットワークに接続するときなどに使用します。ユニバーサル管理アドレスは、次の方法で確認することができます。

MS-DOSプロンプトで、次のコマンドを入力してください（ただし、TCP/IPプロトコルが必要です）。
Winipcfg.exe【Enter】

CATVでインターネットを利用する

このパソコンに内蔵されているLANインターフェイスから、CATVインターネットを利用することができます。

CATVインターネットとは

CATVインターネットは、CATVのケーブルを利用したインターネット接続サービスです。
約500Kbps～約10Mbps（モデムの約10～100倍）の高速な接続が可能です。また、電話回線を利用しないため、電話料金がかかりません（ただしCATVインターネットのサービス会社への接続料金はかかります）。

メモ

データの転送速度は、CATVインターネットのサービス会社によって異なります。また、データの転送速度は、回線の混雑の状況、データを転送する状況（アップロード時か、ダウンロード時か）によって変化することがあります。

CATVインターネットを利用するには

CATVインターネットを利用するには、CATVインターネットのサービス会社（最寄りのCATV局）と契約が必要です。最寄りのCATV局に、インターネットの接続サービスを行っているか、確認してください。
CATVインターネットへの接続方法や設定方法については、CATVインターネットのサービス会社に確認してください。
CATVインターネットのサービス会社によっては、ユニバーサル管理アドレス（MACアドレス）が必要になります。ユニバーサル管理アドレス（MACアドレス）については、前述の「ユニバーサル管理アドレス（MACアドレス）」をご覧ください。

ワイヤレスLAN

ここでは、ワイヤレスLANモデルについての説明をしています。

ワイヤレスLAN機能を使うと、次のようなことができます。

・他のパソコンとのファイルやプリンタの共有
・無線LANネットワークの構築

ワイヤレスLANについて詳しくは『ワイヤレスLAN（無線LAN）について』をご覧ください。

Bluetooth™機能

ここでは、Bluetooth™モデルについての説明をしています。

Bluetooth™機能を使うと、次のようなことができます。

・他のBluetooth™対応パソコンとのワイヤレス通信
・Bluetooth™対応周辺機器とのワイヤレス通信

Bluetooth™について詳しくは『Bluetooth™について』をご覧ください。

ADSLについて

ADSLの特長

ADSL(Asymmetric Digital Subscriber Line(非対称デジタル加入者回線)※1)とは、ご家庭にある一般の電話回線(アナログ回線)を使って、インターネットに高速で接続できるようにする技術です。ADSLには次のような利点があります。

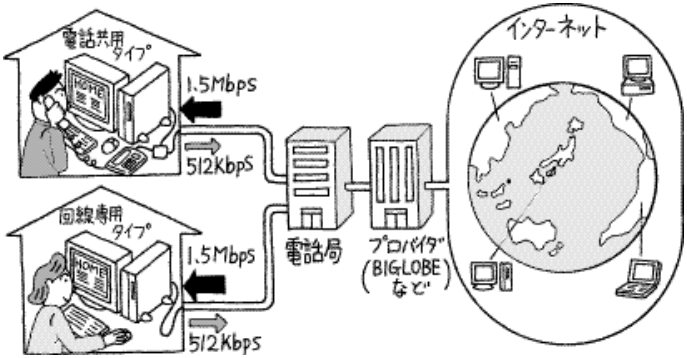
- ご家庭にある一般の電話回線(アナログ電話回線)で利用できる(専用の回線が不要)
- 通常のモデムやISDN回線(INSネット64)の約10倍～20倍のスピード※2で接続できる
- インターネットに常時接続でき、定額料金のため、いつでも好きなだけ利用できる※3
- 一つの回線で電話とインターネットを同時に利用できる(「電話共用タイプ」の場合)※4

※1 下り方向(インターネットからパソコンへデータをダウンロードする)の速度と、上り方向(パソコンからインターネットへデータをアップロードする)の速度が違うためこう呼ばれます。

※2 下り方向の最高速度は1.5Mbps、上り方向の最高速度は512Kbpsとなります。この速度は最大速度(最大回線速度)であり、実際の接続速度を保証するものではありません。回線の状況によっては、最大速度に達しない場合があります。

※3 プロバイダ、ADSL回線接続業者とのご契約形態によります。

※4 ADSL回線使用中、FAXモデムボードにモジュラーケーブルを接続して、ダイヤルアップ接続をすることはできません。



ADSLを利用するにあたって

ADSLを利用するためには、ご利用の地域がADSLサービスの提供区域内であることを確認してください。
また、ADSLの利用には、別売のADSLモデムが必要です。

ADSLについては、以下のホームページの情報をご覧ください。

http://www.biglobe.ne.jp/service/adsl/

PART

3

マルチメディア機能

このパソコンで、音楽や映像の再生や編集を行う方法を説明します。

音楽の再生／編集機能

音楽を再生するには

このパソコンで音楽CDや音楽データを再生するには次のような方法があります。

● CDプレイモードで音楽CDを再生する（→p.132）

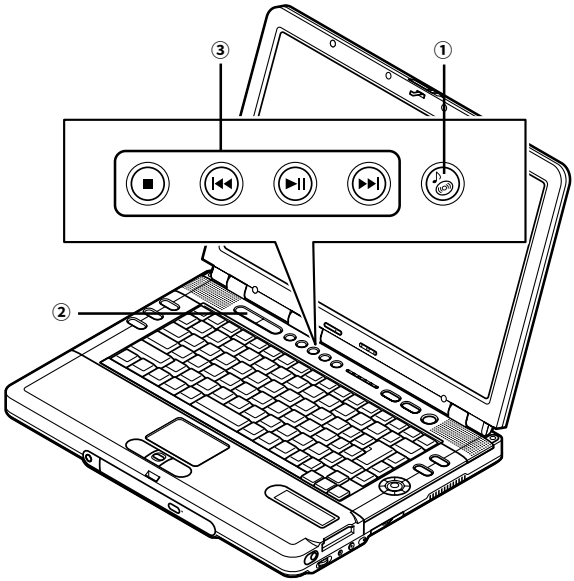
メモ

CDプレイモードとは、電源が入っていない状態、またはスタンバイ状態や休止状態のときに、パソコンをオーディオ機器としてのみ使用するためのモードです。パソコンの電源が入っていない、またはスタンバイ状態や休止状態のときに、オーディオ電源スイッチを押すことによりCDプレイモードになります。

● Windows Meを起動して音楽CDや音楽データを再生する（→p.133）
- Jet-Audio Playerを使う

音楽を再生するときに便利なボタン

CD/DVDプレーヤボタンを使って音楽CDの操作ができます。



① オーディオ電源スイッチ

CDプレイモードを起動します。
CDプレイモードの場合は、青色に点灯します。また、液晶ディスプレイを開けると、約10秒間、オレンジ色に点灯します。

メモ

パソコンの電源が入っているときはCDプレイモードにはなりません。

② LCDインジケータ

LCDインジケータには次のような内容が表示されます。

状態	表示内容
再生中／一時停止中	▶_ _ －－には現在のトラックナンバー（曲番）が表示されます。 一時停止中はトラックナンバーが点滅します。
停止時	■1
ディスクが入っていない／音楽CD以外のディスクがセットされている	■－ －
スリープモード（節電モード）	S P

メモ

LCDインジケータは、トラックナンバー以外はCDプレイモードでのみ表示されます。

③ CD/DVDプレーヤボタン

CD/DVDプレーヤボタンには次の機能があります。

ボタン	機能
■	停止
I◀◀	前のトラック／押し続けると巻き戻し
▶II	再生／一時停止
▶▶I	次のトラック／押し続けると早送り

また、CDプレイモードの場合は、各ボタンが青色に点灯します。

チェック

- Windows Meが起動している場合、CD/DVDプレーヤボタンは、このパソコンにインストールされている「Jet-Audio Player」でのみ使うことができます。
- ワンタッチスタートボタンが無効に設定されている場合には、CD/DVDプレーヤボタンでJet-Audio Playerを操作することはできません。

音楽再生機能を使用しているときの注意

- CDプレイモードで音楽CDを再生中に電源スイッチを押すと、CDプレイモードは停止し、Windows Meが起動します。
- バッテリのみで使用中に、CDプレイモードで音楽CDを再生していると、バッテリがなくなった時点で電源がオフになります。このとき、バッテリ容量が残り少なくなったことを知らせる警告音は鳴りません。
- CDプレイモードでの音楽CDの再生が終了すると、約2分後にCDプレイモードはスリープモードに変わります。このとき、LCDインジケータには「SP」と表示されます。CDプレイモードがスリープモードに入っているときは、CD再生ボタン(▶II)を押すとスリープモードから復帰します。再度音楽CDを再生する場合は、もう一度CD再生ボタン(▶II)を押してください。

CDプレイモードで音楽CDを再生する

1 パソコンの電源が入っていないとき、またはスタンバイ状態や休止状態のときに、オーディオ電源スイッチ(♪)を押す

2 CD-R/RW with DVD-ROMドライブに音楽CDをセットする
音楽CDをセットすると、LCDインジケータに「1」と表示されます。これで再生の準備ができました。

参照

セットのしかた→PART1の「CD-R/RW with DVD-ROMドライブ」の「ディスクのセットのしかたと取り出しかた」(p.55)

チェック

音楽CDをセットしてからLCDインジケータに「1」と表示されるまで数秒かかります。しばらくお待ちください。

3 CD再生ボタン(▶II)を押す
音楽CDの再生が始まります。

メモ

- トラック(曲)を次や前に移動したいときや、再生を停止または一時停止したい場合は、CD/DVDプレーヤボタンを利用してください。トラックを移動すると、LCDインジケータに現在のトラックナンバーが表示されます。
- 音量は、外付けスピーカの音量調節つまみと本体右側面にある音量調節つまみで調節します(→p.96〜p.97)。

Jet-Audio Playerを使う

Jet-Audio Playerは、音楽CDやMP3規格の音楽データやDVD VIDEOディスクなどを再生できるアプリケーションです。また、音楽データをWAVEファイルに変換したり、MP3、WAVE、MIDIなどの音楽データをMDに録音することもできます。

メモ

MP3とは、MPEG1 Audio Layer-3の略で、音楽データを高音質のまま高い圧縮率で保存できる規格のことです。MP3規格の音楽データは、インターネットなどからダウンロードすることができます。

チェック

Jet-Audio Playerを起動すると、「DVD再生の性能は、他のアプリケーションの起動状態等ご利用の環境により異なる場合があります」というメッセージが表示されます。この画面を起動時に表示させないようにするには、表示された注意事項をお読みのうえ、「今後、この画面を表示しない」の☐をクリックして☑にして「閉じる」ボタンをクリックしてください。
次回起動時から、この画面が表示されなくなります。

参照

Jet-Audio Playerの使いかた→「スタート」ボタン→「プログラム」→「Jet-Audio Player」→「使い方マニュアル」

■ ジョグホイールで便利に使う

早送り、巻き戻しなどの機能をジョグホイールでもコントロールすることができます。

機能	ジョグホイールの操作
早送り	ジョグホイールセンターボタンを右にたおす
巻き戻し	ジョグホイールセンターボタンを左にたおす
音量を上げる	ジョグホイールセンターボタンを上にたおす
音量を下げる	ジョグホイールセンターボタンを下にたおす
次のトラックに進む	ジョグホイールを右に回す
前のトラックに戻る	ジョグホイールを左に回す

■ リモコンで便利に使う

早送り、巻戻しなどの機能をリモコンでもコントロールすることができます。
詳しくは添付の『リモコンについて』をご覧ください。

編集してオリジナルMDを作る

このパソコンのヘッドホン／光デジタルオーディオ（S/PDIF）出力端子と、光デジタルオーディオ入力端子をもつ市販のMDデッキを接続すると、音楽CDやMP3データの曲をパソコンで再生しながら、MDに録音することができます。録音するには、次のような方法があります。

チェック

- パソコンとMDデッキを接続するには、市販の光デジタル接続ケーブルをお買い求めください。
- MDデッキの機能や録音のしかたなどについては、MDデッキのマニュアルをご覧ください。
- お客様がオリジナルのCD-ROM、音楽CD、ビデオCDなどの複製や改変を行う場合、オリジナルのCD-ROMなどについて著作権を保有していなかったり、著作権者から複製・改変の許諾を得ていない場合は、著作権法または利用許諾条件に違反することがあります。複製などの際は、オリジナルのCD-ROMなどの利用許諾条件や複製などに関する注意事項にしたがってください。

Jet-Audio Playerで再生しながらMDに録音する

Jet-Audio Playerを使って、音楽CDやMP3などの音楽データをMDに録音するときは、次のような操作を行います。

■ 操作の流れ

市販のMDデッキと接続ケーブルを用意する
- 光デジタルオーディオ入力端子をもつ市販の録音機能付きMDデッキ
- 市販の光デジタル接続ケーブル

このパソコンのヘッドホン／光デジタルオーディオ（S/PDIF）出力端子の形状と、MDデッキの光デジタル入力端子の形状を確認してください。

光デジタル接続ケーブルを使って、このパソコンとMDデッキを接続する

このパソコンのヘッドホン／光デジタルオーディオ（S/PDIF）出力端子とMDデッキの光デジタル入力端子に市販の光デジタル接続ケーブルを接続します。

→ PART4の「その他の機器を使う」の「ヘッドホン／光デジタルオーディオ（S/PDIF）出力端子」（p.229）

→ お使いのMDデッキのマニュアル

光デジタルオーディオ（S/PDIF）出力端子から、光デジタルで出力できる設定になっていることを確認する

光デジタルオーディオ（S/PDIF）出力端子から音楽データを光デジタル出力する場合や、音楽CDからのデジタル出力を光デジタルで出力する場合は、出力できるようになっているかを確認しておいてください。

→ PART1の「サウンドの機能」の光デジタルオーディオ（S/PDIF）出力機能について（p.101）

→ PART1の「サウンドの機能」の音楽CDのデジタル出力設定（p.102）

Jet-Audio Playerを起動し、録音の準備をする

Jet-Audio Playerを起動したら、録音する音楽データを選びます。また、音楽データを録音する順番に並び替えて録音することもできます。

→ Jet-Audio Playerのオンラインマニュアル

録音する

Jet-Audio Playerで音楽データを再生し、MDデッキでの録音を開始します。MDデッキによっては、Jet-Audio Playerを再生すると同時に自動的に録音を開始できるように設定できます。

→ Jet-Audio Playerのオンラインマニュアル

→ 録音のしかた→お使いのMDデッキのマニュアル

編集してオリジナル音楽CDを作る

このパソコンにインストールされているEasy CD Creatorを使うと、音楽CDなどから好きな曲を選んでCD-Rに書き込み、オリジナル音楽CDを作ることができます。Easy CD Creatorを使って作成したオリジナル音楽CDは、家庭用のCDプレーヤー、カーステレオ用のCDプレーヤー、パソコンについているCD-ROMドライブなどで再生することができます。Easy CD Creatorについて詳しくは、Easy CD Creatorのオンラインヘルプをご覧ください。

参照

Easy CD Creatorのオンラインヘルプを読むには→Easy CD Creatorを起動して、画面のメニューバーの「ヘルプ」をクリックする

チェック

お客様がオリジナルのCD-ROM、音楽CD、ビデオCDなどの複製や改変を行う場合、オリジナルのCD-ROMなどについて著作権を保有していなかったり、著作権者から複製・改変の許諾を得ていない場合は、著作権法または利用許諾条件に違反することがあります。複製などの際は、オリジナルのCD-ROMなどの利用許諾条件や複製などに関する注意事項にしたがってください。

映像の再生／編集機能

映像を再生する

デジタルビデオで撮った画像を再生する

このパソコンでは、外部のデジタルビデオ機器で撮影した映像を取り込んで編集することができます。また、ハードディスクに保存したり、外部のデジタルビデオ機器に出力することもできます。ハードディスクに保存した映像はJet-Audio Playerを使って再生することができます。

参照

- Jet-Audio Playerの使いかた→「添付ソフトの使い方」-「Jet-Audio Player」、または「スタート」ボタン→「プログラム」→「Jet-Audio Player」→「使い方マニュアル」
- 外部デジタルビデオ機器の接続と映像の編集→「映像を編集する」（p.141）

DVD VIDEOディスクを再生する

このパソコンでは、「Jet-Audio Player」を使って、DVD VIDEOディスクを再生することができます。
Jet-Audio Playerを起動するには、「スタート」ボタン→「プログラム」→「Jet-Audio Player」→「Jet-Audio Player」をクリックします。

メモ

DVD VIDEOディスクは、映像と音声を高画質、高音質で記録してあるディスクです。美しい映像や音声を楽しむことができます。また、DVD VIDEOディスクの中には、利用者の好みに応じた使いかたができるディスクもあります。たとえば、映画の字幕や音声を数カ国語の中から選んで再生したり、スポーツやコンサートの映像をアングル（見る角度、視点）を切り替えて再生したりできます。

参照

- Jet-Audio Playerの使いかた→「添付ソフトの使い方」-「Jet-Audio Player」または、「スタート」ボタン→「プログラム」→「Jet-Audio Player」→「使い方マニュアル」
- パソコンにテレビを接続する、DVD VIDEOディスクの映像をテレビに表示する→PART4の「外部ディスプレイを使う」の「表示するディスプレイを切り替える」（p.203）

■ジョグホイールで便利に使う

DVD VIDEOディスクを再生している場合に、早送り、巻き戻しなどの機能をジョグホイールでコントロールすることができます。

機能	ジョグホイールの操作
早送り	ジョグホイールセンターボタンを右にたおす
巻き戻し	ジョグホイールセンターボタンを左にたおす
次のチャプターに進む	ジョグホイールを右に回す
前のチャプターに戻る	ジョグホイールを左に回す
音量を上げる	ジョグホイールセンターボタンを上にたおす
音量を下げる	ジョグホイールセンターボタンを下にたおす
DVDメニュー表示時にメニューを選択する	ジョグホイールセンターボタンを選択したいメニューの方にたおして選択したら、ジョグホイールセンターボタンを押す

テレビや地上波データ放送を見る

このパソコンでは、テレビや地上波データ放送を見たり、録画したりすることができます。また、次のような便利な機能があります。

- じっくり見たい場面で一時停止をしたり、もう一度見たい場面を巻き戻して再生し、さらにそこから番組の続きを見ることができる（タイムシフト機能）
- テレビの番組表をパソコンに取り込んで録画や、視聴の予約ができる

参照

テレビ番組を見たり、録画するには→『TVモデルガイド』

DolbyHeadphone機能を使う

このパソコンには、DolbyHeadphone機能が搭載されています。このパソコンのヘッドホン／光デジタルオーディオ（S/PDIF）出力端子に市販のヘッドホンをつなぐと、DVD VIDEOディスクの臨場感のあるデジタルサウンドを楽しむことができます。

参照

Jet-Audio Playerの使いかた→「添付ソフトの使い方」-「Jet-Audio Player」または、「スタート」ボタン→「プログラム」→「Jet-Audio Player」→「使い方マニュアル」

Dolby、ドルビー、Pro Logic及びダブルD記号はドルビーラボラトリーズの商標です。

ドルビーラボラトリーズからの実施権に基づき製造されています。

非公開機密著作物。著作権1992－1999年ドルビーラボラトリーズ。不許複製。

映像を取り込む、ダビングする

「VideoStudio」を使って、デジタルビデオ機器から映像を取り込むことができます。
また、「SmartGallery/BusBrain」を使って、複数のデジタルビデオ機器の簡易操作やダビング操作を行うことができます。

外部ビデオ機器を接続する

このパソコンに映像を取り込むために、デジタルビデオデッキやデジタルビデオカメラといった外部ビデオ機器を接続します。接続は、このパソコンのIEEE1394コネクタを使って行います。外部ビデオ機器とIEEE1394ケーブルを用意しておいてください。

メモ

- 接続できる外部ビデオ機器は、IEEE1394での入出力に対応している機器です。外部ビデオ機器にIEEE1394コネクタがついているかを確認してください。IEEE1394コネクタはDV端子などの別名で呼ばれていることもあります。詳しくは販売店などで確認してください。
- このパソコンのIEEE1394コネクタは4ピンです。パソコン側に接続するケーブルのプラグは4ピンのものを選んでください。外部ビデオ機器側に接続するプラグは、外部ビデオ機器のIEEE1394コネクタの形状に合ったものを用意してください。
- IEEE1394コネクタへの接続について詳しくは、PART4の「IEEE1394コネクタ」(→p.219)をご覧ください。

1 外部ビデオ機器のIEEE1394コネクタに、IEEE1394ケーブルのプラグを接続する

2 このパソコンのIEEE1394コネクタに、IEEE1394ケーブルの4ピンのプラグを接続する(→p.220)

チェック

- 接続するときには、プラグの向きに注意してください。プラグの向きを間違えるとIEEE1394コネクタやプラグを破損するおそれがあります。
- お客様が録画、録音したものは個人として楽しむなどのほかは、著作権法上、著作権者に無断で使用できません。

VideoStudioを使って取り込む

ここでは、VideoStudioを使って映像を取り込む方法を説明します。

チェック

SmartGallery/BusBrainが起動している場合は、「コネクション切断」を行い、SmartGallery/BusBrainを終了してください。VideoStudioで動画の取り込み、編集、書き出しができます。

■ VideoStudioを起動する

チェック

はじめてVideoStudioを起動すると、「ユーザー登録」画面が表示されます。
ここでユーザー登録をする場合は、「今すぐ登録」ボタンをクリックしてください（ユーザー登録をする場合は、インターネットに接続する必要があります）。
ここでユーザー登録をしない場合は、「後で登録」ボタンをクリックしてください。
この操作をした後、インターネットに接続してユーザー登録をする場合は、VideoStudioを起動し、GL（グローバルコマンド）をクリックして「オンライン登録」をクリックしてください。

1 「スタート」ボタン→「プログラム」→「Ulead VideoStudio 5.0」→「Ulead VideoStudio 5.0 SE Basic」をクリックする
VideoStudioの画面が表示されます。

■ 映像を取り込む

1 VideoStudioを起動する

2 （プロジェクトを作成）ボタンをクリックする
「新規作成」画面が表示されます。

3 「プロジェクト名」欄にプロジェクト名を入力する

メモ

表題や説明は必要に応じて入力してください。

4 「使用可能なプロジェクト テンプレート」欄から目的のテンプレートを選び、「OK」ボタンをクリックする

5 「キャプチャ」ステップになっていることを確認する

6 デジタルビデオ機器で映像を再生する

7 (ビデオをキャプチャ)ボタンをクリックする
パソコンへの映像の取り込みが始まります。

8 取り込みを終了する場合は、(ビデオをキャプチャ)ボタンをクリックするか【Esc】を押す
デジタルビデオ機器の再生が停止し、タイムラインまたはストーリーボードに取り込んだ内容が表示されます。

■ 取り込んだ内容を確認する

1 タイムラインまたはストーリーボードで、再生したい内容をクリックする
プレビュー画面に最初のフレームが表示されます。

2 「クリップを再生」ボタンをクリックする
映像の再生が始まります。

参照

VideoStudioの詳しい操作方法について→「スタート」ボタン→「プログラム」→「Ulead VideoStudio 5.0」→「ユーザーガイド」

映像を編集する

ここでは、VideoStudioの機能について説明します。VideoStudioでは、映像の取り込み、編集、外部ビデオ機器への出力を行うことができます。

VideoStudioを起動する

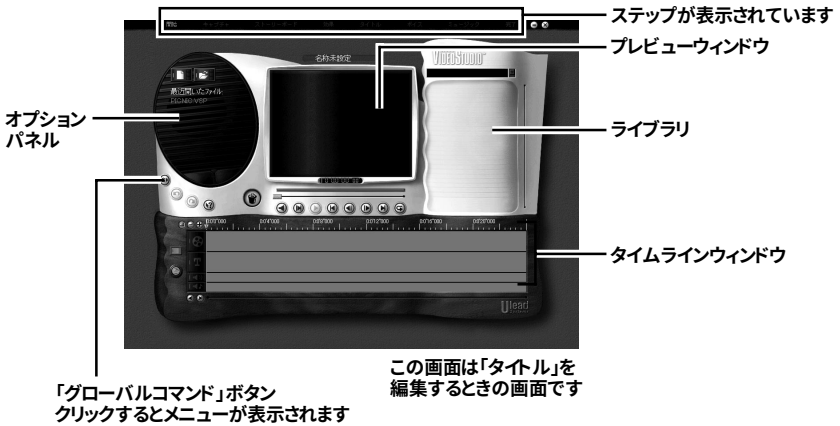
VideoStudioの起動方法については、p.140をご覧ください。

メモ

VideoStudioを終了する場合は、画面右上にあるをクリックします。

VideoStudioでの編集

VideoStudioでは、画面上部に表示されているステップ（開始→キャプチャ→ストーリーボード→効果→タイトル→ボイス→ミュージック→完了）の順に作業を進めていきます。



メモ

VideoStudioでは、ステップごとにガイド（ヘルプ）が表示されます。作業内容を確認しながら作業を進めることができます。

● 効果

場面転換の効果を設定します。「ライブラリ」に表示される100種類以上の効果を確かめながら選ぶことができます。

● タイトル

画像に文字を入力します。タイトルだけでなく、画面にコメントを入れたりすることができます。「オプションパネル」で、タイトルに使用する文字のフォントやサイズ、位置や表示される時間などが設定できます。また、「ライブラリ」にはサンプルが表示されており、この中から選ぶこともできます。

● ボイス

市販のマイクロホンを使って音声を入力します。編集したビデオファイルを再生しながらリアルタイムに録音できます。また、音声ファイルを取り込むこともできます。

● ミュージック

BGMを録音します。CD-R/RW with DVD-ROMドライブにセットされている音楽CDを自動的に認識して、「オプションパネル」に一覧が表示されます。表示された一覧の中から選んで録音することができます。

● 完了

すべての編集が完了したら、ひとつのビデオファイルとして生成します。「オプションパネル」で、全画面再生を行ったり、いろいろな形式のビデオファイルに保存することができます。また、外部ビデオ機器に出力を行ったり、ホームページで見ることができる形式に保存することもできます。
VideoStudioで保存できる形式には、AVI、ASF、WMV、FLC、FLI、FLX、MOV、QT、MPG、RM、UISがあります。

メモ

VideoStudioの機能や詳しい使いかたについては、VideoStudioのヘルプをご覧ください。VideoStudioのヘルプは、VideoStudioが起動しているときに【F1】を押すと表示されます。

VideoStudioを使用する場合の注意

■ VideoStudioでグリーティングカードを作成する場合は

AVIファイルを使用してグリーティングカードの作成をする場合、作成前にファイルの圧縮形式を「DVビデオエンコーダ」以外に設定する必要があります。次の手順でファイルの圧縮形式を変更してください。

1 VideoStudioの「完了」ステップで（ムービーを作成）をクリックする

2 メニューから「カスタム」をクリックする

3 「名前を付けて保存」画面の「オプション」ボタンをクリックする

4 「ビデオ保存オプション」画面の「圧縮」タブの中の「圧縮」の設定を「DVビデオエンコーダ」以外の圧縮形式に変更する

5 「OK」ボタンをクリックする

6 「名前を付けて保存」画面でファイル名を指定して、「保存」ボタンをクリックする

■ VideoStudioでビデオ編集した映像をテープに録画する場合に

● 先頭の数秒が録画されない場合は

デジタルビデオカメラの種類によっては、VideoStudioでビデオ編集した映像をデジタルビデオカメラにテープ録画するときに、先頭の数秒が録画されない場合があります。その場合は、次の手順でMSデバイスコントロールオプションを調整するか、先頭フレームに4～5秒程のカラークリップを挿入してください。

・MS デバイス コントロール オプションを調整する

1 (グローバルコマンド)をクリックする

2 「デバイスコントロールの選択」をクリックする
「デバイスコントロールの選択」画面が表示されます。

3 「現在のデバイス」欄に「MS 1394 デバイスコントロール」を選択し、「オプション」ボタンをクリックする
「MS デバイス コントロール オプション」画面が表示されます。

4 次の設定値を正常にテープ録画ができるように調整する

- プリロール時間
- 一時停止時間を転送する
- 一時停止時間を記録する
- 記録時間を遅延する

メモ

設定値はデジタルビデオカメラの種類によって異なります。

・先頭フレームに4～5秒程のカラークリップを挿入する

1 録画する映像を選択した状態で、メニューバーの「ストーリーボード」をクリックする
「ストーリーボード」ステップに移動します。

2 画面右側にある から、「カラークリップ」を選択する
「カラーライブラリ」が表示されます。表示されている色を変更する場合は、手順3へ進んでください。そのままの色でよければ手順6へ進んでください。

3 (カラークリップを作成)をクリックする

4 「色」のカラーボックスをクリックして「Uleadカラーピッカー」から適当な色を選択し、「OK」ボタンをクリックする

5 「デュレーション」にカラークリップを入れる時間を入力し、「OK」ボタンをクリックする
ライブラリにクリップが挿入されます。必要な経過時間は、デジタルビデオカメラの種類によって異なります。

6 ライブラリ内のカラークリップをビデオトラックの始まり部分にドラッグ&ドロップする
ドロップしたカラークリップの右端黄色バーを左右に動かすと、カラークリップの経過時間を調整できます。

以上で先頭フレームにカラークリップが挿入できます。

● 「キャプチャセットプレビューウィンドウに失敗」と表示される場合は

デジタルビデオカメラの種類によっては、VideoStudioでデジタルビデオカメラへテープ録画する場合に、「キャプチャセットプレビューウィンドウに失敗」と表示される場合があります。
その場合は「OK」ボタンをクリックし、デジタルビデオカメラの電源を入れなおしてください。

● 「録画に失敗しました。」または「出力デバイスへの送信エラー」と表示される場合は

デジタルビデオカメラの種類によっては、VideoStudioでデジタルビデオカメラへテープ録画する場合に、「録画に失敗しました。」または「出力デバイスへの送信エラー」と表示される場合があります。
その場合は「OK」ボタンをクリックし、次のどちらかの操作を行ってください。

・「DV録画－録画ウィンドウ」画面を閉じて、操作しなおす。
・デジタルビデオカメラのテープを入れなおす。

上記の操作をしても同じメッセージが表示される場合は、アプリケーションをいったん終了してください。次にデジタルビデオカメラにつながっているIEEE1394ケーブルを接続しなおすか、またはWindowsを再起動してください。

ジョグホイールで便利に使う

プレビューウィンドウの映像のコマ送り／コマ戻しなどの機能を、ジョグホイールでコントロールすることができます。

■ ジョグホイールで便利に使う

コマ送り、コマ戻しなどの機能をジョグホイールでコントロールすることができます。切り取り開始位置などの微調整が、ジョグホイールで簡単に行うことができます。

機能	ジョグホイールの操作
コマ送り	ジョグホイールを右に回す
コマ戻し	ジョグホイールを左に回す
早送り	【Ctrl】を押しながらジョグホイールを右に回す
巻き戻し	【Ctrl】を押しながらジョグホイールを左に回す
ジョグホイールで操作するバーを選択する	ジョグホイールセンターボタンを押す
タイムライン上の映像を選択する	ジョグホイールセンターボタンを左右にたおす

チェック

【Ctrl】を押しながらジョグホイールを回すと、クリップの先頭／最後に移動することができます。

● ジョグホイールを使ってトリミングする

プレビューウィンドウを使って映像の切り取りが簡単にできます。ジョグホイールセンターボタンを押すごとに操作できるバーが点滅します。

1 ジョグホイールセンターボタンを一回押してからジョグホイールを回し、映像を確認する

2 映像を確認したらジョグホイールセンターボタンを押し、切り取り開始位置を決める
開始位置の微調整はジョグホイールで行うと便利です

3 切り取りを開始したい位置でジョグホイールセンターボタンを押す

4 切り取り終了位置を決める
終了位置の微調整はジョグホイールで行うと便利です。

5 切り取りを終了したい位置でジョグホイールセンターボタンを押す

6 トリミングが終わったら画面左の（変更内容を適用）をクリックする

メモ

【Ctrl】を押しながらジョグホイールを回すと、切り取り位置をすばやく検索できます。

SmartGallery/BusBrainについて

SmartGallery/BusBrainでは、次のような操作ができます。

- デジタルビデオカメラなどで録画した映像やビデオ映像を、パソコン上で見ることができます。
- パソコンと接続しているデジタルビデオカメラなどの簡易操作が行えます。
- パソコンとIEEE1394機器が複数接続されている場合、どのパソコンがどの機器を使用しているかが分かります。また、自分が使用している機器を他のパソコンから操作されないように、機器の制御権を設定できます。
- デジタルビデオカメラ同士で映像をダビングする際に、再生と録画を同期させてダビングできます。

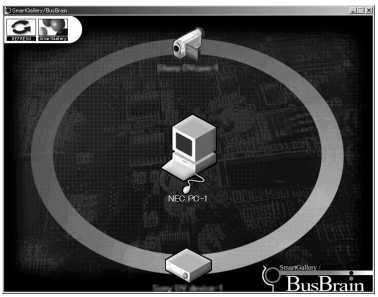
チェック

VideoStudioが起動している場合は、SmartGallery/BusBrainでデジタルビデオカメラなどの簡易操作ができません。

ダビング操作を行う

■ SmartGallery/BusBrainを起動する

1 「スタート」ボタン→「プログラム」→「SmartGallery」→「BusBrain 1.1」をクリックする



メモ

- SmartGalleryが起動している場合は、1394（1394）ボタンをクリックして「SmartGallery/BusBrain」を起動することもできます。
- SmartGallery/BusBrainを終了する場合は、画面右上にある×をクリックしてください。

SmartGallery/BusBrainの画面が表示され、パソコンと、パソコンに接続されているIEEE1394対応のデジタルビデオ機器の状態が表示されます。

■ 同期ダビング操作

1 ダビングしたいデータのある機器（送信元）のアイコンをクリックする
選んだ機器のアイコンが黄色で表示されます。また、データの受信先として指定可能な機器が赤で点滅表示されます。

2 データを保存したい機器（受信先）のアイコンをクリックする
送信元と受信先のデジタルビデオ機器の接続（コネクション設定）が完了し、デジタルビデオカメラの再生・停止などを行うリモコンが表示されます。

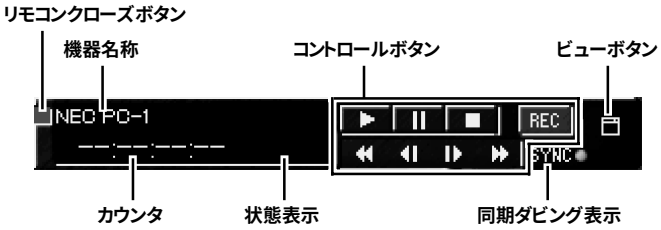
メモ

同期ダビングでは送信元と受信先のデジタルビデオ機器が連動してダビングを行います。非同期ダビングについてはSmartGallery/BusBrainのヘルプをご覧ください。

3 受信先のリモコンのRECボタンをクリックする
録画一時停止状態になります。

4 送信元のリモコンの再生ボタンをクリックする
ビュー画面で映像の再生が始まり、録画が開始されます。

● リモコンについて



リモコンクローズボタン
クリックすると、リモコンが終了します。

機器名称
接続されている機器の名称が表示されます。

カウンタ
接続されている機器のカウンタ値が表示されます。

コントロールボタン
接続されているデジタルビデオ機器を操作します。クリックでそれぞれ、▶（再生）、⏸（一時停止）、■（停止）、⏪（巻き戻し）、⏩（早送り）、REC（録画）を行います。

同期ダビング表示

現在のダビングモードを表示切り替えできます。

ビューボタン

クリックすると、プレビュー画面が表示されます。プレビュー画面で、接続しているデジタルビデオ機器の映像を見ることができます。

■ デジタルビデオ機器とパソコンの接続を解除する

1 接続解除する機器間の線上で右クリックする

2 「コネクション切断」をクリックする

これでデジタルビデオ機器との接続（コネクション設定）が解除されます。

参照
SmartGallery/BusBrainの詳しい操作方法について→「スタート」ボタン→「プログラム」→「SmartGallery」→「BusBrain 1.1 ヘルプ」

画像ファイルや映像ファイルを活用する

■ 画像ファイルや映像ファイルを管理する

「SmartGallery」を使うと、パソコンに取りこんだ画像や映像などのマルチメディアファイルをまとめて管理することができます。画像や映像のファイルをカテゴリ（分類）別に分けて表示したり、サムネイル（画像を縮小して一覧表示したもの）で表示したりすることができるので、たくさんの画像ファイルの中から見たいファイルを探すときなどに便利です。

参照
SmartGalleryの使いかた→このPARTの「マルチメディアファイルの管理機能」（p.162）

■ 携帯電話で閲覧できるアルバムを作成する

「スナップショット」を使うと、iモードなどに対応した画像を作成してインターネットへ掲載することができます。作成した画像は、携帯電話の待ち受け画面として利用することができます。

参照
スナップショットの使いかた→「添付ソフトの使い方」-「スナップショット」、またはスナップショットのヘルプ

DVD形式のビデオデータ作成機能

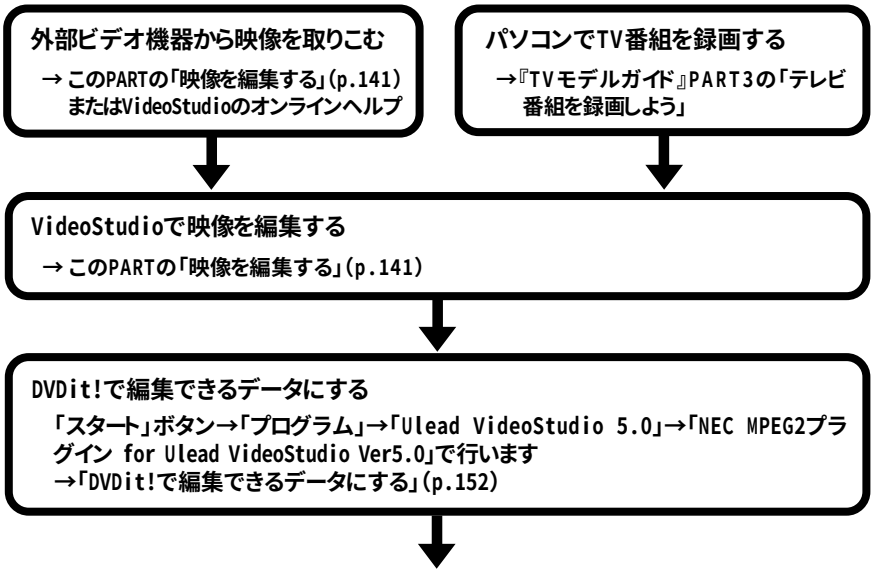
チェック

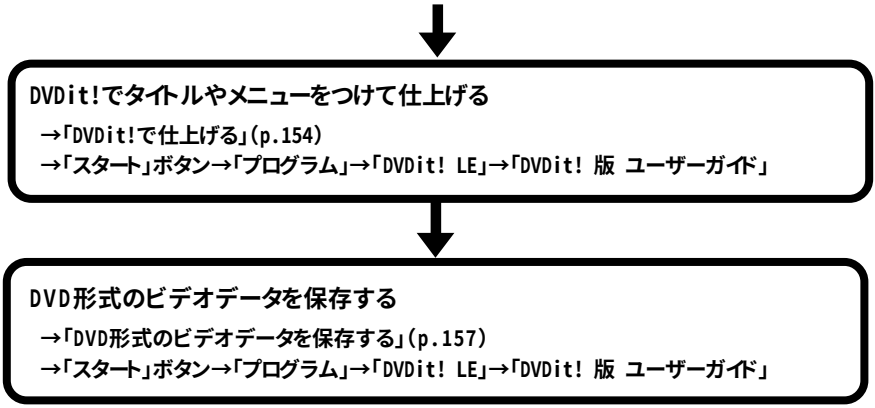
お客様がテレビ放送や録画物などから取り込んだ映像や音声は、個人として楽しむなどのほかは、著作権上、権利者に無断で使用できません。

DVD形式のビデオデータの作成のしかた

このパソコンにインストールされている「VideoStudio」や「DVDit!」というアプリケーションを使うと、録画した映像を編集したり、編集した映像にタイトルやメニュー（目次）をつけてDVDビデオのような作品を作れます。
また、作成した映像はハードディスクやCD-Rに保存して、このパソコンにインストールされている「Jet-Audio Player」で再生できます。
お気に入りの映像を、DVD形式のビデオデータ（DVDタイトル）に仕上げてみましょう。

オリジナルのDVD形式のビデオデータを作成する





DVD形式のビデオデータ作成時の注意

- MPEG2形式で保存する場合に、ビットレートを大きくすると高画質になりますが、ファイルサイズが大きくなります。また、再生環境によっては、スムーズに再生できなくなることがあります。通常、ビットレートは4～6Mbpsでご利用ください。
- MPEG2ファイルの保存には、再生時間の3倍～10倍程度の時間がかかることがあります。

メモ

MPEGは、動画データファイル形式のひとつです。データ圧縮できることが特徴で、再生品質やデータ量などによって、MPEG1、MPEG2などがあります。
MPEG1はビデオCDで採用されている規格で、再生品質は家庭用ビデオ程度です。
MPEG2はDVD VIDEOで採用されている規格で、MPEG1に比べるとデータ量は多くなりますが、より高画質になります。

チェック

- DVDit!で使用できる動画ファイルはVideoStudioでDVDit!用に保存したMPEG2形式のファイルだけです。
- CD-R(650Mバイト)に保存できる映像は20分程度までです。
- DVD形式のビデオデータをCD-Rに保存する場合は、プロジェクト名を半角英数字で入力してください。

DVDit!で編集できるデータにする

1 編集したい映像ファイルをVideoStudioで開く

参照
VideoStudioの使いかた→VideoStudioのヘルプ

2 「完了」ステップをクリックする

3 （ムービーを作成）ボタンをクリックする

4 メニューから「カスタム」をクリックする

5 「保存する場所」を選び、「ファイル名」を指定して、「ファイルの種類」で「MPEGファイル」を選択する

メモ

映像を「デスクトップ」→「マイ ドキュメント」→「My Pictures」に保存すると、このパソコンに入っている「SmartGallery」というアプリケーションでデータの管理や活用ができます。特別な理由がない限り、映像を「My Pictures」フォルダに保存することをおすすめします。

参照
SmartGalleryについて→このPARTの「マルチメディアファイルの管理機能」(p.162)

6 「オプション」ボタンをクリックする
「ビデオ保存オプション」画面が表示されます。

7 「カスタム設定」タブをクリックする

8 「DVDit!」の左の◯をクリックして◉にする

チェック

「ビデオ」欄のビットレートの設定値により、ファイル容量は以下のようになります。

	ビットレート（Mbps）	ファイル容量（MB／分）
最小設定値	4,094	約30.7
初期設定値	5,994	約45.0
最大設定値	8,000	約60.0

9 「OK」ボタンをクリックする
「名前を付けて保存」画面に戻ります。

10 「保存」ボタンをクリックする
MPEG2ファイルの保存がはじまります。保存が終わると、VideoStudioの画面に戻ります。

11 ⊗をクリックする

MPEG2ファイルの編集について詳しくは「スタート」ボタン→「プログラム」→「Ulead VideoStudio 5.0」→「NEC MPEG2プラグイン for Ulead VideoStudio Ver5.0」をご覧ください。
DVDit!で、SmartVision/TVで録画した映像を編集する場合も、同様の手順で操作してください。

チェック

- MPEG2ファイルの保存には、再生時間の3倍～10倍程度の時間がかかる場合があります。
- 他のパソコンで作成されたMPEG2ファイルは、正常に動作しない場合があります。

DVDit!で仕上げる

DVDit!を使って、ViedoStudioで作成した映像に、タイトルメニュー画面をつけてみましょう。
ここでは簡単な使いかたのみを説明しています。詳しい使用方法は、「スタート」ボタン→「プログラム」→「DVDit! LE」→「DVDit! 版 ユーザーガイド」をご覧ください。

DVDit!を起動する

1 「スタート」ボタン→「プログラム」→「DVDit! LE」→「DVDit! LE」をクリックする
DVDit!が起動します。

2 「新しいプロジェクトを始める」ボタンをクリックする

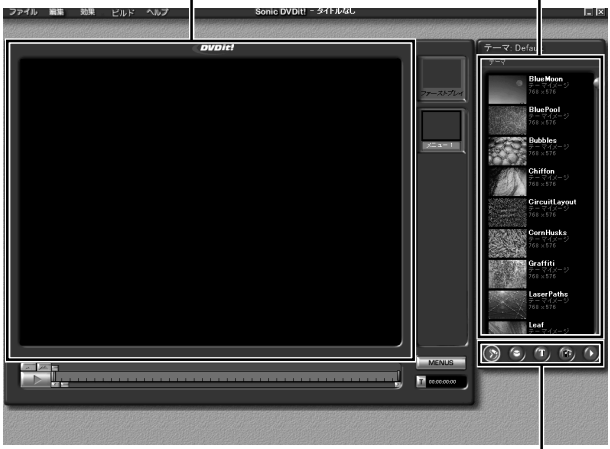
3 「ビデオ様式」には「NTSC」、「ビデオフォーマット」には「MPEG2」が選択されていることを確認して、「設定終了」ボタンをクリックする
DVDit!の画面が表示されます。

チェック
このパソコンのDVDit!では、PALビデオ様式およびMPEG1ビデオフォーマットはサポートしていません。

DVDit!の画面について

ビデオモニタ
背景やボタンを設置します。また、映像の再生をします。

パレットウィンドウ
背景やボタン、映像などの素材が表示されます。



背景
タイトル画面の背景に使う画面が表示されます。

ボタン
タイトル画面に設置するボタンが表示されます。

テキスト
タイトル画面で使える文字のフォント（書体）が表示されます。

メディア
映像や音楽のデータが表示されます。

再生
完成したプロジェクトを再生するための「Remote Control」画面が表示されます。

DVDit!でできるいろいろな編集

ここでは、「DVDit!」の機能について説明します。「パレットウィンドウ」の下にあるボタンをクリックして、各機能を切り替えます。
画面右下にあるボタン（背景→ボタン→テキスト→メディア→再生）の順に、作業を進めていきます。

● 背景

タイトルメニュー画面の背景になる画像を設定します。「パレットウィンドウ」から背景にしたい画像を選んで、「ファーストプレイ」の上にドラッグ&ドロップします。

チェック

背景は、SmartGalleryの「イメージ」カテゴリから好きな画像（BMP形式、JPG形式など）をパレットウィンドウにドラッグ&ドロップして登録することもできます。

参照
SmartGalleryについて→このPARTの「マルチメディアファイルの管理機能」（p.162）

● ボタン

タイトルメニューに付けるボタンを設定します。「パレットウィンドウ」から貼りつけたいボタンを選んで、「ビデオモニタ」にドラッグ&ドロップします。

● テキスト

タイトルメニューに書き込む文字の書体を設定します。「パレットウィンドウ」から使いたい書体を選んで、「ビデオモニタ」にドラッグ&ドロップします。ドラッグ&ドロップした文字をダブルクリックして反転表示にして、キーボードから書き込みたい内容（ボタン名やタイトルなど）を入力します。

● メディア

DVD形式のビデオデータにする映像などを設定します。「パレットウィンドウ」内を右クリックして、「テーマにファイルを追加」をクリックし、画面の説明を見ながらVideoStudioで作成した映像を「パレットウィンドウ」に追加します。その後、映像を選択して、「パレットウィンドウ」から「ビデオモニタ」に作成したボタンにドラッグ&ドロップします。

チェック

- DVDit!で使用できる動画ファイルは、VideoStudioでDVDit!用に保存したMPEG2形式のファイルだけです。
- 1つのDVD形式のビデオデータに使用できるMPEG2ファイルのフレームサイズは、720×480または352×480ドットのどちらか一方です。1つのDVD形式のビデオデータ内で両方のフレームサイズを使うことはできません。
- 静止画をメディアに設定することもできます。静止画のサイズは、720×480ドットです。

参照
DVDit!用のファイル→このPARTの「DVDit!で編集できるデータにする」(p.152)

● 再生

作成した映像を再生できる「Remote Control」画面が表示されます。ビデオモニタに作成したボタンをクリックすると、再生がはじまります。作成した映像の確認ができたら、×をクリックして「Remote Control」画面を閉じてください。

参照
DVD形式のビデオデータの作成のしかたについて詳しくは→「スタート」ボタン→「プログラム」→「DVDit!」→「DVDit! 版 ユーザーガイド」

DVD形式のビデオデータを保存する

作成したDVD形式のビデオデータを保存しましょう。保存する方法には次の2つがあります。

- ハードディスクに保存する(→p.158)
- CD-Rに保存する(→p.159)

チェック

- DVDit!でプロジェクト保存する場合、必ず半角英数字でプロジェクトファイル名を入力して保存してください。
- CD-Rに保存する場合、ディスク名を必ず半角英数字で入力してください。

ハードディスクに保存する

作成した映像をハードディスクにDVD形式のビデオデータとして保存します。

1 「ビルド」をクリックして表示されたメニューの「DVDフォルダの作成...」をクリックする

2 「パス」の「参照」ボタンをクリックする

3 「ファイルの場所」欄で▼をクリックし、「デスクトップ」→「マイ ドキュメント」→「My Pictures」を選択する
「保存する場所」欄に「C:¥My Documents¥My Pictures」が表示されます。

4 「OK」ボタンをクリックする

5 「C:¥My Documents¥My Pictures」が選択されているのを確認して「OK」ボタンをクリックする

6 「DVDの作成に成功しました。」と表示されたら「OK」ボタンをクリックする

7 DVDit!を終了する

CD-Rに保存する

作成した映像は、CD-Rにも保存できます。
CD-RへのDVD形式のビデオデータの保存のしかたは、「スタート」ボタン→「プログラム」→「DVDit! LE」→「DVDit! Help」をご覧ください。

チェック

- CD-R(650Mバイトまたは700Mバイト)に保存できる映像はムービーファイルのビットレートによって異なります。
  4Mbpsで約20分、6Mbpsで約16分程度の記録ができます。作成する内容により、記録できる時間が短くなることがあります。
- CD-Rへは、1度保存したら、たとえ空き容量があってもそのメディアへは保存できなくなります。
- DVD形式のビデオデータをCD-Rに保存する場合は、ディスク名を必ず半角英数字で入力してください。プロジェクト名は「ファイル」→「プロジェクト設定」の「ディスク名」で設定します。
- 「DVDit!」では、DVD-R、DVD-RAM、CD-RWは使用できません。
- CD-Rに保存した場合、環境によっては、スムーズに再生できない場合があります。

作成したDVD形式のビデオデータを再生する

「DVDit!」で作成したDVD形式のビデオデータを再生してみましょう。ハードディスクに保存した場合は「SmartGallery」から再生します。CD-Rに保存した場合は、市販のDVD VIDEOディスクのように、自動的に再生できます。

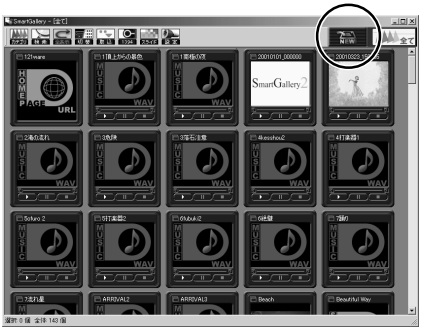
ハードディスクに保存したDVD形式のビデオデータを再生する

保存したDVD形式のビデオデータは、このパソコンのJet-Audio Playerで再生できます。

1 SmartGalleryを起動する

参照
SmartGalleryについて詳しくは→このPARTの「マルチメディアファイルの管理機能」(p.162)

2 **「NEW!」ボタンが点灯している場合は、ボタンをクリックする**
更新されたファイルのみが表示されます。



3 **（カテゴリ）をクリックして、（ムービー）をクリックする**

チェック

ハードディスクにDVD形式のビデオデータなどの動画ファイルがひとつも保存されていない場合は、（ムービー）は表示されません。

4 **作成したDVD形式のビデオデータのサムネイルを右クリックして表示されたメニューから「開く」→「Jet-Audio Player」をクリックする**
サムネイルをダブルクリックしても、Jet-Audio Playerを起動できます。

Jet-Audio Playerが起動して、タイトル画面が表示されます。

チェック

- Jet-Audio Playerが起動してもDVD形式のビデオデータが再生されない場合は、Jet-Audio Playerが起動した後に、もう一度、手順4を行ってください。
- SmartVision/TV、ビットキャストブラウザ、Windows Media Player、VideoStudioなどの、Jet-Audio Player以外の映像を表示するソフトが起動していると、Jet-Audio PlayerでDVD VIDEOやビデオCDの再生ができない場合があります。音楽CDやデジタルオーディオ、MIDIの再生はできます。
- DVDit!で作成したDVD形式のビデオデータの再生中は、Jet-Audio Playerのカウンタは動かない場合があります。
- DVDit!で作成したDVD形式のビデオデータは、Jet-Audio Player以外のアプリケーションでも再生することができます。再生できるアプリケーションについて詳しくは、「DVDit! 版 ユーザーガイド」をご覧ください。

参照

Jet-Audio Playerについて詳しくは→「添付ソフトの使い方」-「Jet-Audio Player」または「スタート」ボタン→「プログラム」→「Jet-Audio Player」→「使い方マニュアル」

CD-Rに保存したDVD形式のビデオデータを再生する

CD-Rに保存したDVD形式のビデオデータは、一般のDVD VIDEOディスクのように、CD-RをCD-R/RW with DVD-ROMドライブにセットすると、自動的にJet-Audio Playerが起動してDVD形式のビデオデータのタイトル画面を表示します。

参照

- Jet-Audio Playerについて詳しくは→「添付ソフトの使い方」-「Jet-Audio Player」または「スタート」ボタン→「プログラム」→「Jet-Audio Player」→「使い方マニュアル」
- CD-Rのセットのしかた→PART1の「CD-R/RW with DVD-ROMドライブ」の「ディスクのセットのしかたと取り出しかた」(p.55)

マルチメディアファイルの管理機能

SmartGalleryとは

このパソコンには、取り込んだ映像などを活用するためのいろいろなソフトが入っています。このパソコンに入っている「SmartGallery」を使えば、映像などのファイルをまとめて管理でき、再生や編集がスマートに始められます。
「SmartGallery」は、録画したテレビ番組やデジタルビデオカメラの映像といった動画や写真などの静止画、音楽データ、インターネットのホームページなど、マルチメディアファイルをまとめて管理できるアプリケーションです。ファイルをカテゴリ(分類)に分けて表示したり、「SmartGallery」のサムネイル(画像を一覧表示したもの)から直接いろいろなアプリケーションを起動して、ファイルを開いたりできます。ファイルの数が多くなってもすぐに目的のファイルを使えます。

参照

SmartGalleryについて詳しくは→SmartGalleryのヘルプ

SmartGalleryを起動する

1 「スタート」ボタン→「プログラム」→「SmartGallery 」→「SmartGallery 2.2」をクリックする
SmartGalleryが起動します。

SmartGalleryについて

ここでは、SmartGalleryの画面やボタンの機能について説明しています。

SmartGalleryの画面

このアイコンをクリックすると、以下のメニューが表示されます。

ファイル
メディアを登録したり、ファイルを開いたりできます。

カテゴリ
表示するカテゴリを変更できます。

編集
ファイルの検索や、コピーなどができます。

再生
選択しているファイルの再生などができます。

表示
ファイルやメディアの表示方法をかえたり、並べ方をかえたりできます。

設定

をクリックしたときと同じです。

ヘルプ
SmartGalleryのヘルプを表示します。バージョンも表示できます。

ここのボタンで、表示するマルチメディアファイルのカテゴリの選択や表示形式の切替、マルチメディアファイルのデータベースへの登録、データベースに登録するフォルダの設定などを行うことができます。詳しくは「ボタンの機能」(→p.165)をご覧ください。

ファイル
「マイ ドキュメント」、「C:¥WINDOWS¥Favorites」、「C:¥WINDOWS¥Media」に保存されているマルチメディアファイルがサムネイル表示されます。ファイルによっては、サムネイルができない場合もあります。

メディア
SmartGalleryに登録されているメディア(→p.168)がサムネイル表示されます。メディアによっては、サムネイルができない場合もあります。

参照
SmartGallery→SmartGalleryのヘルプ

サムネイル

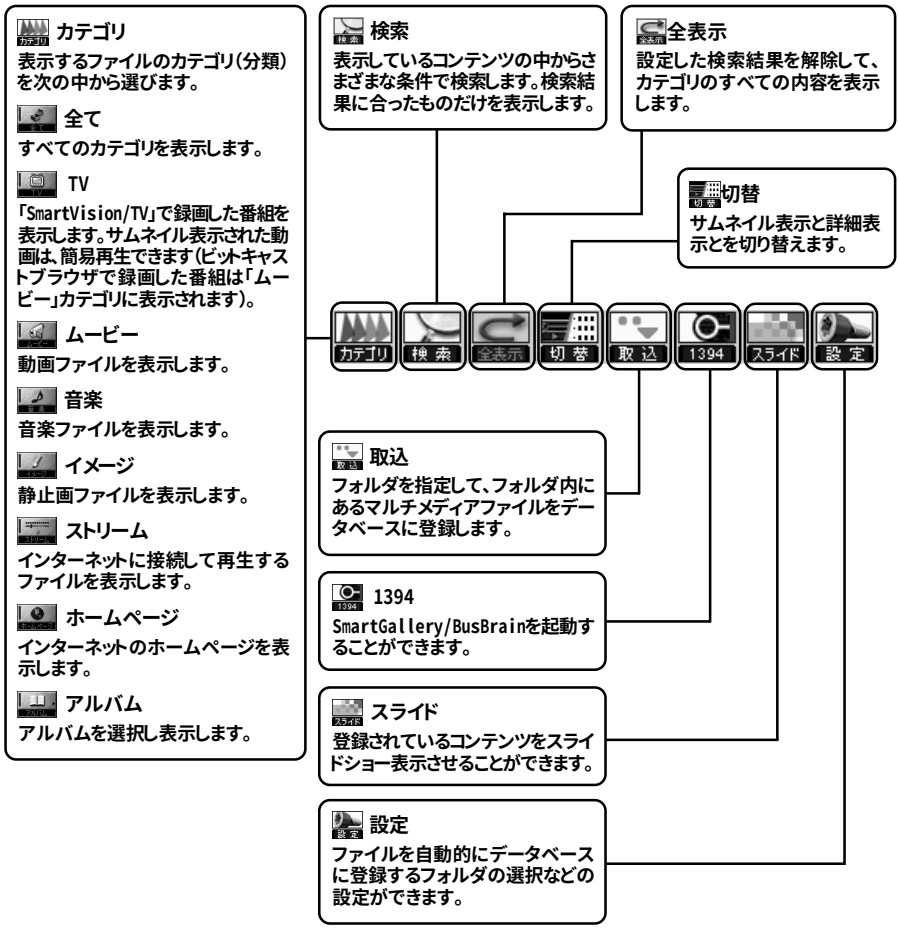
SmartGalleryでは、ネットワークで接続された他のパソコンに保存してあるマルチメディアファイルもデータベースに登録して、サムネイルで一覧表示することができます。
マルチメディアファイルの再生、編集が可能かどうかは、サムネイルの左上のアイコンの色で確認することができます。

オレンジ：マルチメディアファイルを再生、編集することができます。(オンライン状態)。
グレー　：サムネイル表示のみで再生、編集はできません(オフライン状態)。

チェック

ネットワークで接続されたパソコンに保存してあるマルチメディアファイルをデータベースに登録する手順については「フォルダ内のファイルを取り込む」(p.169)をご覧ください。

ボタンの機能


カテゴリ
表示するファイルのカテゴリ(分類)を次の中から選びます。
全て
すべてのカテゴリを表示します。
TV
「SmartVision/TV」で録画した番組を表示します。サムネイル表示された動画は、簡易再生できます(ビットキャストブラウザで録画した番組は「ムービー」カテゴリに表示されます)。
ムービー
動画ファイルを表示します。
音楽
音楽ファイルを表示します。
イメージ
静止画ファイルを表示します。
ストリーム
インターネットに接続して再生するファイルを表示します。
ホームページ
インターネットのホームページを表示します。
アルバム
アルバムを選択し表示します。
検索
表示しているコンテンツの中からさまざまな条件で検索します。検索結果に合ったものだけを表示します。
全表示
設定した検索結果を解除して、カテゴリのすべての内容を表示します。
切替
サムネイル表示と詳細表示とを切り替えます。
カテゴリ
検索
全表示
切替
取込
1394
スライド
設定
取込
フォルダを指定して、フォルダ内にあるマルチメディアファイルをデータベースに登録します。
1394
SmartGallery/BusBrainを起動することができます。
スライド
登録されているコンテンツをスライドショー表示させることができます。
設定
ファイルを自動的にデータベースに登録するフォルダの選択などの設定ができます。

最新のファイルのみを表示する

SmartGalleryでは、自動登録フォルダに設定されているフォルダ内のファイルが、データベースへ自動的に登録されます。

チェック

- 購入時の設定では、「マイ ドキュメント」フォルダ、「C:¥WINDOWS¥Favorites」、「C:¥WINDOWS¥Media」内に保存したファイルがSmartGalleryで表示されます。表示するフォルダを変更することもできます。詳しくはSmartGalleryのヘルプをご覧ください。
- データベースへの登録処理中は、SmartGalleryの画面の右下に「データベースの更新中、ESCキーで中止します。」というメッセージが表示されます。

動画や音楽などのファイルを自動登録フォルダに新たに保存すると、データベースは自動的に更新されます。更新されたファイルだけを表示するには、次の手順を行います。

1 (NEW!)ボタンをクリックする
更新されたファイルだけが表示されます。
表示を戻したい場合は、(カテゴリ)ボタンをクリックして表示するカテゴリを選ぶか、(全表示)ボタンをクリックしてください。

チェック

保存したマルチメディアファイルや、SmartVision/TVで録画したはずのデータがSmartGalleryの一覧に見あたらない場合は、「保存したマルチメディアファイルが見あたらないときは」(p.179)をご覧になり、操作を行ってください。

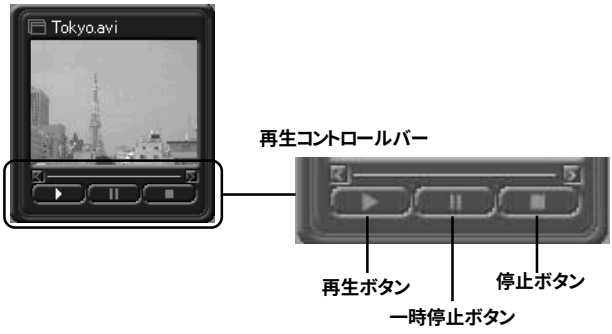
動画ファイルを再生する

動画ファイルでサムネイル表示に再生コントロールバーがあるものは、SmartGalleryで簡易再生ができます。

チェック

- 「SmartVision/TV」、「ビットキャストブラウザ」、「VideoStudio」、「Jet-Audio Player」など、映像を表示するソフトが起動している場合、動画の簡易再生はできません。
  起動しているソフトをいったん終了させたあと、簡易再生をしてください。
- 「SmartVision/TV」で録画したファイル（SVIファイル）の簡易再生中に画面を右クリックして表示されたメニューから「開く」→「SmartVision」をクリックするとSmartGalleryでの再生から「SmartVision/TV」での再生に切り替わります。

音楽ファイルもSmartGalleryで再生できます。



メディアを登録する

CD-R/RWに書き出した音楽や画像を、メディアとしてSmartGalleryに登録して管理できます。

■ 新規にメディアを登録する

1 をクリックする

2 表示されたメニューの「ファイル」→「メディアの新規登録」をクリックする

3 表示された画面で、登録したいメディアの種類を選んで、「OK」ボタンをクリックする
「メディア新規登録」画面が表示されます。

4 メディアの情報を入力し、「OK」ボタンをクリックする

■ファイルからメディアを登録する

すでにファイルとして登録されているものを、さらにメディアに登録することもできます。

1 メディアに登録したいファイルを右クリックする

2 表示されたメニューから「メディアに登録」をクリックする
「メディア登録」画面が表示されます。

3 メディアの情報を入力し、「OK」ボタンをクリックする

ファイルを開く

SmartGalleryから動画や音声を再生したり、静止画を表示したりするアプリケーションを起動することができます。

チェック

- SmartGalleryから起動できないアプリケーションもあります。
- テレビ番組などの動画を再生中は、SmartGalleryで動画の簡易再生をしないでください。

1 開きたいファイルを右クリックする

2 表示されたメニューから「開く」をポイントして、ファイルを開くアプリケーションをクリックする

アプリケーションが起動し、ファイルが開きます。

メモ

ファイルのサムネイルをダブルクリックしても、ファイルを開けます。

フォルダ内のファイルを取り込む

フォルダ内のマルチメディアファイルを、まとめてSmartGalleryのデータベースに登録することができます。

1 取込（取込）ボタンをクリックする

2 「フォルダ」の一覧から検索したいフォルダをクリックする

3 「一覧に追加」ボタンをクリックする
「検索フォルダー一覧」に選択したフォルダが追加されます。

登録時に検索したいフォルダをすべて追加するまで、手順2〜3をくりかえします。

4 「登録」ボタンをクリックする
SmartGalleryの画面の右下に「データベースの更新中、ESCキーで中止します。」と表示され、しばらくすると検索されたマルチメディアファイルがサムネイルで表示されます。
これで登録は完了です。

メモ

ネットワークに接続された別のパソコンのフォルダも登録することができます。登録するフォルダは、フォルダのプロパティで共有できるように設定してください。

スライドショーを使う

SmartGalleryに登録されているコンテンツをスライドショー表示させることができます。

チェック

音楽ファイルなど、一部のファイルはスライドショーで表示することはできません。

■スライドショー表示する

SmartGalleryでは、カテゴリを選んでカテゴリ内のすべてのファイルをスライドショー表示したり、表示したいファイルのみを選んでスライドショー表示することができます。

● カテゴリを選択してスライドショー表示する

1 (カテゴリ)ボタンをクリックし、スライドショー表示したいカテゴリをクリックする

2 (スライド)ボタンをクリックする
スライドショー表示がはじまります。

● ファイルを選択してスライドショー表示する

1 スライドショー表示したいファイルをクリックする

メモ

【Ctrl】を押しながら表示したいファイルをクリックすると、複数のファイルを選択することができます。

2 (スライド)ボタンをクリックする
スライドショー表示がはじまります。

■ スライドショーの設定をする

スライドショー表示に効果をつけたり、表示サイズや表示時間を設定することができます。

1 (設定)ボタンをクリックする
「設定」画面が表示されます。

2 「スライドショーの設定」タブをクリックする

3 効果や表示の設定を行う

・効果の設定
スライドショーに効果をつけることができます。
「効果」の▼をクリックして、設定したい効果をクリックします。

・表示の設定
繰り返し表示させたり、表示時間や表示サイズを設定できます。

項目	設定内容
繰り返し表示する	スライドショーに設定したファイルを繰り返し表示します。
画面サイズにあわせて拡大／縮小する	スライドショー表示するファイルが画面より大きい場合は縮小し、画面より小さい場合は拡大して表示します。
表示時間を有効にする	この設定を有効にすると、「表示時間」と「表示スピード」を設定できるようになります。
表示時間	スライドショー表示にしたファイルの表示時間の設定を変更することができます。
表示スピード	スライドショー表示にしたファイルの「効果」のスピードを変更することができます。

4 「OK」ボタンをクリックする

壁紙を設定する

SmartGalleryに登録されているファイルをデスクトップの壁紙に設定することができます。

1 壁紙に設定するファイルを右クリックして、表示されたメニューの「壁紙に設定」にポインタを合わせる

2 表示されたメニューから、壁紙を表示する位置を選ぶ
選択したファイルが壁紙として表示されます。

チェック
・メディア、およびオフライン状態のファイルは壁紙に設定できません。
・サムネイル画像を変更している場合は、壁紙に設定できません。

メモ

動画の好きなシーンをサムネイルに設定しておくと、動画のサムネイルを壁紙に設定することもできます。

参照

動画のサムネイルの変更→SmartGalleryのヘルプ

アルバムを使う

アルバム機能は、特定の事柄に関するマルチメディアコンテンツをまとめて管理するための機能です。例えば、スポーツに関するマルチメディアコンテンツをまとめて管理したい場合には、「スポーツ」という名前でアルバムを作成し、そのアルバムにスポーツに関する画像や動画、音楽、ホームページなどを登録しておく、といった使い方ができます。

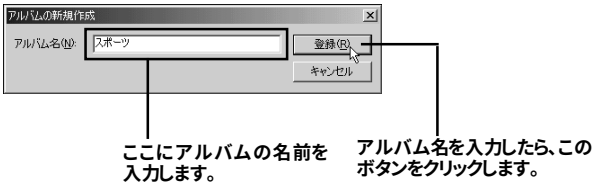
■ アルバムを作成する

アルバムを新規に作成するときは、次の手順で行います。
新規にアルバムを作成する場合は、そのアルバムに登録するファイルをまず1つ決めてください。

1 アルバムに登録するファイルのサムネイルを右クリックする

2 「アルバムに登録」をクリックし、「新規作成」をクリックする
「アルバムの新規作成」画面が表示されます。

3 「アルバム名」欄にアルバムにつける名前を入力し「登録」ボタンをクリックする



これで入力した名前で新規にアルバムが作成されます。
アルバムには手順1で選択したファイルが登録されています。

■ アルバムにファイルを登録する

作成済みのアルバムにファイルを追加登録する場合は、次の手順で行います。

1 アルバムに登録するファイルのサムネイルを右クリックする

2 「アルバムに登録」をクリックする

3 ファイルを登録したいアルバムの名前をクリックする
アルバムにファイルが追加登録されます。

■ アルバムを表示する

アルバムに登録されているファイルのサムネイルを表示する場合は、次の手順を行います。

1

（カテゴリ）ボタンをクリックする

2
（アルバム）ボタンをクリックする

3 表示したいアルバム名をクリックする
アルバムに登録されているファイルのサムネイルが表示されます。

■ アルバムにファイルを自動登録する

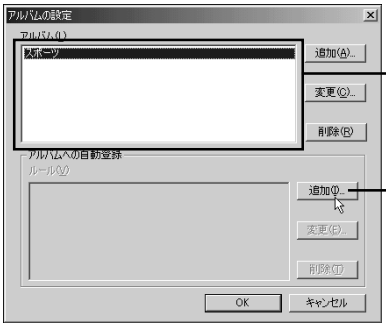
アルバムへのファイルの登録を自動化することができます。
自分で登録のルールを決め、そのルールに沿ったファイルを自動的にアルバムに登録するように設定できます。

1
（設定）ボタンをクリックする

2 「その他の設定」タブをクリックし、「アルバム」ボタンをクリックする
「アルバムの設定」画面が表示されます。

3 表示されたリストから自動登録の設定をしたいアルバムの名前をクリックする

4 「アルバムへの自動登録」欄の「追加」ボタンをクリックする



自動登録を設定したいアルバムの名前をクリックして選択します。

自動登録を設定するアルバムを選択したらこのボタンをクリックします。

5 ルールの名前を入力し、ルールの設定をする

ファイル名やコンテンツに含まれる文字列、拡張子の種類、フォルダの場所を自動登録のルールとして設定できます。

自動登録のルール名を入力します。

自動登録のルールを設定します。

6 「OK」ボタンをクリックする

「アルバムへの自動登録」欄のルール一覧に入力したルールが表示されます。

設定した自動登録のルールを一時的に無効にしたい時は、ルール名の左の☑をクリックして☐にしてください。無効にしたルールを有効に戻すときは、ルール名の左の☐を☑にしてください。

7 「OK」ボタンをクリックする

8 「OK」ボタンをクリックする

これで、設定したルールに沿って自動登録されるようになります。

情報を入力する

SmartGalleryで管理するファイルやメディアに、コメントやジャンルを入力できます。入力した内容でキーワード検索ができます。

参照
キーワード検索→SmartGalleryのヘルプ

1 情報を入力したいサムネイルを右クリックして「プロパティ」をクリックする
「プロパティ」画面が表示されます。

2 「共通項目2」タブをクリックする

3 「コメント」欄に情報を入力して、「OK」ボタンをクリックする

メモ

- 「コメント」欄に入力する情報は、キーワード検索をするときにわかりやすいものがいいでしょう(日付、制作者名など)。
- 「共通項目2」タブの右側にある、各カテゴリ名がついたタブ(上の画面では「イメージ[JPG]」タブ)をクリックすると、さらに細かい情報が入力できます。入力できる情報は、カテゴリによって異なります。
- 複数のファイルをまとめて選択すると、共通のコメントを一度に入力することができます。

表示する画像を変える

ご購入時の状態では、ホームページのサムネイルは地球のマークのイラストで表示されています。これを実際のホームページの画像に変えてみましょう。
また、動画のサムネイルを好きな場面の画像にすることもできます。

参照
動画のサムネイルの変更→SmartGalleryのヘルプ

1 サムネイルを変えたいホームページをダブルクリックして、インターネットに接続する
インターネットエクスプローラが起動し、ホームページが表示されます。

参照
インターネット接続について→『使っておぼえるパソコンの基本』

2 サムネイルを変えたいファイルを右クリックして、表示されたメニューから「プロパティ」をクリックする
「プロパティ」画面が表示されます。

3 「スクリーンをキャプチャする」の左の○をクリックして◉にし、「ボタンを押してキャプチャ」ボタンをクリックする

マウスカーソルの表示がカメラのアイコンに変わります。

4 手順1で表示しておいた、インターネットエクスプローラの画面の中をクリックする

5 ホームページの画像が表示されていることを確認して、「OK」ボタンをクリックする

サムネイル表示の画像が変わります。

メモ

画像ファイルをサムネイルに指定することもできます。その場合は、手順3で「ファイルを指定する」の○をクリックして◉にし、「参照」ボタンをクリックして表示されるウィンドウで、サムネイルに使いたいファイルを選択してください。

お気に入りの画像を電子メールに添付する

例えば、デジタルカメラで撮った旅行の写真を、一緒に旅行に行った人に電子メールで送りたい。そんなときは、SmartGalleryを使うと簡単に画像を電子メールに添付して送れます。

チェック

保存したマルチメディアファイルや、SmartVision/TVで録画したはずのデータがSmartGalleryの一覧に見あたらない場合は、「保存したマルチメディアファイルが見あたらないときは」(p.179)をご覧になり、操作を行ってください。

参照

最新の情報を表示する→このPARTの「基本的な使いかた」(p.166)

1 電子メールに添付したい画像を右クリックする

2 表示されたメニューから「メール送信」をクリックする

メールソフト(購入時の設定では「Outlook Express」)が起動し、メールに画像が添付されます。あとは送信先を入力し、メッセージを書いて送信しましょう。

チェック

メール送信時の添付ファイルの最大サイズを設定できます。画像以外にもムービーや音楽ファイルなども送信することができます。

参照

電子メールの使いかた→『使っておぼえるパソコンの基本』前編の「PART3 電子メールをはじめよう」

保存したマルチメディアファイルを探す

■ マルチメディアファイルを検索する

SmartGalleryでは、マルチメディアファイルの拡張子や、タイトル、コメント、ファイルの更新日などで検索を行うことができます。

1 (カテゴリ)ボタンをクリックして、検索したい項目をクリックする
保存してあるマルチメディアファイルがサムネイル表示されます。

2 (検索)ボタンをクリックする
「検索」画面が表示されます。

3 検索したい項目の☐をクリックして☑にする

4 「検索」ボタンをクリックする

選んだ条件のマルチメディアファイルだけが表示されます。

■ 保存したマルチメディアファイルが見あたらないときは

保存したマルチメディアファイルのデータがSmartGalleryの一覧に見あたらないときは、次の操作を試してください。

- 一覧に表示させるカテゴリを、表示させたいデータのカテゴリ、または「全て」のカテゴリに変更する。
- 検索がかかっている場合は、(全表示)ボタンをクリックして検索を解除する。

上記の操作をしてもマルチメディアファイルが見あたらない場合は、一覧に登録されるフォルダにファイルが保存されているか確認してください。保存されていない場合はフォルダにファイルを保存してください。
一覧に登録されるフォルダは(設定)ボタン→「自動登録フォルダ」タブをクリックして表示される画面で確認することができます。また、(NEW!)ボタンが点灯している場合、(NEW!)ボタンをクリックすると、新規に作成されたファイルのみが表示されます。

録画したテレビ番組をMDに録音する

例えば、英会話のテレビ番組などから、音声だけを録音して持ち歩きたい。
そんなときは、このパソコンの機能を使えば、テレビ番組の中から欲しい部分だけを取り出してMDなどに録音できます。

チェック

- あなたがテレビ放送や録画物などから取り込んだ映像や音声は、個人として楽しむなどのほかは、著作権上、権利者に無断で使用できません。
- 「ビットキャストブラウザ」で録画した番組は「SmartGallery」の「ムービー」カテゴリに分類されます。

1 テレビ番組を録画する
テレビ番組の録画→『TVモデルガイド』の「PART3　テレビ番組を録画しよう」

2 「SmartGallery」を使って、録画した映像を「VideoStudio」で開く
ファイルを開く→このPARTの「ファイルを開く」(p.168)

3 「VideoStudio」で、録画した映像を編集し、音声だけを保存する

チェック

音声は、WAVファイルとして保存します。

参照

VideoStudioについて→このPARTの「映像の再生／編集機能」(p.137)、VideoStudioのオンラインヘルプ

4 録音機能付きMDプレーヤを、このパソコンの光デジタルオーディオ(S/PDIF)出力端子に接続する
接続について詳しくは、MDプレーヤに添付のマニュアルをご覧ください。

チェック

- 接続するときは、市販の光デジタルケーブルを使用してください。
- このパソコンの光デジタルオーディオ出力端子は、光ミニ端子(ミニ型)です。ただし、プラグの形状によっては使用できないものがありますので、ケーブルは、よくお確かめの上、ご購入ください。

5 「SmartGallery」を使って、保存した音声ファイルを「Jet-Audio Player」で再生する

6 保存した音声ファイルを「Jet-Audio Player」で再生しながら、MDプレーヤでMDに録音する
これで、テレビの音声をMDプレーヤで楽しめます。

参照

SmartGalleryからの再生→このPARTの「ファイルを開く」(p.168)

録音について詳しくは、このPARTの「音楽の再生／編集機能」の「編集してオリジナルMDを作る」(p.134)をご覧ください。

■ジョグホイールで便利に使う

ジョグホイールを使って、次のような操作をすることができます。

機能	ジョグホイールの操作
・ファイルの選択 ・スライドショー実行中に次のスライドに進む	ジョグホイールセンターボタンを右にたおす
・ファイルの選択 ・スライドショー実行中に前のスライドに戻る	ジョグホイールセンターボタンを左にたおす
ファイルが選択されているときに、ファイルの種類に応じて動画や音声を再生したり、静止画や音声を再生したり、静止画を表示したりするアプリケーションが起動する	ジョグホイールセンターボタンを押す
・画面のスクロール（下方向） ・スライドショー実行中は次のスライドに進む	ジョグホイールを右に回す
・画面のスクロール（上方向） ・スライドショー実行中は前のスライドに戻る	ジョグホイールを左に回す

■ リモコンを使う

スライドショーの表示をリモコンでもコントロールすることができます。
詳しくは添付の『リモコンについて』をご覧ください。

PART

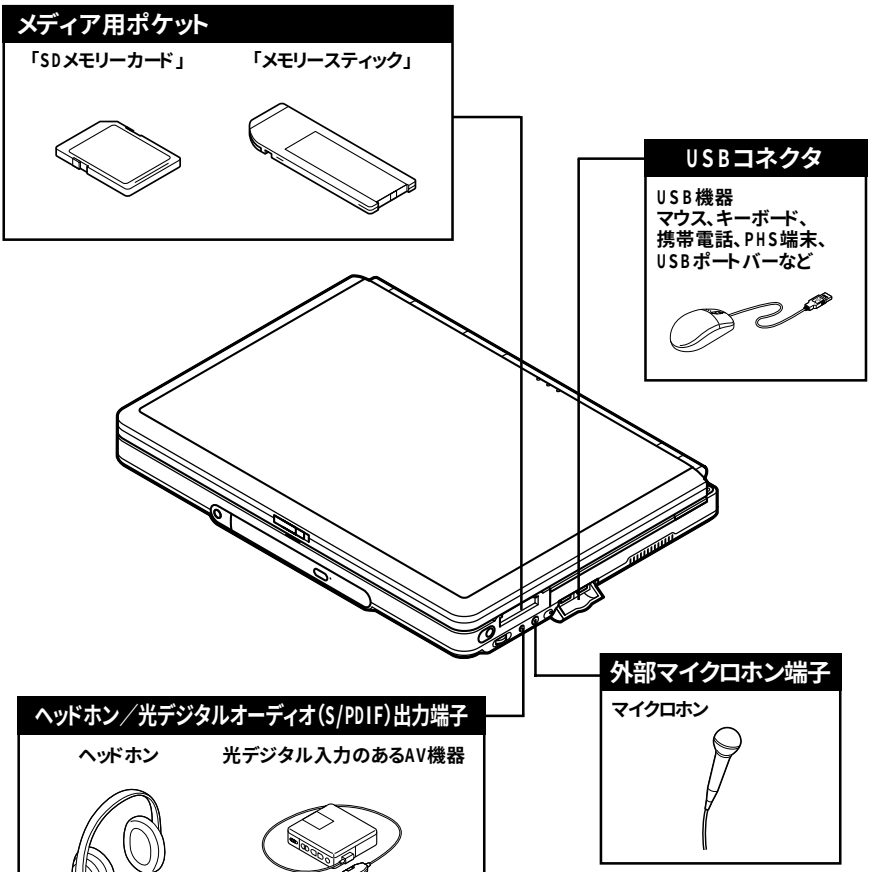
4

周辺機器を使う

別売の周辺機器の接続方法や注意事項などを説明しています。

このパソコンに接続できる周辺機器

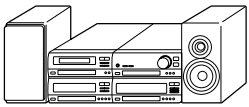
本体前面／右側面



本体背面／左側面

同軸デジタルオーディオ(S/PDIF)入力端子／出力端子

デジタル入出力のあるAV機器

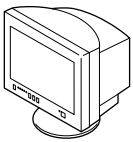


音声出力端子(L)
音声出力端子(R)

音声出力のあるAV機器、TVなど

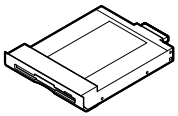
外部CRT用コネクタ

外部ディスプレイ

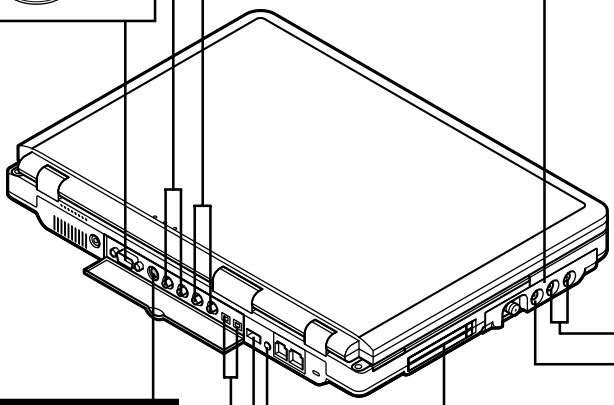


マルチベイ

購入時には、TVチューナパックが取り付けられています。

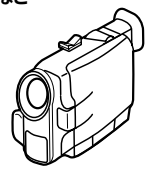


フロッピーディスクドライブ



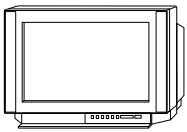
音声入力端子
映像入力端子

ビデオデッキ
デジタルビデオカメラ
など



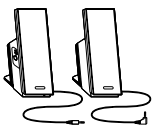
S映像出力端子

S映像対応のテレビやビデオ



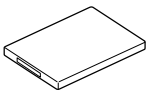
外付けスピーカ用コネクタ

外付けスピーカ



PCカードスロット

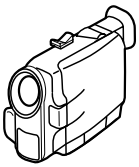
PCカード



SCSIインタフェースカード
など

IEEE1394コネクタ

デジタルビデオカメラ



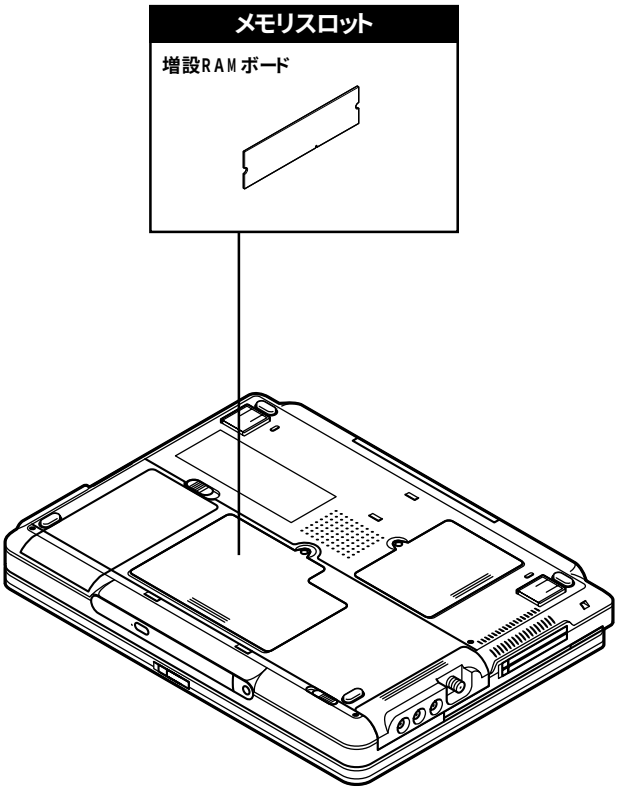
USBコネクタ

USB機器
マウス、キーボード、
携帯電話、PHS端末、
USBポートバーなど

SCSI対応機器

MOドライブ
ハードディスクなど

本体底面



周辺機器を接続する前に

周辺機器を利用する

プリンタや外部ディスプレイなど、パソコンに接続して使用する機器全般を、周辺機器といいます。このパソコンには、さまざまな周辺機器を接続するためのコネクタやポートが用意されています。また、別売のUSBポートバー（PK-UP012S/PK-UP012NS/PK-UP012US）を利用して周辺機器を接続することもできます。

周辺機器を利用するときの注意

⚠警告

●雷が鳴りだしたら、本機や電源コードに触れないでください。また、機器の接続や取り外しを行わないでください。落雷による感電のおそれがあります。

⚠注意

●周辺機器の取り付け／取り外しをするときは、本機の電源を切ったあと、本機と周辺機器の電源コードを抜いてください。電源コードがACコンセントに接続されたまま、周辺機器の取り付け／取り外しをすると、感電の原因となります。

●濡れた手で電源コードを抜き差ししないでください。感電の原因となります。

⚠注意

●パソコンの使用直後は、TVチューナパックおよびその周辺が熱くなっていますので、取り扱いにご注意ください。
TVチューナパックを取り外すときには、パソコンの電源を落として数分たってから行うことをお勧めします。

周辺機器の取り付け／取り外し時の注意

- スタンバイ状態または休止状態のときは、周辺機器を取り付けたり取り外したりしないでください。
  スタンバイ状態または休止状態のときは、復帰させてデータを保存してから電源を切り、周辺機器の取り付けや取り外しを行ってください。
- 別売の周辺機器を取り付けるときには、その周辺機器がこのパソコンに対応していることを確認してください。また、周辺機器によっては使用上の制限事項がある場合がありますので、周辺機器の説明書などをよく読んで使用してください。当社製以外の周辺機器を使用する場合は、周辺機器の製造元／発売元などに上記の事項を確認してください。
- 周辺機器の取り付けや取り外しは、周辺機器の取扱説明書にしたがって正しく行ってください。
- 周辺機器によっては、専用のケーブルが必要な場合があります。接続する前に確認して用意しておいてください。
- PCカードやその他の周辺機器をはじめてお使いになる際に、フロッピーディスクの挿入を促すメッセージが表示される場合があります。この場合は、いったんパソコンの電源を切り、TVチューナパックをフロッピーディスクドライブに差し替える必要があります。TVチューナパックの取り外しかたとフロッピーディスクドライブの取り付けかたについては、PART1の「フロッピーディスクドライブ」(p.46)をご覧ください。

チェック

パソコンにフロッピーディスクドライブを取り付ける前にフロッピーディスクドライブを参照するような操作を行ったときには、次の操作ができるようになるまで時間がかかることがあります。

リソースの競合について

周辺機器を増設すると、他の周辺機器とリソースが競合してどちらかが使えなくなることがあります。この場合は、次の手順でリソースが競合しないように変更してください。

参照
リソースについて→PART6の「割り込みレベルとDMAチャネル」(p.253)

1 起動しているアプリケーションをすべて終了する

2 「コントロールパネル」を開き、「システム」アイコンをダブルクリックする
「システムのプロパティ」画面が表示されます。

3 「デバイスマネージャ」タブをクリックする
「デバイスマネージャ」画面が表示されます。

4 !やXが表示されていて動作しない周辺機器を選び、「プロパティ」ボタンをクリックする

5 「プロパティ」画面で「リソース」タブをクリックし、「自動設定」のをクリックしてにする

6 競合しているリソースを「リソースの種類」一覧の中から選び、ダブルクリックする
「競合の情報」欄に、競合しているデバイスと、競合しているリソースの種類が表示されます。

7 競合しないリソースの値を設定し、「OK」ボタンをクリックする
「競合するデバイス」欄に競合しているデバイスと競合しているリソースが表示されます。

チェック
他の周辺機器がそのリソースを使用している場合や、「この設定のリソースは変更できません」と表示された場合は、その値への変更はできません。

メモ
選んだ周辺機器によっては「ポート番号」と「I/Oの範囲」など複数の変更が必要になることがあります。

8 リソースが競合していないことを確認し、「プロパティ」画面で「OK」ボタンをクリックする

9 「変更不可の環境設定の作成」画面が表示されるので、「はい」ボタンをクリックする
元の画面に戻るまでに、しばらく時間がかかることがあります。そのままお待ちください。

10 「OK」ボタンをクリックし、「システムのプロパティ」を閉じる

11 「スタート」ボタン→「Windowsの終了」でをクリックして「再起動」を選び、「OK」ボタンをクリックする
Windowsが再起動します。

周辺機器を使えるようにセットアップする

周辺機器を使うには、接続した周辺機器用のデバイスドライバをパソコンにセットアップする必要があります。デバイスドライバとは、パソコンと周辺機器との仲介をする周辺機器専用のソフトウェアのことで、ドライバと呼ぶこともあります。デバイスドライバのセットアップ方法は、周辺機器がプラグ＆プレイ機能に対応しているかどうかによって異なります。

チェック

デバイスドライバが正しく組み込めなかった場合は、周辺機器が使用できないばかりか、パソコンの動作が不安定になることがあります。その場合は、周辺機器のマニュアルにしたがって、再度デバイスドライバを正しくセットアップしてください。

● 「プラグ＆プレイ機能」対応の周辺機器の場合

周辺機器を接続してWindowsを起動すると自動的にドライバの設定が行われ、周辺機器が使用可能な状態になります。

メモ

このパソコンにインストールされているWindows Meには、プラグ＆プレイ機能用に多くの周辺機器のドライバがあらかじめ添付されています。接続しようとする周辺機器がプラグ＆プレイ機能に対応しており、かつ添付されたドライバの中に該当するものがあれば、周辺機器の検出と設定が自動的に行われます。

● 「プラグ＆プレイ機能」に対応していない周辺機器の場合

周辺機器を接続したあと、ドライバの設定が必要な場合があります。設定の詳細は、このパソコンやドライバに添付のREADMEファイルや周辺機器のマニュアルをご覧ください。

メモ

READMEファイルは、「メモ帳」などのテキスト形式のファイルが開けるアプリケーションで簡単に見ることができます。

周辺機器の電源を入れる／切る順序

このパソコンに周辺機器を接続しているときには、次の順序で電源を入れたり、切ったりしてください。

● 電源を入れるとき

周辺機器 → パソコン

● 電源を切るとき

パソコン → 周辺機器

プリンタ

このパソコンで使用できるプリンタ

このパソコンにはUSB対応のプリンタを接続することができます。USB対応のプリンタを接続するときは、プリンタのほかに、このパソコンと接続するための別売のケーブルが必要になります。
使用したいプリンタがパラレルコネクタに接続するタイプのプリンタの場合は、別売のUSBポートバー（PK-UP012S/PK-UP012NS/PK-UP012US）と別売の25ピンパラレルインターフェイスに対応したプリンタケーブルが必要になります。

チェック

USBポートバーで使用できないプリンタもありますので、購入時には注意してください。

プリンタを使う準備

プリンタによっては、接続するだけですぐ使えるものもあります。
プリンタを接続しても何も表示されない場合は、「スタート」ボタン→「設定」→「プリンタ」でご購入のプリンタのアイコンが表示されているか確認してください。
ご購入のプリンタのアイコンが表示されている場合は、すぐにプリンタを使うことができます。

USB対応のプリンタ

1 USB対応のプリンタを接続する

参照

接続のしかた→このPARTの「USB対応機器」の「USBコネクタに接続する」（p.222）

2 プリンタ用のドライバや必要なアプリケーションをインストールする

参照

インストールのしかた→プリンタに添付のマニュアル

3 正しく接続できたかテスト印刷をして確認する

パラレルコネクタに接続するプリンタ

1 このパソコンにUSBポートバーを接続する

参照
接続のしかた→USBポートバーのマニュアル

2 USBポートバーのパラレルコネクタにプリンタを接続する

3 下記の「プリンタを設定する」の手順にしたがって、プリンタの設定を行う

プリンタを設定する

パラレルコネクタに接続したプリンタの設定は、使用するプリンタの機種ごとに、Windowsの「プリンタ」画面で行います。 例えば、会社で使うプリンタと家庭で使うプリンタの機種が異なる場合は、それぞれの機種に対して設定を行う必要があります。

プラグ＆プレイ機能対応のプリンタを設定する

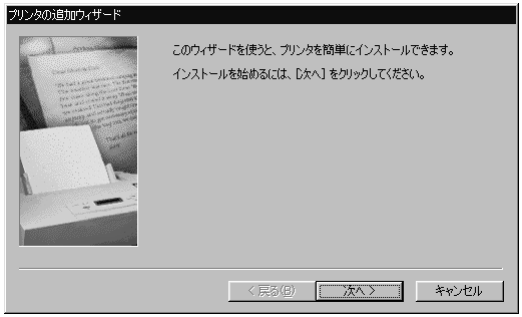
プラグ＆プレイ機能(→p.190)に対応したプリンタを設定する場合、プリンタをパソコンに接続したあと、プリンタ→パソコンの順に電源を入れると、自動的にプリンタドライバの組み込みが行われます。

プラグ＆プレイ機能を利用しないでセットアップを行う場合

1 プリンタが正しく接続され、プリンタの電源が入っていることを確認する

2 「スタート」ボタン→「設定」→「プリンタ」をクリックする
「プリンタ」画面が表示されます。
すでに設定済みのプリンタがある場合は、その機種のアイコンが表示されています。

3 **「プリンタの追加」アイコンをダブルクリックする**
「プリンタの追加ウィザード」画面が表示されます。



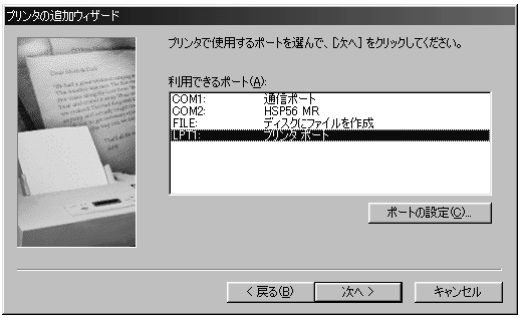
4 **「次へ」ボタンをクリックする**

5 **「プリンタはどこに接続されていますか?」と表示された場合は、「ローカルプリンタ」をクリックして「次へ」ボタンをクリックする**
「製造元」と「プリンタ」のリストが表示されます。

6 **表示されたリストの中から、使用するプリンタの製造元とプリンタの機種(または互換性のある機種)を選ぶ**

プリンタにインストールディスク(ドライバディスク)が添付されており、そのインストールディスクを使用してセットアップを行う場合は、「ディスク使用」ボタンをクリックします。インストール場所を指定する画面が表示されたら、プリンタのマニュアルをご覧になり、インストールディスクの指定を行ってください。

7 「次へ」ボタンをクリックすると、プリンタを使用できるポートのリストが表示されるので、LPT1を選ぶ



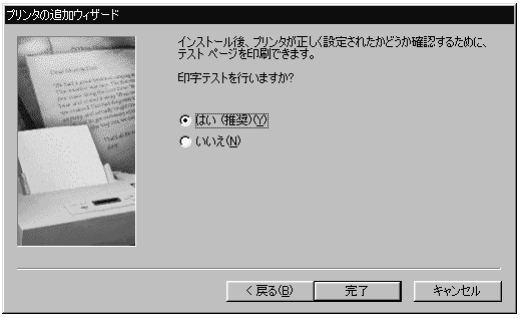
8 「次へ」ボタンをクリックし、表示された画面の「プリンタ名」欄に使用するプリンタの名前を付ける

この欄には手順6で選んだプリンタの機種名がプリンタ名として表示されるので、特に名前を付け直す必要がなければ、そのままにしておきます。

9 「次へ」ボタンをクリックする

テスト印刷を行うかどうかを選ぶ画面が表示されます。

「はい(推奨)」を選ぶと、テストページの印刷によってプリンタの接続や設定が正常に行われたかどうか確認することができます。この場合は、あらかじめプリンタのマニュアルにしたがって用紙などをセットしておいてください。



10 設定が終了したら「完了」ボタンをクリックする

もし、今までの設定を変更したい場合は、「戻る」ボタンをクリックして前の設定画面に戻り、設定をやり直します。

このあと必要なファイルのコピーが行われます。ファイルのコピーがすべて終了すると、設定したプリンタのアイコンが「プリンタ」画面に表示されます。
「Windowsのディスクを挿入してください」というメッセージが表示された場合は、「C：¥WINDOWS¥OPTIONS¥CABS」を指定してください。

チェック

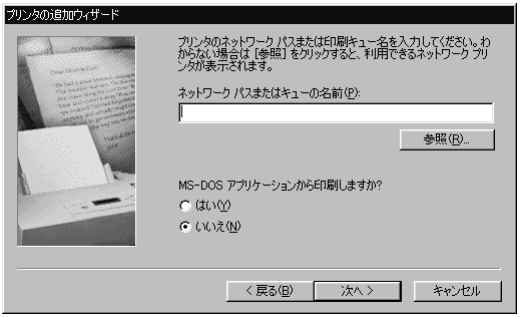
NEC製プリンタのMultiWriterシリーズ、MultiImpactシリーズでPrintAgentをお使いの場合は、スタンバイ機能に対応していない場合があります。その場合、「コントロールパネル」の「電源の管理」の「電源設定」タブで「システムスタンバイ」を「なし」に設定して、スタンバイ機能が動作しないように設定してください。

ネットワーク上の共有プリンタを使うための設定をする

ネットワークに接続されているプリンタを使用する場合は、次のように設定します。設定するには、あらかじめプリンタのパスを調べておく必要があります。プリンタのパス名など、ネットワークプリンタについては、ネットワークの管理者にお問い合わせください。

1 「プリンタを設定する」（→p.192）の手順1～4を行う

2 「ネットワークプリンタ」をクリックして、「次へ」ボタンをクリックする
次のような画面が表示されます。



3 ネットワークパス名を入力する
「参照」ボタンをクリックすると、ネットワークに接続されているプリンタが表示されるので、そこから選ぶこともできます。

4 「次へ」ボタンをクリックし、あとは画面の指示にしたがってプリンタの設定を行う

マウス

別売のマウスの設定方法

このパソコンでは、別売のUSBマウスを使用することができます。別売のUSBマウスを使用するための設定方法については、次からの説明をご覧ください。

チェック

マウスドライバの変更を行うとき、一時的にマウスやNXパッドなどのポインティングデバイスが使用できなくなる場合があります。その場合でもキーボードによる操作は可能ですので次の手順でWindowsを再起動してください。

● キーボードを使って再起動する

1 【Ctrl】を押しながら【Esc】を押す

2 カーソル移動キーで「Windowsの終了」を選択し【Enter】を押す

3 カーソル移動キーで「再起動」を選択し、【Enter】を押す

USBマウスを使用する

このパソコンにUSBマウスを接続して使用する場合は、次の手順で設定を行ってください。

チェック

マウスドライバの変更を行うときは、使用中のアプリケーションを全て終了させてください。

1 「コントロールパネル」を開き、「システム」アイコンをダブルクリックする
「システムのプロパティ」画面が表示されます。

2 「デバイス マネージャ」タブをクリックし、「マウス」の左の＋をクリックする

3 「NX PAD」をクリックし、「プロパティ」ボタンをクリックする
「NX PADのプロパティ」画面が表示されます。

4 「ドライバ」タブをクリックし、「ドライバの更新」ボタンをクリックする
「デバイスドライバの更新ウィザード」画面が表示されます。

5 「ドライバの場所を指定する(詳しい知識のある方向け)」の○をクリックして◉にし、「次へ」ボタンをクリックする

6 「特定の場所にあるすべてのドライバの一覧を表示し、インストールするドライバを選択する」の○をクリックして◉にし、「次へ」ボタンをクリックする

7 「モデル」欄から「標準PS/2ポートマウス」をクリックし、「次へ」ボタンをクリックする

チェック

- 「モデル」欄に「標準PS/2ポートマウス」が表示されていない場合は、「すべてのハードウェアを表示」の○をクリックして◉にして「製造元」欄から「(標準マウス)」を選択し、「モデル」欄から「標準PS/2ポートマウス」を選択してください。
- 「ドライバ更新の警告」画面が表示された場合は、「はい」ボタンをクリックしてください。

8 「次へ」ボタンをクリックする
必要なファイルがコピーされます。

9 「ハードウェアデバイス用に選択したドライバがインストールされました。」と表示されたら、「完了」ボタンをクリックする
「システム設定の変更」画面が表示されます。

チェック

ポインタが動かなくなった場合は、【Enter】を押してください。

10 「はい」ボタンをクリックする
Windowsが再起動します。

USBマウスを使用する場合は、Windowsが起動したあとにUSBマウスを接続してください。

NXパッドを使用する設定に戻す

1 「コントロールパネル」を開き、「システム」アイコンをダブルクリックする
「システムのプロパティ」画面が表示されます。

2 「デバイス マネージャ」タブをクリックし、「マウス」の左の＋をクリックする

3 現在使用しているマウスを選択し、「プロパティ」ボタンをクリックする
現在使用しているマウスのプロパティ画面が表示されます。

4 「ドライバ」タブをクリックし、「ドライバの更新」ボタンをクリックする
「デバイスドライバの更新ウィザード」画面が表示されます。

5 「ドライバの場所を指定する（詳しい知識のある方向け）」の○をクリックして◉にし、「次へ」ボタンをクリックする

6 「特定の場所にあるすべてのドライバの一覧を表示し、インストールするドライバを選択する」の○をクリックして◉にし、「次へ」ボタンをクリックする

7 「モデル」欄から「NX PAD」を選択し、「次へ」ボタンをクリックする

8 「次へ」ボタンをクリックする
必要なファイルがコピーされます。

9 「ハードウェアデバイス用に選択したドライバがインストールされました。」と表示されたら、「完了」ボタンをクリックする

10 「閉じる」ボタンをクリックし、再び「閉じる」ボタンをクリックする

11 「スタート」ボタン→「Windowsの終了」で▼をクリックして「再起動」を選び、「OK」ボタンをクリックする

再起動後、NXパッドが有効になります。再起動してもポインタが動かない場合は、キーボードを使用してWindowsをもう一度再起動してください。

他社製のマウスドライバを使用するときの注意

他社製のマウスには、独自のマウスドライバが添付されているものがあります。他社製のマウスドライバのインストール、アンインストールは次の手順で行ってください。

チェック

マウスドライバを変更するときは、使用中のアプリケーションをすべて終了させてください。

他社製のマウスドライバをインストールする

1 「USBマウスを使用する」(p.196)の手順1～10を行い、マウスドライバを「標準PS/2ポートマウス」に設定する

2 他社製のマウスドライバをインストールする

参照

マウスドライバのインストール→マウスのマニュアル

他社製のマウスドライバをアンインストールする

1 他社製のマウスドライバをアンインストールする

参照

マウスドライバのアンインストール→マウスのマニュアル

2 「USBマウスを使用する」(p.196)の手順1～10を行い、マウスドライバを「標準PS/2ポートマウス」に設定する

3 「NXパッドを使用する設定に戻す」(p.198)の手順にしたがって、NXパッドを使用する設定に戻す

外部ディスプレイを使う

CRTディスプレイを使う

このパソコンには別売のCRTディスプレイを接続することができます。CRTディスプレイの大画面を使った作業が可能になります。

CRTディスプレイ接続時の解像度と表示色

別売のCRTディスプレイでは、次の解像度と表示色を表示できます。

表示解像度（ドット）	水平走査周波数（KHz）	垂直走査周波数（Hz）	表示色		
			256色	65,536色	1,677万色※
640×480	31.5	60	○	○	○
	37.5	75	○	○	○
	43.3	85	○	○	○
800×600	37.9	60	○	○	○
	46.9	75	○	○	○
	53.7	85	○	○	○
1,024×768	48.4	60	○	○	○
	56.5	70	○	○	○
	60.0	75	○	○	○
	68.7	85	○	○	○
1,280×1,024	64.0	60	○	○	○
	80.0	75	○	○	○
	91.1	85	○	○	○
1,600×1,200	75.0	60	○	○	○
	93.8	75	○	○	○

○：表示可能
×：表示不可能
※：32ビットTrueColorで表示

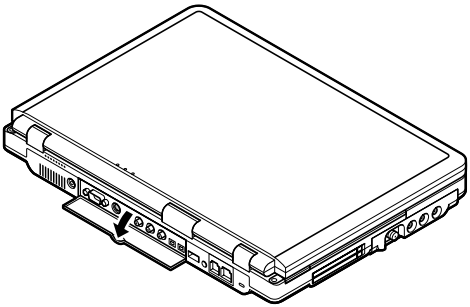
チェック

使用するCRTディスプレイによっては、上の表に記載されている走査周波数や解像度と異なる場合があります。CRTディスプレイを使用するときは、CRTディスプレイのマニュアルで、対応している走査周波数や解像度を確認してください。

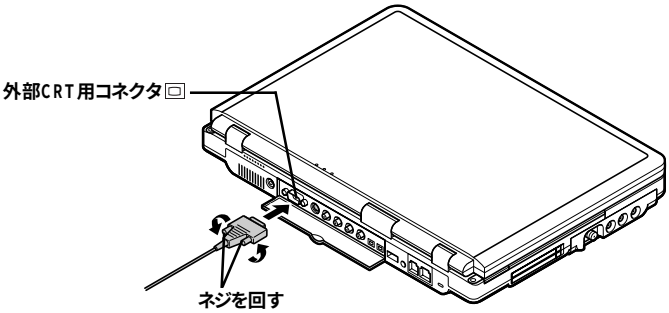
CRTディスプレイを接続する

1 パソコンを使用中の場合は、「スタート」ボタン→「Windowsの終了」で▼をクリックして「終了」を選び、「OK」ボタンをクリックして電源を切る

2 本体背面のコネクタカバーを開ける



3 ディスプレイ用ケーブルをパソコンの外部CRT用コネクタに差し込み、ネジを回して固定する



4 CRTディスプレイの電源ケーブルを、ディスプレイ背面の電源コネクタに差し込む
詳しくはCRTディスプレイのマニュアルをご覧ください。

5 パソコンにACアダプタを接続する

6 CRTディスプレイの電源ケーブルとパソコンの電源コードをACコンセントに接続する
CRTディスプレイを接続した場合、パソコンはACアダプタで使用してください。

プロジェクタを使う

このパソコンには、別売のプロジェクタを接続することができます。プロジェクタは、プレゼンテーションなどに利用することができます。

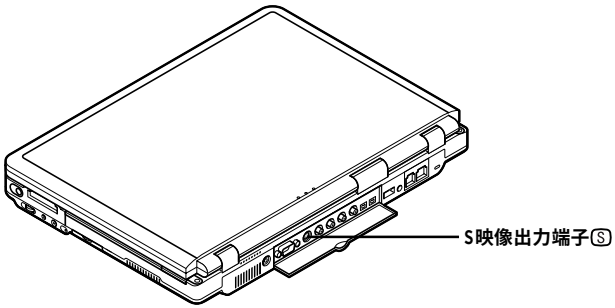
プロジェクタと解像度について

別売のプロジェクタを使用する場合は、プロジェクタのマニュアルを参考にして表示解像度などを確認してください。

参照
プロジェクタとの接続のしかた→プロジェクタのマニュアル

テレビを使う

このパソコンのS映像出力端子(Ⓢ)とテレビやビデオなどの機器とを接続すると、パソコンの画面やDVD VIDEOディスクの再生をテレビに出力することができるようになります。



S映像入力端子付きのテレビやビデオと接続する場合は、S映像出力端子に市販のビデオケーブルを接続してテレビやビデオと接続してください。
ビデオ入力端子付きのテレビやビデオと接続する場合は、添付のビデオ変換ケーブルの黒いほうのコネクタをS映像出力端子に接続してから、ビデオ変換ケーブルの黄色いコネクタと市販のビデオケーブルを接続してテレビやビデオと接続してください。
テレビへの出力のしかたについては、次の「表示するディスプレイを切り替える」をご覧ください。

参照
テレビで表示できる表示色と解像度→PART1の「液晶ディスプレイ」の「表示できる解像度と表示色」(p.66)

表示するディスプレイを切り替える

別売のCRTディスプレイやテレビなどが接続されている場合は、キーボードを使って画面の出力先を切り替えることができます。

1 【Fn】を押したまま【F3】を押す
キーを押すごとに、「このパソコンの液晶ディスプレイとCRTディスプレイの同時表示」→「テレビ」→「このパソコンの液晶ディスプレイ」→「CRTディスプレイ」の順に画面の出力先が切り替わります。

メモ

「テレビ」への出力は、テレビが接続されているときのみ切り替わります。

複数のディスプレイに同時表示する

パソコンの液晶ディスプレイと接続したCRTディスプレイやテレビなどの外部ディスプレイの両方に同時に画面を表示させるには、次のような方法があります。

- 同じ画面を2つのディスプレイに表示する
- 2つのディスプレイを使ってひとつの画面を表示する（デュアルディスプレイ機能）

同じ画面を2つのディスプレイに表示する

1 「コントロールパネル」を開き、「画面」アイコンをダブルクリックする
「画面のプロパティ」画面が表示されます。

2 「設定」タブをクリックし、「詳細」ボタンをクリックする

3 「ATI画面」タブをクリックする
「モニタ」「パネル」「テレビ」の接続状態が表示されます。

4 「モニタ」「パネル」「テレビ」のボタンをクリックして設定し、それぞれの隣にある をクリックして表示するディスプレイを決定する
が水色の場合は表示がオンになり、グレーの場合はオフになります。

チェック

メディアプレーヤーなどでビデオCDを表示する場合、複数のディスプレイで同時表示させると、一方のディスプレイで画面が正しく表示されないことがあります。このような場合は、「パネル」の下の水色の丸いボタンをクリックして「プライマリ」に設定してください。
なお、液晶ディスプレイとテレビを同時にプライマリに設定することはできません。

5 設定が終了したら「適用」ボタンをクリックし、表示が切り替わったことを確認して「OK」ボタンをクリックする

6 メッセージが表示されたら「はい」ボタンをクリックする

チェック

DVD VIDEOディスク再生は「プライマリ」に設定されているデバイスでのみ表示可能となります。

デュアルディスプレイ機能

デュアルディスプレイ(Dual Display)とは、CRTディスプレイなどの外部ディスプレイを接続したときに、本体の液晶ディスプレイと外部ディスプレイを使ってひとつの画面として表示できる機能です。液晶ディスプレイと外部ディスプレイを続き画面として利用できるので、表示できる範囲が広くなります。

チェック

画面の解像度によっては、デュアルディスプレイ表示にならない場合があります。

■ デュアルディスプレイ機能を使う準備をする

画面を表示するディスプレイのオン／オフ、プライマリ／セカンダリを次の手順にしたがって設定します。

1 別売のディスプレイを接続し、電源を入れる(→p.201)

2 パソコンの電源を入れる

3 「コントロールパネル」を開き、「画面」アイコンをダブルクリックする
「画面のプロパティ」画面が表示されます。

4 「設定」タブをクリックし、「詳細」ボタンをクリックする

5 「ATI画面」タブをクリックする
「モニタ」「パネル」「テレビ」の接続状態が表示されます。

6 「モニタ」の左上のボタンをクリックする
接続したモニタへの表示がオンになります。

チェック

表示をすべてオフにすることはできません。どれかひとつはオンの状態になっています。

7 「モニタ」「パネル」の下のボタンをクリックする
「プライマリ」ディスプレイ、「セカンダリ」ディスプレイが指定されます。

チェック
すべてをセカンダリに設定することはできません。

接続が認識され、ディスプレイの表示がオンに設定されると、解像度とリフレッシュレート（水平同期周波数）が表示されます。

8 「OK」ボタンをクリックする

9 「OK」ボタンをクリックする

■ デュアルディスプレイ機能を使う

1 「コントロールパネル」を開き、「画面」アイコンをダブルクリックする
「画面のプロパティ」画面が表示されます。

2 「設定」タブをクリックする

3 「2」と表示されたディスプレイのイラストをクリックする
モニタの使用を確認するメッセージが表示されます。

4 「はい」ボタンをクリックする

5 「適用」ボタンをクリックする
これでデュアルディスプレイ機能を使うことができます。

■ デュアルディスプレイ機能を解除する

1 「デュアルディスプレイ機能を使う」の手順1～2を行う

2 「2」と表示されたディスプレイのイラストを右クリックする

3 表示されたメニューから「使用可能」をクリックする

4 「適用」ボタンをクリックする
これでデュアルディスプレイ機能は解除されました。

接続した外部ディスプレイを設定する

別売のCRTディスプレイを使用したとき、表示されたメッセージが適切でなかったり、プラグ＆プレイに対応していないディスプレイの場合には、次の操作を行ってください。

1 「コントロールパネル」を開き、「画面」アイコンをダブルクリックする
「画面のプロパティ」画面が表示されます。

2 「設定」タブをクリックし、「詳細」ボタンをクリックする

3 「モニタ」タブをクリックし、「変更」ボタンをクリックする
「デバイスドライバの更新ウィザード」画面が表示されます。

4 「ドライバの場所を指定する（詳しい知識のある方向け）」の○をクリックして◉にし、「次へ」ボタンをクリックする

5 「特定の場所にあるすべてのドライバの一覧を表示し、インストールするドライバを選択する」の○をクリックして◉にし、「次へ」ボタンをクリックする

6 「すべてのハードウェアを表示」の○をクリックして◉にする

7 一覧から「製造元」と「モデル」を選ぶ
一覧に、接続したディスプレイのモデルが表示されない場合は、「製造元」欄で「（標準モニタの種類）」を選び、「モデル」欄で接続したディスプレイに対応した解像度を選んでください。

8 「次へ」ボタンをクリックし、再び「次へ」ボタンをクリックする

9 「完了」ボタンをクリックし、「閉じる」ボタンをクリックする

10 「OK」ボタンをクリックする
これでディスプレイの設定が完了しました。

「メモリースティック」や「SDメモリーカード」を使う

メディア用ポケットのアダプタについて

このパソコンのメディア用ポケットでは、マジックゲート　メモリースティック　アダプタやSDメモリーカードアダプタを使用し、「マジックゲート　メモリースティック」や「SDメモリーカード」を使用することができます。

マジックゲート　メモリースティック　アダプタやSDメモリーカードアダプタが添付されているモデルの場合、詳しい使いかたについては『「メモリースティック」を使ってみよう』または『「SDメモリーカード」を使ってみよう』をご覧ください。

マジックゲート メモリースティック アダプタやSDメモリーカードアダプタが添付されていないモデルの場合、「メモリースティック」や「SDメモリーカード」を使用するには、別売のアダプタが必要です。

型名	名称
PC-VP-WU08	マジックゲート　メモリースティック　アダプタ
PC-VP-WU09	SDメモリーカードアダプタ

PCカード

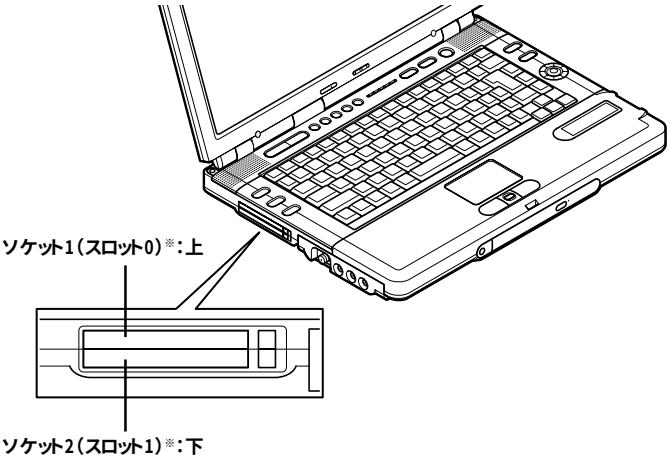
PCカードとPCカードスロットを使う

PCカードについて

PCカードには、メモリカードやモデムカード、SCSIインターフェイス対応機器をつなげるためのSCSIカードなどいくつかの種類があり、用途も幅広く使われています。PCカードを使うことで、パソコンの機能を拡張したり、さまざまな周辺機器を接続することができます。このパソコンではPC Card Standard準拠のPCカードが使用できます。

PCカードスロットについて

- TYPE IかTYPE IIのPCカードを上下のスロットに1枚ずつ2枚まで、または上下のスロットを合わせて1枚のTYPE IIIのPCカードを使用できます。
- CardBus対応のPCカードは、ソケット1（スロット0）またはソケット2（スロット1）の両方で同時に使うことができます。



※ワイヤレスLANモデルをお使いの場合、上側がソケット1（スロット0）下側がソケット3（スロット1）となります。

PCカードの取り扱いについて

PCカードは精密にできています。PCカードやスロットの故障を防ぐため、次の点に注意してください。

- 高温多湿あるいは低温の場所に放置しないでください。
- 濡らさないでください。
- 重いものを乗せたり、ねじ曲げたりしないでください。
- ぶつけたり、落としたりして衝撃を与えないでください。
- PCカードの端子部分に金属などを差し込まないでください。

PCカードを使用するときの注意

- PC Card Standardに準拠していないPCカードは使用できません。対応していないPCカードを無理に押し込むと、故障の原因となります。
- ATAカードをセットしていると、カードをセットしていないときよりもスタンバイ状態または休止状態になるまでに時間がかかります。
- マルチファンクションカードとATAカードを同時にセットして使用するときは、下側のスロット（スロット1）にマルチファンクションカードを、上側のスロット（スロット0）にATAカードをセットしてください。
- CardBus対応PCカードのドライバをインストールしているときに、「例外エラー」が発生する場合があります。この場合、Windowsを再起動すると、正常にインストールを完了することがあります。

PCカードのセットのしかたと取り出しかた

⚠注意

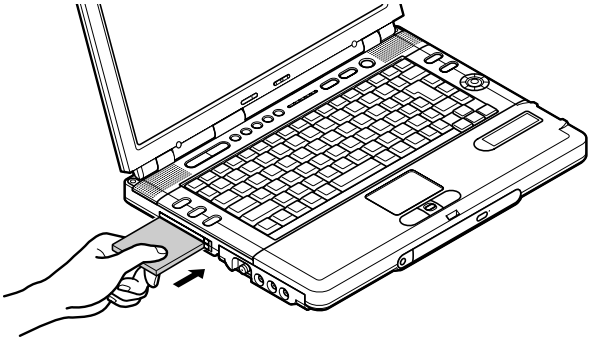
●本機の使用中や使用直後はPCカードが熱くなっていますので、出し入れにご注意ください。

PCカードをセットする／取り出すときの注意

- PCカードには表と裏があり、スロットに差し込む方向も決まっています。間違った向きで無理やり差し込むと、コネクタやスロットを破損するおそれがあります。
- スタンバイ状態または休止状態の場合は、PCカードをセットしたり、取り出したりしないでください。パソコンの機器構成が変更されると、データが消失してしまうことがあります。
- アプリケーションを使用中は、PCカードをセットしたり、取り出したりしないでください。

PCカードをセットする

1 PCカードの差し込む向きを確認し、ラベル面を上にして、水平に静かに差し込む



PCカードを取り出す

PCカードを取り出す場合は、必ず次の手順で取り出してください。

1 インジケータ領域（タスクトレイ）にあるをダブルクリックする
「ハードウェア取り外し」画面が表示されます。

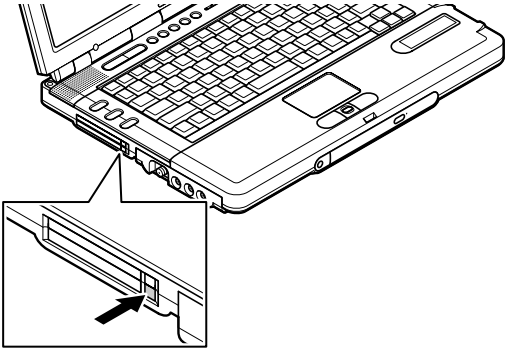
2 取り外したいPCカードを選択し、「停止」ボタンをクリックする

3 「OK」ボタンをクリックする
安全に取り外せるという内容のメッセージが表示されます。

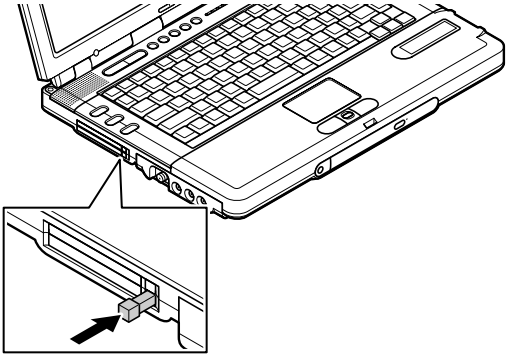
4 「OK」ボタンをクリックする

5 「閉じる」ボタンをクリックする
「ハードウェアの取り外し」画面が閉じます。

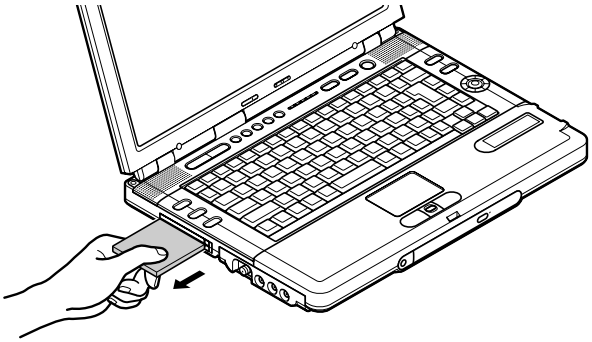
6 本体のPCカードイジェクトボタンを押す
イジェクトボタンが手前にとび出します。



7 もう一度イジェクトボタンを押す
PCカードが少しとび出します。



8 PCカードを水平に静かに引き抜く



上記の手順以外の方法でPCカードを抜きとった場合は、「予期しないPCカードの取り外し」画面が表示される場合があります。「OK」ボタンをクリックして、画面を閉じてください。

PCカードの割り込みレベルを設定する

PCカードによっては、割り込みレベルの設定がパソコンの他の設定と重なってしまう場合があります。PART6の「割り込みレベルとDMAチャネル」(→p.252)やPCカードのマニュアルをご覧になり、割り込みレベルが重なっていないか確認してください。割り込みレベルが重なる場合は、重ならないように設定を変更してください。

参照
割り込みレベルの設定を変更する→このPARTの「リソースの競合について」(p.188)

メモリ

メモリを増設する

別売の増設RAMボードを取り付けてメモリを増やすことで、より多くのアプリケーションを同時に起動したり、大きなデータをより高速に扱うことができるようになります。

メモ

あらかじめ取り付けられている128MバイトのRAMボードを外して両方のスロットに別売の256Mバイトの増設RAMボードを2枚取り付けることで、最大512Mバイトまでメモリを増設することができます。

このパソコンでは、次の増設RAMボードが使用できます。

型名	メモリ容量
PK-UG-M025	128Mバイト
PK-UG-M026	256Mバイト

増設RAMボードを取り扱うときの注意

⚠注意

感電注意

●増設RAMボードの取り付け／取り外しをするときは、本機の電源を切ったあと、電源コードとバッテリパックを取り外してください。電源コードやバッテリパックが取り付けられたまま増設RAMボードの取り付け／取り外しをすると、感電の原因となります。

- 増設RAMボードは静電気に大変弱く、身体に静電気を帯びた状態で増設RAMボードを扱うと破損する原因となります。増設RAMボードに触れる前に、アルミサッシやドアのノブなど身近な金属に手を触れて、静電気を取り除いてください。
- 増設RAMボードのコネクタ部分には手を触れないでください。接触不良など、故障の原因となります。
- ボード上の部品やハンダ付け面には触れないよう注意してください。
- 増設RAMボードを間違った向きで無理に取り付けようとすると、パソコンのコネクタ部や増設RAMボードが故障する原因となります。取り付け方向に注意してください。

増設RAMボードの取り付けかたと取り外しかた

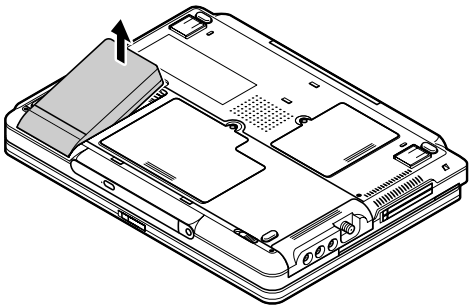
増設RAMボードを取り付ける

1 パソコンを使用中の場合は、「スタート」ボタン→「Windowsの終了」で▼をクリックして「終了」を選び、「OK」ボタンをクリックして電源を切る

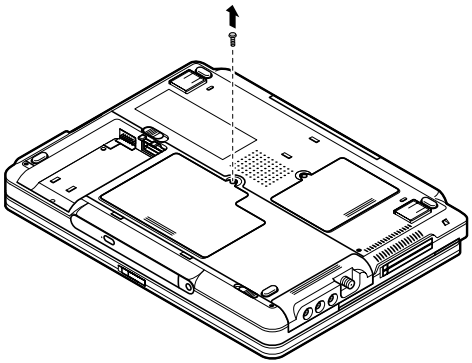
2 電源コードのプラグをACコンセントから抜いてから、ACアダプタをパソコンから取り外す

3 液晶ディスプレイを閉じて、パソコンを裏返す

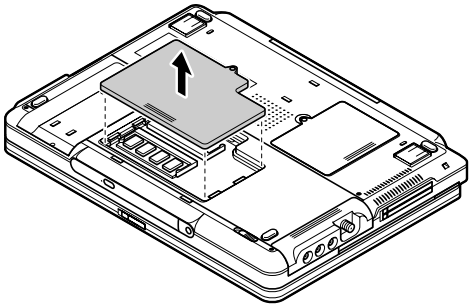
4 バッテリパックを取り付けている場合は、バッテリパックを取り外す（→p.77）
セカンドハードディスクドライブを取り付けている場合は、取り外す必要はありません。そのまま手順5にお進みください。



5 図のネジをプラスドライバで取り外す



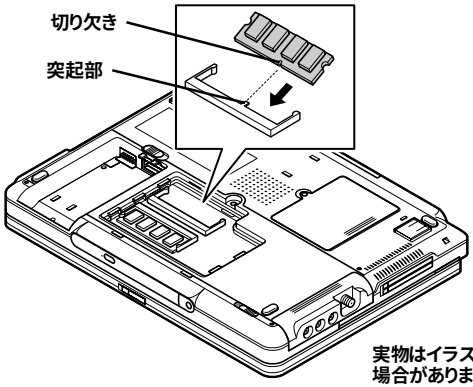
6 メモリスロットのカバーを取り外す



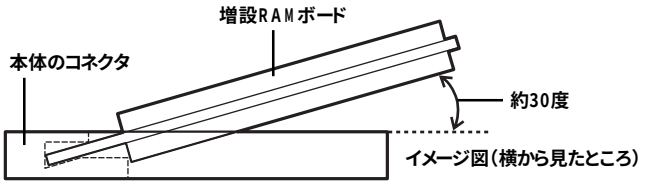
7 増設RAMボードの切り欠き部分をコネクタの突起部に合わせ、コネクタに対して約30度の挿入角度で、増設RAMボードの端子が当たるまで挿入する
増設RAMボードを奥まで挿入できている場合は、端子部分（金色）のほとんどが、本体のコネクタに差し込まれた状態になります。

チェック

増設RAMボードの表と裏が逆の場合は、増設RAMボードの切り欠きとコネクタの突起部の位置が合わず、挿入することができませんので、よく確認してください。



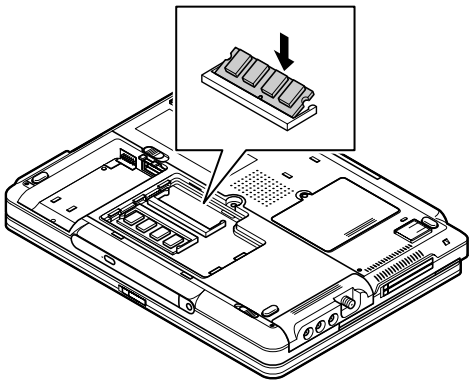
実物はイラストと多少異なる場合があります



チェック

挿入するときに、コネクタが固いことがありますが、奥までしっかり押し込んでください。しっかり押し込まずに次の手順を行うと、コネクタを破損するおそれがあります。

8 カチッと音がする位置まで増設RAMボードをコネクタに強く倒し込む

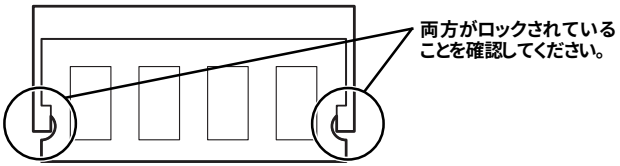


9 増設RAMボードがコネクタにしっかりロックされたことを確認する

正しくロックされている場合は、増設RAMボードが水平で、端子の金色の部分が少し（1mm程度）見える状態です。

チェック

確実にロックされていないと、本体のコネクタ部や増設RAMボードの故障の原因となります。また、パソコンが正しくメモリを認識できないこともあります。



10 メモリスロットのカバーを元に戻し、外したネジを本体底面に取り付ける

11 バッテリパックとACアダプタを取り付ける

メモリ増設後は、次の「増設したメモリ（RAM）の確認」にしたがって、正しく増設できたかどうか確認してください。

増設したメモリ（RAM）の確認

増設したメモリがパソコンに正しく認識されているかどうかを確認します。

1 「コントロールパネル」を開き、「システム」アイコンをダブルクリックする

2 「全般」タブで右下に表示されている「＊＊＊MBのRAM」の数値を確認する
＊＊＊MBがこのパソコンの総メモリ容量です。

メモ

システムの状態によっては、増設したメモリ分より容量が少なく表示される場合がありますが故障ではありません。

メモリ容量が増えていない場合は、次のことを確認してください。
・増設RAMボードが正しく取り付けられているか
・このパソコンで使用できる増設RAMボードを取り付けているか

ハードディスクの空き容量を確認する

このパソコンで休止状態の機能（→p.85）を使用する場合は、次の手順1～4の操作を行って設定を確認してください。増設したメモリ容量分、ハードディスクの空き容量が必要になります。

1 パソコンの電源を入れる

チェック

本機の起動直後にメッセージが表示されますが、動作上問題ありません。

2 「コントロールパネル」を開き、「電源の管理」アイコンをダブルクリックする
「電源の管理のプロパティ」画面が表示されます。

3 「休止状態」タブをクリックする

4 「休止のためのディスク領域」欄で、「ディスクの空き領域」の値が「休止状態にするために必要なディスク領域」の値よりも大きいことを確認する

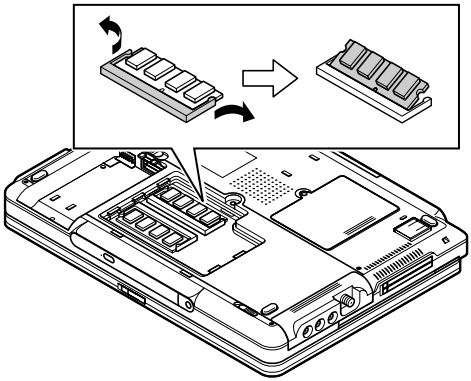
チェック

「ディスクの空き領域」の値が「休止状態にするために必要なディスク領域」の値より小さいと休止状態にできなくなります。このような場合は、不要なファイルを削除するなどしてディスクの空き領域を増やしてください。

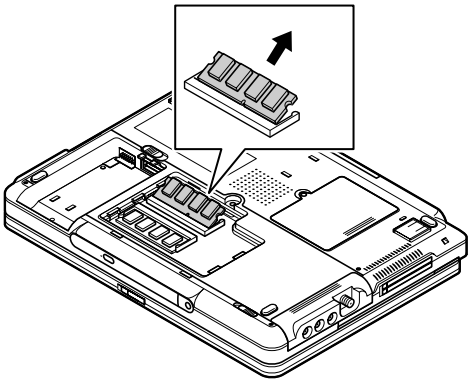
増設RAMボードを取り外す

1 「増設RAMボードを取り付ける」(→p.214)の手順1～6にしたがって、メモリスロットのカバーを取り外す

2 メモリスロットのコネクタの両端部分を左右に押し広げる
増設RAMボードが図のようにおきあがります。



3 そのまま増設RAMボードを斜めに引き抜く



4 メモリスロットのカバーを元に戻し、外したネジを本体底面に取り付ける

5 バッテリパックを取り付ける(→p.78)

IEEE1394コネクタ

IEEE1394とは

IEEE1394は、IEEE（米国電気電子技術者協会）で標準化された規格の一つで、パソコンと周辺機器のデータのやりとりを高速に行うことができるインターフェイスです。転送速度が早いので、動画などの容量の大きいデータもスムーズに転送することができます。
IEEE1394に対応している周辺機器には、デジタルビデオカメラやデジタルビデオデッキなどがあります。

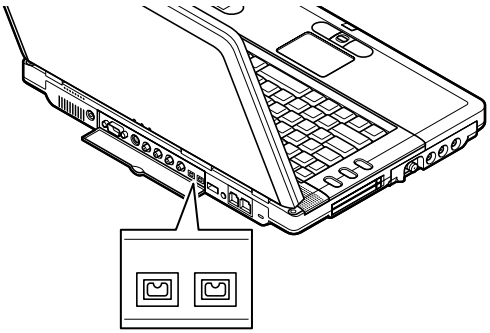
IEEE1394対応機器を接続する

接続する前に

- このパソコンと、IEEE1394コネクタを持っている周辺機器を接続するときは、別売のケーブルが必要です。このパソコンのIEEE1394コネクタは、4ピンのコネクタです。ケーブルを購入する際には、接続するパソコンや機器側のコネクタの形状も確認しておいてください。
- 周辺機器によっては、IEEE1394に対応した端子のことを別の名称（DV端子など）で呼んでいる場合もあります。

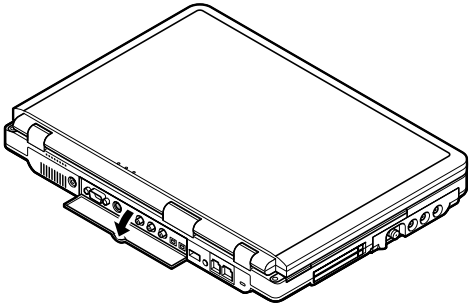
このパソコンのIEEE1394コネクタ

このパソコンには、IEEE1394コネクタが2つあります。
同時に2種類のIEEE1394対応機器をパソコンに接続することができます。

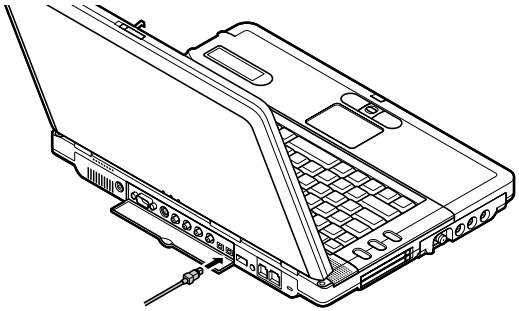


IEEE1394コネクタに接続する

1 本体背面のIEEE1394コネクタのカバーを開ける



2 カバーを開けたままの状態で、IEEE1394ケーブルを接続する
どちらのコネクタに接続してもかまいません。



チェック

接続する場合は、プラグの向きに注意してください。間違った向きで無理に差し込もうとすると、本体側のコネクタやケーブルのプラグの故障または破損の原因となります。

3 ケーブルの反対側のプラグを周辺機器に接続する
周辺機器との接続については、周辺機器のマニュアルをご覧ください。

メモ

IEEE1394コネクタを使用しない場合は、コネクタのカバーは閉じておいてください。

IEEE1394接続ケーブルでパソコン同士を接続すると、パソコン間でプリンタやファイルを共有したり、データの移動が簡単、高速にできます。

チェック

IEEE1394接続ケーブルは、接続先のコネクタ形状に合わせたケーブルを使用してください。

接続にはホームネットワークの設定が必要です。
ホームネットワークの設定をするには、「ホーム ネットワーク ウィザード」を使います。「スタート」ボタン→「プログラム」→「アクセサリ」→「通信」→「ホーム ネットワーク ウィザード」をクリックして表示された画面にしたがって設定を行ってください。

IEEE1394コネクタから機器を取り外す

IEEE1394対応機器は、パソコンの電源を入れたままでも取り外すことができます。

チェック

IEEE1394対応機器によっては、機器を接続するとインジケータ領域（タスクトレイ）に が表示されます。このような場合は、次の手順で取り外しを行ってください。正しい手順で取り外しを行わないとパソコンが正常に動作しなくなることがあります。

1 インジケータ領域（タスクトレイ）にある をダブルクリックする
「ハードウェアの取り外し」画面が表示されます。

2 取り外したい機器名をクリックして「停止」ボタンをクリックする
機器名が表示されていない場合は、手順5へ進んでください。

3 「ハードウェア デバイスの停止」画面で取り外したい機器名をクリックして「OK」ボタンをクリックする
安全に取り外すことができるという内容のメッセージが表示されます。

4 「OK」ボタンをクリックする

5 「閉じる」ボタンをクリックして「ハードウェアの取り外し」画面を閉じる

6 取り外す機器のプラグを、本体のIEEE1394コネクタから取り外す

USB対応機器

USBとは

USBとはUniversal Serial Busの頭文字をとったもので、コネクタの形状が統一されており、127台までの機器を接続することができます。また、電源を切らずにプラグの抜き差しが可能で、プラグ＆プレイ機能にも対応しています。
USBコネクタはUSBポートと呼ぶこともあります。
現在利用できる主なUSB対応機器として、次のようなものがあります。

- マウス
- プリンタ
- イメージスキャナ
- デジタルカメラ
- USBポートバー
- ISDNターミナルアダプタ
- 携帯電話
- PHS端末

など

メモ

- USB対応機器の、このパソコンでの動作確認情報については、各機器に添付のマニュアルをご覧いただくか、各機器の発売元にお問い合わせください。なお、NEC製のUSB機器の情報は、NECのホームページ「121ware.com（ワントゥワンウェア ドット コム）」をご覧ください。

  http://121ware.com/
- 携帯電話やPHS端末を接続するには、携帯電話接続ケーブルまたはPHS接続ケーブルが必要です。

USBコネクタに接続する

接続する前に

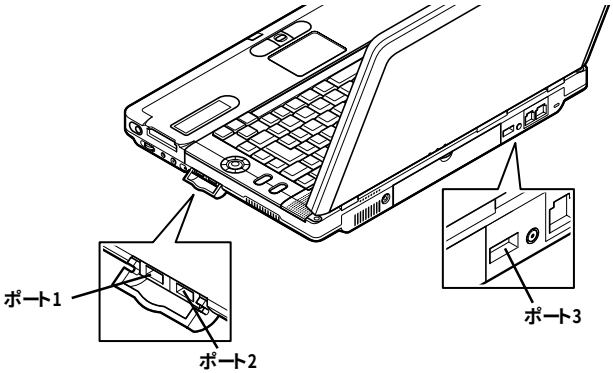
機器によっては、接続する前や接続したあとに、ドライバのインストールや各種スイッチなどの設定が必要な場合がありますので、接続するUSB対応機器のマニュアルを読んで、接続する前に設定が必要な場合は、設定をしてください。また、ドライバなどインストールに必要なCD-ROMやフロッピーディスクが添付されていれば用意しておいてください。

メモ

- USB対応機器は、パソコンの電源を入れたままの状態でも接続できますので、接続前に電源を切る必要はありません。
- 別売のUSBマウスなどで、接続してすぐ使うことができるものがあります。ただし、いくつかの機能が制限される可能性がありますので、必ず添付のマニュアルをよく読んでください。

このパソコンのUSBコネクタ

このパソコンには、USBコネクタが3つあります。



ポート2（パソコン右側奥）およびポート3（パソコン背面）のUSBコネクタを使うと、USB対応のターミナルアダプタなどを使ってスタンバイ状態から復帰することなどもできます。なお、スタンバイ状態から復帰するためにはUSBの設定が必要です。設定方法について詳しくは、「スタート」ボタン→「NEC電子マニュアル」→「追加情報」をご覧ください。

メモ

この機能を使用すると、「SmartWakeup!サービス」を利用して自宅のパソコンを遠隔起動することができます。
「SmartVisionTV録画予約サービス」と組み合わせると、外出先からTVの録画予約などもできるようになります。

参照

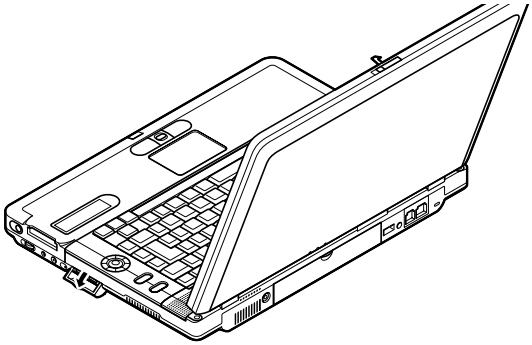
- SmartWakeup!のインストール方法→「サポートセンタ」-「アプリケーションの追加と削除」
- SmartVisionTV録画予約サービス、SmartWakeup!サービスについて詳しくは→『TVモデルガイド』PART3の「外出先から録画予約しよう」

USB対応機器を接続するときの注意

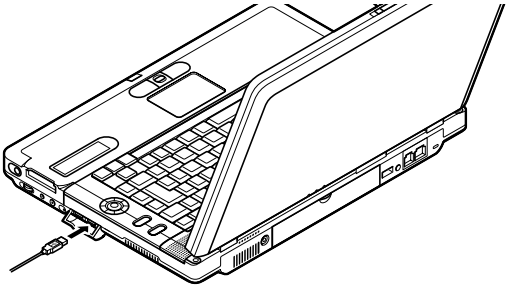
- コントロールパネルの「システム」アイコンをダブルクリックすると表示される「デバイスマネージャ」の画面にある「ユニバーサルシリアルバスコントローラ」または「Universal Serial Bus Controller」の記述は削除しないでください。
- USB対応機器の抜き差しを行う場合は、3秒以上の間隔をおいて行ってください。
- USBコネクタにプラグをすばやく差したり斜めに差したりすると、信号が読みとれずに不明なデバイスとして認識されることがありますので、その場合はプラグをUSBコネクタから抜いて、もう一度正しく接続し直してください。
- はじめてUSB対応機器を接続したときに、画面に何も表示されない場合は、USBコネクタにプラグを正しく差し込めていない可能性があります。いったんプラグを抜き、もう一度差し込んでみてください。
  なお、USB対応機器は一度設定をすれば、次回からはプラグを差し込むだけで、すぐに機器が使用可能になります。このとき画面には何も表示されませんが、故障ではありません。
- スタンバイ状態中、スタンバイ状態へ移行中、スタンバイ状態から復帰中、休止状態中、休止状態へ移行中、休止状態から復帰中の場合は、USBコネクタにプラグを抜き差ししないでください。
- USBハブ経由でUSB対応機器を使用する場合は、USBハブをパソコンに接続してからUSB対応機器を接続するようにしてください。USBハブにUSB対応機器を接続した状態でUSBハブをパソコンに接続すると、USB対応機器が正常に認識されないことがあります。

USBコネクタにプラグを差し込む

1 コネクタのカバーを開ける



2 パソコン本体のUSBコネクタにプラグを差し込む
プラグは本体のどのUSBコネクタに接続してもかまいません。



3 接続したUSB対応機器がパソコンに正しく認識されたかどうかを確認する
確認する方法は、機器の種類によって異なります。機器によっては、接続後さらに別の設定作業が必要になる場合があります。詳しくは、各USB対応機器に添付のマニュアルなどをご覧ください。

メモ

別売のUSBマウスを接続したときに、NXパッドでの操作を無効に設定しておくことができます。無効に設定しておくことにより、NXパッドでの誤操作を防ぐことができます。USBマウスを接続したときにNXパッドを無効にするには、BIOSセットアップメニューの「拡張設定」メニューで「NXパッド」を「使用しない」に設定してください。(→p.236)

USBコネクタから機器を取り外す

USB対応機器は、パソコンの電源を入れたままでも取り外すことができます。

チェック

USB対応機器によっては、機器を接続するとインジケータ領域(タスクトレイ)に が表示されます。このような場合は、次の手順で取り外しを行ってください。正しい手順で取り外しを行わないとパソコンが正常に動作しなくなることがあります。

1 インジケータ領域(タスクトレイ)にあるをダブルクリックする
「ハードウェアの取り外し」画面が表示されます。

2 取り外したい機器名をクリックして「停止」ボタンをクリックする
機器名が表示されていない場合は、手順5へ進んでください。

3 「ハードウェア デバイスの停止」画面で取り外したい機器名をクリックして「OK」ボタンをクリックする
安全に取り外すことができるという内容のメッセージが表示されます。

4 「OK」ボタンをクリックする

5 「閉じる」ボタンをクリックして「ハードウェアの取り外し」画面を閉じる

6 取り外す機器のプラグを、本体のUSBコネクタから取り外す

NXパッドとUSBマウスを同時に使用する

NXパッドと別売のUSBマウスを同時に使用する場合は、次の手順にしたがって設定を行ってください。

1 「コントロールパネル」を開き、「システム」アイコンをダブルクリックする

2 「デバイスマネージャ」タブをクリックし、「マウス」の左の⊞をクリックする

3 「NX PAD」をクリックし「プロパティ」ボタンをクリックする
「NX PADのプロパティ」画面が表示されます。

4 「ドライバ」タブをクリックし、「ドライバの更新」ボタンをクリックする
「デバイスドライバの更新ウィザード」画面が表示されます。

5 「ドライバの場所を指定する(詳しい知識のある方向け)」の○をクリックして◉にし、「次へ」ボタンをクリックする

6 「特定の場所にあるすべてのドライバの一覧を表示し、インストールするドライバを選択する」の○をクリックして◉にし、「次へ」ボタンをクリックする

7 「モデル」欄から「標準PS/2ポートマウス」をクリックし、「次へ」ボタンをクリックする

チェック

- 「モデル」欄に「標準PS/2ポートマウス」が表示されていない場合は、「すべてのハードウェアを表示」の○をクリックして◉にして「製造元」欄から「(標準マウス)」を選択し、「モデル」欄から「標準PS/2ポートマウス」を選択してください。
- 「ドライバ更新の警告」画面が表示された場合は、「はい」ボタンをクリックしてください。

8 「次へ」ボタンをクリックする
必要なファイルがコピーされます。

9 「ハードウェアデバイス用に選択したドライバがインストールされました。」と表示されたら、「完了」ボタンをクリックする
「システム設定の変更」画面が表示されます。

チェック
ポインタが動かなくなった場合は、【Enter】を押してください。

10 「はい」ボタンをクリックする
Windowsが再起動します。

再起動後にUSBマウスを接続してください。
以上で設定は終了です。

メモ
別売のUSBマウスを接続したときに、NXパッドでの操作を無効に設定しておくことができます。無効に設定しておくことにより、NXパッドでの誤操作を防ぐことができます。USBマウスを接続したときにNXパッドを無効にするには、BIOSセットアップメニューの「拡張設定」メニューで、「NXパッド」を「使用しない」に設定してください(→p.236)。

USBポートバーを使用してさまざまな周辺機器を使う

USBポートバー(PK-UP012S/PK-UP012NS/PK-UP012US)を使うと、シリアルインターフェイスやパラレルインターフェイスの周辺機器を使うことができます。

シリアルインターフェイスの機器について

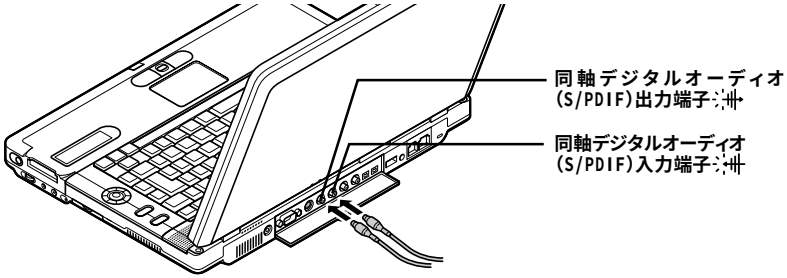
シリアルインターフェイスの機器を接続できるコネクタのことを一般的にシリアルポートと呼びます。
シリアルポートは、Windowsでは、COM1やCOM2などと呼びます。
シリアルポートには、外付けモデムやターミナルアダプタなどを接続することができます。
また、ほかのパソコンとケーブルで接続してデータ転送することもできます。

パラレルインターフェイスの機器について

パラレルインターフェイスの機器を接続できるコネクタのことを一般的にパラレルポートと呼びます。
パラレルポートは、Windowsでは、プリンタポートやLPT1などと呼びます。
パラレルポートには、おもにプリンタなどを接続することができます。
また、ほかのパソコンとケーブルで接続してデータ転送することもできます。

同軸デジタルオーディオ(S/PDIF)入出力端子

このパソコンの同軸デジタルオーディオ(S/PDIF)入出力端子には、デジタルの入出力を持ったオーディオ機器と接続することができます。

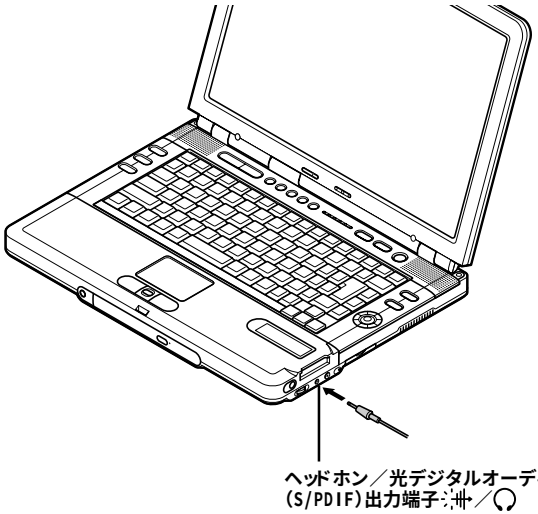


チェック

このパソコンのデジタル出力のサンプリングレートは48KHzです。デジタル入力のあるオーディオ機器を接続する場合、そのオーディオ機器が48KHzのサンプリングレートに対応している必要があります。オーディオ機器のマニュアルやカタログで確認するか、販売店、メーカーにお問い合わせください。

ヘッドホン／光デジタルオーディオ(S/PDIF)出力端子

このパソコンのヘッドホン／光デジタルオーディオ(S/PDIF)出力端子には、デジタル入力を持ったオーディオ機器を接続することができます。



デジタル入力を持ったオーディオ機器を接続する場合、市販の光デジタルケーブルを使用します。パソコン本体側の端子は光ミニ端子です。

チェック

- 機器によっては、デジタル入力端子が光デジタルではない場合があります。このような場合、別途、変換ユニットが必要になる場合があります。
- このパソコンの光デジタル出力のサンプリングレートは48KHzです。デジタル入力のあるオーディオ機器を接続する場合、そのオーディオ機器が48KHzのサンプリングレートに対応している必要があります。オーディオ機器のマニュアルやカタログで確認するか、販売店、メーカーにお問い合わせください。

メモ

ヘッドホン／光デジタルオーディオ(S/PDIF)出力端子には、通常のヘッドホンやオーディオ機器も接続することができます。

マルチベイ

ご購入時、マルチベイにはTVチューナパックが接続されています。そのほかに、付属のフロッピーディスクドライブを接続することができます。

参照

フロッピーディスクドライブの接続→PART1の「フロッピーディスクドライブ」の「フロッピーディスクドライブの取り付けかた」(p.48)

PART

5

BIOSセットアップメニュー

セキュリティや周辺機器など、パソコンの使用環境の設定について説明します。設定方法を間違えると正しく動作しなくなってしまうので、十分注意してください。また、必要がある場合以外は設定値を変更しないでください。

BIOSセットアップメニュー

BIOSセットアップメニューを使ってできること

BIOSセットアップメニューは、パソコンの使用環境を設定するためのものです。
BIOSセットアップメニューを使うと、次のような設定ができます。

- 現在の日付と時間の設定
- ハードウェア環境の確認と変更
- 起動デバイスの起動順位の設定
- セキュリティの設定
- 省電力の設定

BIOSセットアップメニューを使う

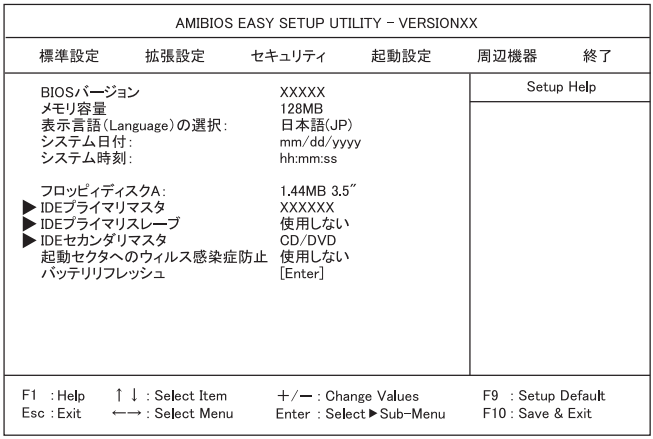
BIOSセットアップメニューの起動とメイン画面

1 電源を入れて、「NEC」のロゴが表示されたらすぐに【F2】を押し続ける

チェック

BIOSセットアップメニューが表示されない場合は、いったん電源を切り、【F2】を押しながら電源を入れ直してください。

次のようなメイン画面が表示されます。画面上では「AMIBIOS EASY SETUP UTILITY-VERSION x.xx」と表示されます。



BIOSセットアップメニューの基本操作

- 操作はキーボードで行います。
- 【↑】【↓】で設定項目を選びます。
- 設定内容の値は【PgUp】【PgDn】で変更します。
- 各設定項目の画面からメイン画面に戻る場合は【Esc】を押します。

BIOSセットアップメニューを終了する

変更を保存して終了する

1 メイン画面で【F10】を押す
確認の画面が表示されます。

2 【Enter】を押す
設定値が保存され、BIOSセットアップメニューが終了します。

メモ

「終了」メニューで「変更を保存して終了」を選んで、BIOSセットアップメニューを終了することもできます。

変更を保存せずに（起動前の設定のまま）終了する

1 メイン画面で【Esc】を押す

2 【Enter】を押す
起動する前の設定のままBIOSセットアップメニューが終了します。設定の変更を行った場合も、すべて無効にして終了します。

メモ

「終了」メニューで「変更を保存せずに終了」を選んで、BIOSセットアップメニューを終了することもできます。

購入時の値に戻す

1 「終了」メニューで【↑】【↓】を使って「デフォルト値をロード」にカーソルを合わせる

2 【Enter】を押す
確認の画面が表示されます。

3 【Enter】を押す

設定項目一覧

ここでは、BIOSセットアップメニューでどのような設定ができるかを説明しています。
表中の反転部分は、購入時の設定です。

「標準設定」メニュー

「IDEプライマリマスタ」の設定を変更すると、内蔵ハードディスクが動作しなくなる場合があるので、通常は初期設定のまま使用してください。

設定項目	設定値	説　明
BIOSバージョン	−	本機のメモリ容量が自動計算されます。
メモリ容量	−	BIOSのバージョンを表示します。
表示言語（Language）の選択	English **Japanese** French	標準では日本語に設定されています。
システムの日付（月／日／年）	−	日付を「月／日／年」（西暦）で設定します。
システムの時刻	−	現在の時刻を「時：分：秒」（24時間形式）で設定します。
フロッピィディスクA	使用しない **1.44MB 3.5"**	「使用しない」の場合、フロッピーディスクドライブ（FDD）が接続されていても使用することができません。 「1.44MB 3.5"」の場合、接続されているFDDが使用できます。

設定項目		設定値	説　明
IDEプライマリマスタ IDEプライマリスレーブ IDEセカンダリマスタ			現在接続されているIDEデバイスの設定をします。 設定したい項目を選んで【Enter】を押すと、下記のサブメニューが表示されます。
	種類	ユーザ設定 **自動** CD/DVD 使用しない	「自動」に設定するとBIOSが自動的にシリンダ、ヘッド、セクタを設定します。「ユーザ設定」にするとユーザによる指定ができます。
	Cylinders※1	0-65535	シリンダ数を設定します。
	Heads※1	0-255	ヘッド数を設定します。
	Write Precompensation※1	0-65535	ヘッド待避シリンダ番号を設定します。
	Sectars※1	0-255	セクタ数を設定します。
	Maximum Capacity	―	接続されているIDEデバイスの最大容量を表示します。
	LBA Mode※2	**オン** オフ	LBAモードを使用するかどうかを指定します。
	Block Mode※2	**オン** オフ	マルチセクタ転送モードを使用するかどうかを設定します。
	Fast Program I/O Modes※2	**自動** 0-4	CPUが直接I/Oポートとアクセスして IDEとのデータのやりとりをするときのデータ転送モードを設定できます。
	32bit Transfer Mode	**オン** オフ	32ビットIDEデータ転送を使用するかどうかを設定できます。
起動セクタへのウイルス感染防止		使用する **使用しない**	ウイルス感染防止のため、ハードディスク起動セクタを書き込み禁止にするかどうかを設定します。 「使用する」に設定すると書き込み禁止になります。

※1：「Type」を「ユーザ設定」に設定したときのみ指定可
※2：「Type」を「ユーザ設定」「CD/DVD」に設定したときのみ指定可

バッテリリフレッシュ

バッテリリフレッシュを行います。

参照
バッテリリフレッシュ→PART1の「バッテリリフレッシュ」(p.74)

「拡張設定」メニュー

設定項目	設定値	説　明
ビデオ出力方式	**NTSC** PAL	使用している国、地域でのビデオ出力方式を設定します（日本／アメリカでは「NTSC」、ヨーロッパでは「PAL」）。
LCDパネル拡大表示	**オン** オフ	LCDパネルの拡大表示を行うかどうかを設定します。
NXパッド	**使用する** 使用しない	外付けマウスを接続したときに、内蔵のNXパッドを使用するかを設定します。
Intel(R) SpeedStep(TM) テクノロジの設定※1	**自動** バッテリ最適化 使用しない	「自動」に設定すると、AC電源でコンピュータを使用している場合、自動的に最高性能で動作します。 「バッテリ最適化」に設定すると、常にバッテリ最適化で動作します。 「使用しない」に設定すると、Intel®SpeedStep™テクノロジが使えなくなります。

※1：LT900、LT700、LG10JE、LG80JEのみ本設定が表示されます。

「セキュリティ」メニュー

◆ スーパバイザパスワード

スーパバイザパスワードの設定または変更を行います。
【Enter】を押すとパスワードの設定画面が表示されるので設定を行ってください。

参照
パスワードの設定→PART1の「セキュリティ機能」(p.90)

◆ ユーザパスワード

ユーザパスワードの設定または変更を行います。
ユーザパスワードは、スーパバイザパスワードを設定していないと設定できません。
【Enter】を押すとパスワードの設定画面が表示されるので設定を行ってください。

参照
パスワードの設定→PART1の「セキュリティ機能」(p.90)

◆ パスワード

「セキュリティモード」で「パスワード」を選ぶと設定できるようになります。
パスワードの設定のしかた→PART1の「セキュリティ機能」(p.90)

設定項目	設定値	説　明
起動時のパスワード	**はい** いいえ	システム起動時にパスワード入力を行うかどうかを設定します。
レジューム時のパスワード	**はい** いいえ	レジューム時にパスワード入力を行うかどうかを設定します。

「起動設定」メニュー

設定項目	設定値	説　明
クイックブート	使用する 使用しない	「使用する」にすると、BIOSによるシステムの診断を一部スキップし、起動時間を短縮します。
ロゴ表示※	使用する スキップ 使用しない	起動時の表示画面を設定します。
起動時表示デバイス	同時表示 LCD表示 CRT表示	起動時に表示するディスプレイを設定します。
起動時Numロック	オフ オン	起動時に【Num Lock】をロックするかを設定します。
第一起動デバイス	使用しない IDE HDD フロッピィ CD/DVD ネットワーク	一番最初に起動するドライブを設定します。
第二起動デバイス	使用しない IDE HDD フロッピィ CD/DVD	二番目に起動するドライブを設定します。
第三起動デバイス	使用しない IDE HDD フロッピィ CD/DVD	三番目に起動するドライブを設定します。
その他のデバイスからの起動	はい いいえ	設定したすべてのデバイスで起動に失敗したとき、その他のデバイスから起動します。

※：「スキップ」または「使用しない」に設定したときに、BIOSセットアップメニューを起動する場合は、電源を入れた後に【F2】を押しつづけてください。

「周辺機器」メニュー

周辺機器に関する設定をします。

設定項目	設定値	説　明
内蔵ハードディスク	使用する 使用しない	内蔵ハードディスクを使用するかを設定します。
ワイヤレスデバイス	使用する 使用しない	ワイヤレスデバイスを使用するかを設定します。

PART

6

付録

ここでは、このパソコンの機能に関連した補足情報を説明しています。

パソコンのお手入れ

用意するもの

● 汚れが軽いとき
やわらかい素材の乾いたきれいな布

● 汚れがひどいとき
水かぬるま湯を含ませ堅くしぼったきれいな布

メモ

OA機器用クリーニングキットも汚れを拭き取るのに便利です。OA機器用クリーニングキットについてはご購入元、NECフィールディングの各支店、営業所などにお問い合わせください。

参照

NECのお問い合わせ先→『121wareガイドブック』または「サポートセンタ」-「NECのサービス&サポート」

パソコンのお手入れをはじめる前に

⚠注意

感電注意

●お手入れの前には、必ず本機や本機の周辺機器の電源を切り、電源コードをACコンセントから抜いてください。

●電源を切らずにお手入れをはじめると、感電することがあります。

パソコンのお手入れをする場合は、次のことに注意してください。

- 水やぬるま湯は、絶対にパソコンに直接かけないでください。パソコンの傷みや故障の原因になります。
- シンナーやベンジンなどの揮発性の有機溶剤や化学ぞうきんなどは使わないでください。パソコンの傷みや故障の原因になります。

お手入れのしかた

● **液晶ディスプレイ**

やわらかい素材の乾いたきれいな布で拭いてください。水やぬるま湯、揮発性の有機溶剤、化学ぞうきんは使わないでください。

● **本体／NXパッド／キーボード／ジョグホイール／リモコン**

やわらかい素材の乾いたきれいな布で拭いてください。汚れがひどいときは、水かぬるま湯を布に含ませ、堅くしぼったきれいな布で拭いてください。
キーボードのキーのすきまにゴミが入ったときは、専用のクリーナーなどでゴミをとってください。ゴミがとれないときは、ご購入元、NECフィールディングの各支店、営業所などに問い合わせてください。

参照
NECのお問い合わせ先→『121wareガイドブック』または「サポートセンタ」-「NECのサービス&サポート」

● **フロッピーディスクドライブ**

クリーニングディスク（別売）を使ってフロッピーディスクドライブをクリーニングします。ひと月に一回を目安にクリーニングしてください。

● **電源コード**

電源コードのプラグを長時間にわたってACコンセントに接続したままにしていると、プラグにほこりがたまることがあります。定期的にほこりを拭き取るようにしてください。

Windows 2000 Professionalを使う

Windows 2000 Professionalを使うための手順

チェック

このパソコンにインストールされているソフトウェア、および添付のソフトウェアはWindows 2000 Professionalでは使用できません。

このパソコンで別売のWindows 2000 Professionalを使う場合の手順については、添付の「アプリケーションCD-ROM Vol.2」をCD-R/RW with DVD-ROMドライブにセットして下記のファイルをご覧ください。

● セットアップ手順

E:¥Win2K¥Setup.txt

● セットアップ時の注意事項

E:¥Win2K¥Readme.txt

メモ

EはCD-R/RW with DVD-ROMドライブのドライブを表しています。実際と異なる場合は読み替えてください。

チェック

- セットアップ中、ファイルを見ることができなくなる場合がありますので、あらかじめファイルを印刷してご利用になることをおすすめします。
- ワイヤレスLANモデルのワイヤレスLAN機能をWindows 2000 Professionalで使用する場合は、『ワイヤレスLAN（無線LAN）について』のPART6の「Windows 2000で使用する」をご覧になり、ドライバをインストールしてください。
- 「メモリースティック」や「SDメモリーカード」は、Windows 2000 Professionalでは使用できません。

機能一覧

本体

型　名			LT900/0D	LT700/0D	LT500/0D
型　番			PC-LT9000D	PC-LT7000D	PC-LT5000D
CPU			モバイル インテル® Pentium® III プロセッサ1GHz（インテル® SpeedStep™ テクノロジ搭載）	モバイル インテル®Pentium® III プロセッサ800GHz（インテル® SpeedStep™ テクノロジ搭載）	モバイル インテル® Celeron™ プロセッサ 700MHz
内蔵キャッシュメモリ			32Kバイト		
セカンドキャッシュメモリ			256Kバイト（CPU内蔵）		128Kバイト（CPU内蔵）
メモリ	ROM		512Kバイト（BIOSほか）		
	メインRAM		標準256Mバイト（システムバス100MHz対応）	標準128Mバイト（システムバス100MHz対応）	
		最大	512Mバイト（別売の増設RAMボード（256Mバイト）を2枚増設した場合）		
	ビデオRAM		8Mバイト（Video Chip内蔵）		
表示機能	表示素子※1		バックライト付15.3型 TFTカラー液晶ディスプレイ（WXGA）		
	グラフィックアクセラレータ		ATI MOBILITY™ RADEON™-M標準搭載（ビデオアクセラレーション機能対応）		
			640×480ドット（26万色中256色／65536色／1677万色） 800×600ドット（26万色中256色／65536色／1677万色） 1024×768ドット（26万色中256色／65536色／1677万色） 1280×1024ドット（26万色中256色／65536色／1677万色）※2 1600×1200ドット（26万色中256色／65536色／1677万色）※2		
	別売のCRTディスプレイ接続時		640×480ドット（26万色中256色／65536色／1677万色） 800×600ドット（26万色中256色／65536色／1677万色） 1024×768ドット（26万色中256色／65536色／1677万色） 1280×768ドット（26万色中256色／65536色／1677万色） 1280×1024ドット（26万色中256色／65536色／1677万色） 1600×1200ドット（26万色中256色／65536色／1677万色）		
サウンド機能	サウンドチップ		YAMAHA社製 YMF754R搭載		
	PCM録音・再生機能		内蔵（ステレオ、量子化8ビット/16ビット、サンプリングレート8KHz/11.025KHz/16KHz/22.05KHz/44.1KHz/48KHz）、全二重化対応		
	MIDI音源機能		内蔵（拡張WAVE Table音源[WAVE Table音源最大128音]）		
	内蔵スピーカ		2スピーカ（ステレオ）		
	外付スピーカ		外付けサラウンドスピーカシステム		
	サラウンド		ステレオ機能、3Dポジショナルサウンド		
	DolbyHeadphone機能		サポート		

型　名		LT900/0D	LT700/0D	LT500/0D
型　番		PC-LT9000D	PC-LT7000D	PC-LT5000D
映像関係機能	TVチューナ	音声多重対応、受信チャネル：VHF（1～12ch） UHF（13～62ch）		
	データ放送受信	地上波データ放送（bitcast、ADAMS）文字多重放送、字幕放送		
	映像合成表示	DirectShow®により任意のサイズで合成表示可能 （全画面表示可能）、ただし、画面縦横比3：4固定		
	テレビ録画機能	MPEG2で録画可能。（ビットキャストブラウザはMPEG1で録画可能）		
通信機能	モデム	モデム内蔵（データ転送速度　最大56kbps（V.90）エラー訂正V.42/MNP4　データ圧縮V.42bis/MNP5）		
	FAX	内蔵（データ転送速度　最大14.4Kbps（V.17）FAX制御クラス1）		
	LAN	LAN内蔵（100BASE-TX、10BASE-T）		
入力装置	キーボード	本体との一体型、JIS標準配列（英数・かな）、Fnキー（ホットキー対応）、12ファンクションキー・Windowsキー・アプリケーションキー・Num Lockキー・右Altキー・右Ctrlキー付		
	ポインティングデバイス	NXパッド標準装備（スクロールスライドスイッチ付）、ジョグホイール		
	スイッチ／ボタン（光ナビゲーション機能搭載）	電源スイッチ、ワンタッチスタートボタン、オーディオ電源スイッチ、TVボタン		
	スイッチ／ボタン	CD/DVDプレーヤボタン、メニューボタン、画面分割ボタン、全画面ボタン、ヘルプボタン		
	リモコン	添付		
補助記憶装置	フロッピーディスクドライブ	3.5型フロッピーディスクドライブ×1添付（720K/1.2M※3/1.44Mバイトタイプの3モードに対応）		
	固定ディスクドライブ※4	約30Gバイト（内蔵）※11		
	セカンドハードディスクドライブ※5	約30Gバイト	なし	
	CD-R/RW with DVD-ROMドライブ	CD-R/RW with DVD-ROMドライブ（内蔵） 読み込み最大24倍速（CD-ROM）/6倍速（DVD-ROM）、 書き込み最大4倍速、書き換え最大4倍速		
インターフェイス		ディスプレイ（アナログRGBセパレート信号出力、ミニD-SUB15ピン）、USB×3、ビデオ出力（S-Video×1）（RCA×1付属のビデオ変換ケーブルで使用。S-Videoと排他利用）、IEEE1394（4ピン）×2		
	サウンド関連	同軸デジタルオーディオ（S/PDIF）入力（RCAピンジャック）、同軸デジタルオーディオ（S/PDIF）出力（RCAピンジャック）、ヘッドホン／光デジタルオーディオ（S/PDIF）出力共用（ステレオ、ミニジャック／光ミニジャック）、ライン出力（R）（RCAピンジャック）、ライン出力（L）（RCAピンジャック） マイク入力（モノラル、ミニジャック）、 ライン入力インピーダンス10kΩ　入力レベル1Vrms（TVチューナパック接続時の仕様）、 マイク入力インピーダンス2.2kΩ　入力レベル5mVrms（バイアス2.5V）、 ライン出力レベル1Vrms		
	映像関連	同軸TVチューナパック側端子：ビデオ入力（コンポジット）、ライン入力（RCAジャック）×2（LおよびR）（TVチューナパック接続時の仕様）、アンテナ入力（U/V混合）、75Ω、同軸F型）		

型　名	LT900/0D	LT700/0D	LT500/0D
型　番	PC-LT9000D	PC-LT7000D	PC-LT5000D
PCカードスロット	TYPE　II×2スロット（TYPE　III×1スロットとしても使用可） PC Card Standard準拠、CardBus対応		
メディア用ポケット	「メモリースティック」用のマジックゲート　メモリースティック　アダプタおよび「SDメモリーカード」用のSDメモリーカードアダプタ添付 インナーシートホルダー内蔵	インナーシートホルダー内蔵	
パワーマネージメント	自動または任意設定可能		
セキュリティ機能	ユーザパスワード機能、スーパバイザパスワード機能、盗難防止ロック（別売の盗難防止用ケーブルを使用）		
バッテリ駆動時間※6	約1.3～1.8時間※7	約1.3～1.8時間	
バッテリ充電時間（オン／オフ時）※6	約3.5／2.9時間※7	約3.5／2.9時間	
バッテリによるスタンバイ状態保持時間※6	約1.5日（バッテリフル充電時）※7	約1.5日（バッテリフル充電時）	
電源	AC100V±10%、50/60Hz（ACアダプタ経由※9）	リチウムイオンバッテリ（DC11.1V、3,600mAh）※8または AC100V±10%、50/60Hz（ACアダプタ経由※9）	
消費電力	約29W（内蔵オプション最大接続時　約60W）		
温湿度条件	5～35℃、20～80%※10（ただし、結露しないこと）		
外形寸法	365（W）×250（D）×49（H）mm（突起部含まず）		
質量※6	約4.1kg（セカンドハードディスクドライブ搭載時）	約4.2kg（バッテリパック搭載時）	

※ 1：液晶ディスプレイは消耗品です。液晶ディスプレイでは、明るさのムラや、微細な斑点が現れることがありますが、故障ではありません。また、輝度の調節具合、表示モードと表示データの組み合わせによってはムラやちらつき、微細な斑点が現れることがありますが、故障ではありません。
※ 2：バーチャルスクリーン表示。
※ 3：3モード対応フロッピーディスクドライバのセットアップが必要です。
※ 4：固定ディスク容量は、1Gバイトを10億バイトで計算した場合の数値です。OSから認識できる容量は、実際の値より少なく表示されることがあります。
※ 5：LT900Dのみ。
※ 6：時間や質量は、ご利用状況やオプションの接続により変わる場合があります。
※ 7：オプションのバッテリパック（リチウムイオン）（PC-VP-WP32）を使用した場合。
※ 8：バッテリパックは消耗品です。
※ 9：ACアダプタ自体は、入力電圧AC240Vまでの安全認定を取得していますが、添付の電源コードはAC100V用（日本仕様）です。
※10：18～25℃、45～75%での使用を推奨。
※11：Windowsのシステムからは27.9Gバイトと認識されます。

LaVie Gシリーズ

**　　の項目の仕様は、ご使用のモデルによって異なります。**

型　名			LG10JE/8	LG80JE/8
型　番			PC-LG10JEW58	PC-LG80JEW58
CPU			モバイル インテル® Pentium® IIIプロセッサ1GHz（インテル® SpeedStep™ テクノロジ搭載）	モバイル インテル® Pentium® IIIプロセッサ800MHz（インテル® SpeedStep™ テクノロジ搭載）
内蔵キャッシュメモリ			32Kバイト	
セカンドキャッシュメモリ			256Kバイト（CPU内蔵）	
メモリ	ROM		512Kバイト（BIOSほか）	
	メインRAM		128Mバイト/256Mバイト（システムバス100MHz対応）	
		最大	512Mバイト（別売の増設RAMボード（256Mバイト）を2枚増設した場合）	
	ビデオRAM		8Mバイト（Video Chip内蔵）	
表示機能	表示素子※1		バックライト付15.3型TFTカラー液晶ディスプレイ（WXGA）	
	グラフィックアクセラレータ		ATI MOBILITY™ RADEON™-M標準搭載（ビデオアクセラレーション機能対応）	
			640×480ドット（26万色中256色／65536色／1677万色） 800×600ドット（26万色中256色／65536色／1677万色） 1024×768ドット（26万色中256色／65536色／1677万色） 1280×768ドット（26万色中256色／65536色／1677万色） 1280×1024ドット（26万色中256色／65536色／1677万色）※2 1600×1200ドット（26万色中256色／65536色／1677万色）※2	
	別売のCRTディスプレイ接続時		640×480ドット（26万色中256色／65536色／1677万色） 800×600ドット（26万色中256色／65536色／1677万色） 1024×768ドット（26万色中256色／65536色／1677万色） 1280×1024ドット（26万色中256色／65536色／1677万色） 1600×1200ドット（26万色中256色／65536色／1677万色）	
サウンド機能	サウンドチップ		YAMAHA社製　YMF754R搭載	
	PCM録音・再生機能		内蔵（ステレオ、量子化8ビット/16ビット、サンプリングレート8KHz/11.025KHz/16KHz/22.05KHz/44.1KHz/48KHz）、全二重化対応	
	MIDI音源機能		内蔵（拡張WAVE Table音源[WAVE Table音源最大128音]）	
	内蔵スピーカ		2スピーカ（ステレオ）	
	外付けスピーカ		外付けサラウンドスピーカシステム	
	サラウンド		ステレオ機能、3Dポジショナルサウンド	
	DolbyHeadphone機能		サポート	
映像関係機能	TVチューナ		音声多重対応、受信チャネル：VHF（1～12ch） UHF（13～62ch）	
	データ放送受信		地上波データ放送（bitcast、ADAMS）文字多重放送、字幕放送	
	映像合成表示		DirectShow®により任意のサイズで合成表示可能 （全画面表示可能）、ただし、画面縦横比3:4固定	
	テレビ録画機能		MPEG2で録画可能。（ビットキャストブラウザはMPEG1で録画可能）	

型　名		LG10JE/8	LG80JE/8
型　番		PC-LG10JEW58	PC-LG80JEW58
通信機能	モデム	モデム内蔵（データ転送速度　最大56kbps（V.90）エラー訂正V.42/MNP4　データ圧縮V.42bis/MNP5）	
	携帯電話/PHS接続ケーブル	なし／ケーブル添付 携帯電話：9.6kbpsデータ通信／9.6kbps・28.8kbpsパケット通信（DoPa） cdmaOne：14.4kbpsデータ通信／64kbpsパケット通信（PacketOne） PHS（NTTドコモ／アステル）：32Kデータ通信／64Kデータ通信（PIAFS2.0） PHS（DDIポケット）：32Kデータ通信／64Kデータ通信（PIAFS2.1）	
	FAX	内蔵（データ転送速度　最大14.4Kbps（V.17）FAX制御クラス1）	
	LAN	ワイヤレスLANインターフェイス内蔵／LAN内蔵（100BASE-TX、10BASE-T）／なし	
	Bluetooth™機能	内蔵／なし	
入力装置	キーボード	本体との一体型、JIS標準配列（英数・かな）、Fnキー（ホットキー対応）、12ファンクションキー・Windowsキー・アプリケーションキー・Num Lockキー・右Altキー・右Ctrlキー付	
	ポインティングデバイス	NXパッド標準装備（スクロールスライドスイッチ付）、ジョグホイール	
	スイッチ／ボタン（光ナビゲーション機能搭載）	電源スイッチ、ワンタッチスタートボタン、オーディオ電源スイッチ、TVボタン	
	スイッチ／ボタン	CD/DVD制御ボタン、メニューボタン、画面分割ボタン、全画面ボタン、ヘルプボタン	
	リモコン	添付	
補助記憶装置	フロッピーディスクドライブ	3.5型フロッピーディスクドライブ×1添付（720K/1.2M※3/1.44Mバイトタイプの3モードに対応）	
	固定ディスクドライブ※4	内蔵（約30Gバイト／約20Gバイト）※9	
	セカンドハードディスクドライブ	なし／約30Gバイト	
	CD-R/RW with DVD-ROMドライブ	CD-R/RW with DVD-ROMドライブ（内蔵） 読み込み最大24倍速（CD-ROM）/6倍速（DVD-ROM）、 書き込み最大4倍速、書き換え最大4倍速	
インターフェイス		ディスプレイ（アナログRGBセパレート信号出力、ミニD-SUB15ピン）、USB×3、ビデオ出力（S-Video×1）（RCA×1付属のビデオ変換ケーブルで使用。S-Videoと排他使用）、IEEE1394（4ピン）×2	
	サウンド関連	同軸デジタルオーディオ（S/PDIF）入力（RCAピンジャック）、同軸デジタルオーディオ（S/PDIF）出力（RCAピンジャック）、ヘッドホン／光デジタルオーディオ（S/PDIF）出力共用（ステレオ、ミニジャック／光ミニジャック）、ライン出力（R）（RCAピンジャック）、ライン出力（L）（RCAピンジャック） マイク入力（モノラル、ミニジャック）、 ライン入力インピーダンス10kΩ　入力レベル1Vrms（TVチューナパック接続時の仕様）、 マイク入力インピーダンス2.2kΩ　入力レベル5mVrms（バイアス2.5V）、 ライン出力レベル1Vrms	
	映像関連	同軸TVチューナパック側端子：ビデオ入力（コンポジット）、ライン入力（RCAジャック）×2（LおよびR）（TVチューナパック接続時の仕様）、アンテナ入力（U/V混合）、75Ω、同軸F型）	
PCカードスロット		TYPE Ⅱ×2スロット（TYPE Ⅲ×1スロットとしても使用可） PC Card Standard準拠、CardBus対応	

型　名	LG10JE/8	LG80JE/8
型　番	PC-LG10JEW58	PC-LG80JEW58
メディア用ポケット	「メモリースティック」用のマジックゲート　メモリースティック　アダプタ、「SDメモリーカード」用のメモリーカードアダプタを選択可能	
パワーマネージメント	自動または任意設定可能	
セキュリティ機能	ユーザパスワード機能、スーパバイザパスワード機能、盗難防止ロック（別売の盗難防止用ケーブルを使用）	
バッテリ駆動時間※5	約1.3〜1.8時間	
バッテリ充電時間（オン／オフ時）※5	約3.5／2.9時間	
バッテリによるスタンバイ状態保持時間※5	約1.5日（バッテリフル充電時）	
電源	リチウムイオンバッテリ（DC11.1V、3,600mAh）※6またはAC100V±10%、50/60Hz（ACアダプタ経由※7）	
消費電力	約29W（内蔵オプション最大接続時　約60W）	
温湿度条件	5〜35℃、20〜80%※8（ただし、結露しないこと）	
外形寸法	365（W）×250（D）×49（H）mm（突起部含まず）	
質量※5	約4.1kg（セカンドハードディスクドライブ搭載時）／約4.2kg（バッテリパック搭載時）	

※1：液晶ディスプレイは消耗品です。液晶ディスプレイでは、明るさのムラや、微細な斑点が現れることがありますが、故障ではありません。また、輝度の調節具合、表示モードと表示データの組み合わせによってはムラやちらつき、微細な斑点が現れることがありますが、故障ではありません。
※2：バーチャルスクリーン表示。
※3：3モード対応フロッピーディスクドライバのセットアップが必要です。
※4：固定ディスク容量は、1Gバイトを10億バイトで計算した場合の数値です。OSから認識できる容量は、実際の値より少なく表示されることがあります。
※5：時間や質量は、ご利用状況やオプションの接続により変わる場合があります。
※6：バッテリパックは消耗品です。
※7：ACアダプタ自体は、入力電圧AC240Vまでの安全認定を取得していますが、添付の電源コードはAC100V用（日本仕様）です。
※8：18〜25℃、45〜75%での使用を推奨。
※9：Windowsのシステムからは30Gバイトのモデルの場合約27.9Gバイト、20Gバイトのモデルの場合、約18.5Gバイトと認識されます。

内蔵FAXモデム

機能概要

項　目	規　格
CPU I/F	PCIローカルバスインターフェイス
NCU部	・ダイヤルパルス送出機能 ・リンガ検出機能
モデムチップセット部	・115.2Kbpsまでのデータ・モデム・スループット V.90 V.34 V.32bis V.32、V.22bis、V.22、V.21 V.42LAPMおよびMNP2-4エラー訂正 V.42bisおよびMNP5データ圧縮 ・最高14.4Kbpsのファックス・モデム送受信速度 V.17、V.29、V.27ter、V.21チャンネル2 ・HayesATコマンドセット準拠 ATコマンド Sレジスタ ・回線品質モニタリングおよびオートリトレイン ・受信ライン信号品質に基づく自動ライン・スピード選択 ・フロー制御およびスピード・バッファリング ・パラレル非同期データ ・自動ダイヤルおよび自動アンサー ・トーンおよびパルスダイヤリング （DTMFトーン、ダイヤルパルス制御）

FAX機能

項　目	規　格
交信可能ファクシミリ装置	ITU-T G3ファクシミリ装置
適用回線	加入電話回線
同期方式	半二重調歩同期方式
通信速度	14400/12000/9600/7200/4800/2400/300bps※
通信方式	ITU-T V.17/V.29/V.27ter/V.21ch2
変調方式	TCM:14400/12000
	QAM:9600/7200bps
	DPSK:4800/2400bps
	FSK:300bps
送信レベル	-9～-15dBm（出荷時-15dBm）
受信レベル	-10～-40dBm
制御コマンド	EIA-578拡張ATコマンド（CLASS 1）

※回線状態によって通信速度が変わる場合があります。

データモデム機能

項　目	規　格
適用回線	加入電話回線
同期方式	全二重調歩同期方式
通信速度	送受信　33600/31200/28800/26400/24000/21600/19200/16800/14400/12000/9600/7200/4800/2400/1200/300bps※1
	受信　56000/54666/52000/50666/50000/49333/48000/46666/45333/44000/42666/42000/41333/40000/38666/37333/36000/34666/33333/32000/30667/29333/28000bps※1
通信規格	K56flex ITU-T V.90/V.34/V.32bis/V.32/V.22bis/V.22/V.21
変調方式	PCM：56000/54667/52000/50677/49333/46667/45333/42666/41333/40000/38667/37333/36000/34667/33333/32000/30667/29333/28000 TCM：48000/33600/31200/28800/26400/24000/21600/19200/16800/14400/12000/9600/7200/4800/2400bps QAM：9600/4800/2400/1200bps DPSK：1200bps FSK：1200/300bps
エラー訂正	ITU-T V.42(LAPM)
	MNP class4
データ圧縮	ITU-T V.42bis
	MNP class5
送信レベル	-9～-15dBm（出荷時-15dBm）
受信レベル	-10～-40dBm
制御コマンド	HayesATコマンド準拠※2

※1：回線状態によって、通信速度が変わる場合があります。

※2：ATコマンドについては、「サポートセンタ」-「ハードウェア情報」-「ATコマンド一覧」をご覧ください。

NCU機能

項　目	規　格
適用回線	加入電話回線
ダイヤル形式	パルスダイヤル（10/20PPS）
	トーンダイヤル（DTMF）
NCU形式	AA（自動発信/自動着信型）
制御コマンド	HayesATコマンド準拠
	EIA-578拡張ATコマンドAT（class 1）

内蔵LAN機能

LAN機能は、LAN内蔵モデルのみの機能です。

項　目	規 格 概 要
準拠規格	ISO 8802-3、IEEE802.3、IEEE802.3u
ネットワーク形態	スター型ネットワーク
伝送速度	100BASE-TX使用時：100Mbps
	10BASE-T使用時：10Mbps
伝送路	100BASE-TX使用時：UTPカテゴリ5
	10BASE-T使用時：UTPカテゴリ3、4、5
信号伝送方式	ベースバンド伝送方式
ステーション台数	最大1024台／ネットワーク
ステーション間距離 ネットワーク経路長※	100BASE-TX：最大約200m／ステーション間 10BASE-T　：最大約500m／ステーション間 最大100m／セグメント
メディアアクセス制御方式	CSMA/CD方式

※：リピータの台数など、条件によって異なります。

携帯電話／PHS接続機能

携帯電話／PHS接続機能は、携帯電話／PHS接続ケーブルが添付の場合、または別売の携帯電話／PHS接続ケーブルを別途購入された場合のみ使用できます。

個別仕様

種　類	項　目	規　格
PHS（NTTドコモ／アステル）接続ケーブル	適用回線	移動電話回線（PHS後位16芯）
	通信速度	PIAFS 32Kデータ通信：29.2Kbps（実効値）
		PIAFS 64Kデータ通信：58.4Kbps（実効値）
PHS（DDIポケット）接続ケーブル	適用回線	移動電話回線（PHS後位12芯）
	通信速度	PIAFS 32Kデータ通信：29.2Kbps（実効値）
		PIAFS 64Kデータ通信：58.4Kbps（実効値）
携帯電話（DoPa/PDC）接続ケーブル	適用回線	移動電話回線（PDC5式携帯電話端末後位16芯）
	通信速度	9.6Kbps（データ通信）9.6Kbps（パケット通信） 28.8Kbps（パケット通信）
cdmaOne接続ケーブル	適用回線	移動電話回線（CDMA方式携帯電話端末後位18芯）
	通信速度	14.4Kbps（データ通信）、64Kbps（パケット通信）

共通仕様

項　目	規　格
制御コマンド	ATコマンド※
網制御機能	A A

※：ATコマンドについては、「サポートセンタ」-「ハードウェア情報」-「ATコマンド一覧」をご覧ください。

割り込みレベルとDMAチャネル

割り込みレベルとDMAチャネルについて

パソコンで使用できる周辺機器は、すべて「リソース」というものを使用しています。リソースには、大きく分けて「割り込みレベル（IRQ）」「DMAチャネル」などがあります。
これらのリソースは、それぞれの機器ごとに違う設定をしなければなりません。1つのリソースが複数の機器に割り当てられている状態（リソースの競合）では、機器が正常に使用できないばかりか、システム全体の動作も不安定になってしまいます。

割り込みレベル

「割り込みレベル（IRQ）」は、複数の機器から同時にCPUにアクセスしたときに、どのような順序で処理していくかを決めるものです。このパソコンでは、購入時には次のように割り当てられています。

IRQ	インターフェイス	IRQ	インターフェイス
0	システムタイマ	9	SCI IRQ
1	キーボード	10	内蔵FAXモデム
2	割り込みコントローラ		CardBusコントローラ
3	アクセラレータ		PCIステアリングホルダー
	PCIステアリングホルダー	11	USBホストコントローラ
4	（空き）		CardBusコントローラ
5	サウンド		PCIステアリングホルダー
	IEEE1394ホストコントローラ	12	NXパッド
	PCIステアリングホルダー	13	数値データプロセッサ
6	フロッピーディスクコントローラ	14	IDEコントローラ（内蔵ハードディスク）
7	（空き）	15	IDEコントローラ（内蔵CD-R/RW with DVD-ROMドライブ）
8	システムクロック		

DMAチャネル

「DMAチャネル」は、CPUを経由せずに周辺機器とメモリとのデータのやり取りを制御する機能のことです。このパソコンでは、購入時には次のように割り当てられています。

DMA	インターフェイス
	デフォルト
#0	（空き）
#1	（空き）
#2	（空き）
#3	フロッピーディスクコントローラ
#4	DMAコントローラ

補足情報

サウンド機能について

音楽CDを利用する

● 音楽CDを再生する

Windows Meでは、Windows Media Playerを使って音楽CDを再生することができます。また、Windows Media Playerには、インターネットでCDのデータの検索をしたり、音楽CD再生中に視覚エフェクトを表示させる機能もあります。

参照

音楽CDの再生について→Windows Media Playerのヘルプ

このパソコンでは、音楽CDをデジタルで再生したり、アナログで再生することができます。購入時は、デジタルで再生するように設定されています。

チェック

音楽CDをデジタル再生で再生しているときに、ほかのアプリケーションを使用すると、音楽CDの再生音が音飛びする場合があります。その場合は、ほかのアプリケーションを終了するか、音楽CDの再生方法をデジタル再生からアナログ再生に変更してください。

参照

音楽CDの再生方法を変更するには→「音楽CDの再生方法の変更」(p.256)

● 音楽CDをハードディスクにコピーする

Windows Media Playerの「CDオーディオ」の「音楽のコピー」で、音楽CDをハードディスクにコピーすることができます。

参照

音楽CDのハードディスクへのコピーについて→Windows Media Playerのヘルプ

このパソコンでは、ハードディスクに音楽CDをデジタルでコピーしたり、アナログでコピーすることができます。

参照

音楽CDのハードディスクへのコピー方法を変更するには→「音楽CDからのコピー方法の変更」(p.257)

音楽CDの再生方法の変更

次の手順で、音楽CDの再生方法をデジタル再生、またはアナログ再生のどちらかに設定することができます。

■ Windows Media Playerの場合

1 「スタート」ボタン→「プログラム」→「Windows Media Player」をクリックする
Windows Media Playerが起動します。

2 メニューバーの「ツール」→「オプション」をクリックする

3 「CDオーディオ」タブをクリックし、「再生の設定」欄の「デジタル再生」を設定したい再生方法にあわせて選択する

・デジタル再生にする場合
「デジタル再生」を☑にします。
・アナログ再生にする場合
「デジタル再生」を☐にします。

4 「OK」ボタンをクリックする

5 「コントロールパネル」を開き、「システム」アイコンをダブルクリックする
「システムのプロパティ」が表示されます。

6 「デバイスマネージャ」タブをクリックする

7 「CD-ROM」の左の＋をクリックし、表示されたデバイス名をダブルクリックする
CD-ROMデバイスのプロパティが表示されます。

8 「プロパティ」タブをクリックする

9 「デジタルCD再生」欄の「このCD-ROMデバイスでデジタル音楽CDを使用可能にする」を設定したい再生方法にあわせて選択する

・デジタル再生にする場合
☑にします。
・アナログ再生にする場合
☐にします。

10 「OK」ボタンをクリックする
設定した再生方法によって、音楽CDの音量の調整方法が変わります。

■ その他のプレイヤーの場合

1 「コントロールパネル」を開き、「システム」アイコンをダブルクリックする
「システムのプロパティ」が表示されます。

2 「デバイスマネージャ」タブをクリックする

3 「CD-ROM」の左の[+]をクリックし、表示されたデバイス名をダブルクリックする
CD-ROMデバイスのプロパティが表示されます。

4 「プロパティ」タブをクリックする

5 「デジタルCD再生」欄の「このCD-ROMデバイスでデジタル音楽CDを使用可能にする」を設定したい再生方法にあわせて選択する

・デジタル再生にする場合
[☑]にします。
・アナログ再生にする場合
[☐]にします。

6 「OK」ボタンをクリックする

Windows Media Player以外のプレイヤーを使用する場合の音楽CDの音量の調整は、設定した再生方法にかかわらず「CD Audio」の項目で行います。

参照
音楽CDの再生音量の調整→「音楽CDの音量を調整する」(p.259)

音楽CDからのコピー方法の変更

次の手順で、音楽CDからのコピー方法を設定することができます。

1 「スタート」ボタン→「プログラム」→「Windows Media Player」をクリックする
Windows Media Playerが起動します。

2 メニューバーの「ツール」→「オプション」をクリックする

3 「CDオーディオ」タブをクリックし、「コピーの設定」欄の「デジタルコピー処理」を設定したいコピー方法にあわせて選択する

・デジタルでコピーしたい場合
「デジタルコピー処理」を☑にします。
・アナログでコピーしたい場合
「デジタルコピー処理」を☐にします。

4 「OK」ボタンをクリックする

5 「コントロールパネル」を開き、「システム」アイコンをダブルクリックする
「システムのプロパティ」が表示されます。

6 「デバイスマネージャ」タブをクリックする

7 「CD-ROM」の左の⊞をクリックし、表示されたデバイス名をダブルクリックする
CD-ROMデバイスのプロパティが表示されます。

8 「プロパティ」タブをクリックする

9 「デジタルCD再生」欄の「このCD-ROMデバイスでデジタル音楽CDを使用可能にする」を設定したい再生方法にあわせて選択する

・デジタル再生にする場合
☑にします。
・アナログ再生にする場合
☐にします。

10 「OK」ボタンをクリックする

設定した再生方法によって、音楽CDの音量の調整方法が変わります。

参照
音楽CDの再生音量の調整→次の「音楽CDの音量を調整する」(→p.259)

音楽CDの音量を調整する

チェック

Windowsを再起動すると、再起動前にボリュームコントロールで調整した音量が調整前の音量に戻っている場合があります。この場合は、再度音量を調整してください。

■ 再生音量を調整する

「Volume Control」画面で音楽CDの再生音量の調整をすることができます。音楽CDの再生音量の調整方法は、音楽CDの再生方法によって異なります。
購入時の状態では、音楽CDはデジタル再生するように設定されています。

参照

音楽CDの再生方法を変更する→「音楽CDの再生方法の変更」(p.256)

1 「スタート」ボタン→「プログラム」→「アクセサリ」→「エンターテイメント」→「ボリュームコントロール」をクリックする
「Volume Control」画面が表示されます。

2 音楽CDの再生方法に応じて、「Volume Control」画面の以下の項目の音量つまみを上下にドラッグして音量を調整する

・デジタル再生に設定している場合
「Volume Control」または「Wave」

・アナログ再生に設定している場合
「Volume Control」または「CD Audio」

チェック

- Windows Media Player以外のプレーヤーを使用する場合は、再生方法にかかわらず、「Volume Control」または「CD Audio」で音量を調整してください。
- 「Volume Control」はスピーカから出力されるすべての音量を調整する項目です。音楽CDの再生音量のみを調整したい場合は「Wave」または「CD Audio」で調整してください。

■ 録音音量を調整する

次の手順で、音楽CDからの録音音量を調整できます。

1 「Volume Control」画面のメニューバーの「オプション」→「プロパティ」をクリックする

2 「音量の調整」欄で「録音」を選択し、「表示するコントロール」欄で「Stereo Out」にチェックを付けて「OK」ボタンをクリックする
「Recording Control」画面が表示されます。

3 「Stereo Out」の「選択」にチェックを付ける

4 「Stereo Out」の音量調整つまみを上下にドラックして録音音量を調整する

チェック

購入時、音楽CDからの録音はデジタル録音に設定されています。「Recording Control」の「CD Audio」は、音楽CDからアナログで録音する場合の音量を調整する項目です。デジタル録音に設定しているときに「CD Audio」を設定しても録音することはできません。
「CD Audio」での録音は、音楽CDからの録音をアナログ録音に設定にすることで可能になります。次の手順で、音楽CDからの録音をアナログ録音に設定できます。

● 音楽CDからの録音方法を変更する

1 「コントロールパネル」を開き、「システム」アイコンをダブルクリックする
「システムのプロパティ」が表示されます。

2 「デバイスマネージャ」タブをクリックする

3 「CD-ROM」の左の＋をクリックし、表示されたデバイス名をダブルクリックする
CD-ROMデバイスのプロパティが表示されます。

4 「プロパティ」タブをクリックする

5 「デジタルCD再生」欄の「このCD-ROMデバイスでデジタル音楽CDを使用可能にする」が☑になっている場合はクリックして☐にする

6 「OK」ボタンをクリックする

7 「OK」ボタンをクリックする

8 「音楽CDの再生方法の変更」(→p.256)の手順にしたがって、音楽CDの再生方法をアナログ再生に変更する

索　引

索引

英字

ADSL 126
ATコマンド 106
BIOSセットアップメニュー 232
Bluetooth™機能 125
CATVインターネット 123
CD/DVDアクセスランプ 8, 52
CD/DVDプレーヤボタン 2, 130
CD-R/RW with DVD-ROMドライブ .. 2, 52
CDの再生 58, 132, 133
CDプレイモード 130, 132
DCコネクタ 3
DMAチャネル 253
DolbyHeadphone機能 138
DVDit! 150
DVDの再生 58, 137
DVD形式のビデオデータ 150
FAT32ファイルシステム 43
FDISK 40, 44
【Fn】(エフエヌキー) 19
IEEE1394コネクタ 3, 185, 219
Intel® SpeedStep™ テクノロジ 79, 87
Jet-Audio Player 133, 137
LAN 120, 251
LAN用モジュラーコネクタ 3
LCDインジケータ 2, 131
MACアドレス 123
MP3 133
MPEG 151
MS-IME 22
NXパッド 2, 23
NXパッドの設定 26
PCカード 208
PCカードイジェクトボタン 211
PCカードスロット 3, 185, 208
PIAFS 113, 114, 115
「SDメモリーカード」 207
SmartGallery 162
SmartGallery/BusBrain 147
S映像出力端子 3, 185, 202
TVチューナパック 230
【TVボタン】 2, 14
USB 222
USBコネクタ .. 2, 3, 109,184, 185, 222
VideoStudio 139
VISUALモード 65
VISUALモードボタン 2, 65
VISUALモードランプ 2, 9
Windows 2000 Professional 242

あ行

イジェクトボタン
(CD-R/RW with DVD-ROMドライブ) .. 55
イルミネーション・エンブレム™ 3, 9
イルミネーション・ボタン 5
インナーシートホルダー 32
インターネット設定切替ツール 107
【インターネット】ボタン 2, 13
映像入力端子 185
映像の再生 137
映像の取り込み、ダビング 139
映像の編集 141
液晶ディスプレイ 2, 65
オーディオ電源スイッチ 2, 131
お手入れ 240
オリジナルCDの作成 136
オリジナルMDの作成 134
音楽の再生 130
音楽の編集 134, 136
音声出力端子 3, 185
音声入力端子 185
音量調節つまみ(外付けスピーカ) 96
音量調節つまみ(本体) 2, 97

か行

解像度 66
外部CRT用コネクタ 3, 185, 201
外部ディスプレイ 200
外部マイクロホン端子 2, 184
画面の調整 65
【画面分割】ボタン 2, 14
画面分割機能 68
キーボード 2, 17
キーボードの設定 20
キーボードロック 94
起動セクタへのウィルス感染防止 95
輝度 65
キャップスロックキーランプ 8
休止状態 79, 85
休止状態から復帰 86
共有プリンタ 195
クリック 23
クリックボタン 23
携快電話4N 116
携帯電話／PHS接続機能 108
携帯電話連携機能 116
コントロールパネル i

さ行

サウンド機能 96
サスペンド 79, 82
サポートセンタ i
周辺機器 184, 185, 186
省電力機能 79
ジョグホイール ... 2, 30, 133, 138, 146, 181
シリアルインターフェイス 227
スーパバイザパスワード 91
スクロールスライドスイッチ 23, 24
スクロールロックキーランプ 9
スタンバイ状態 79, 82
スタンバイ状態から復帰 82
スピーカ 2
スリープ状態 79
セカンドハードディスクドライブ ... 4, 37
セキュリティ機能 90
【全画面】ボタン 2, 14, 69
増設RAMボード 213
外付けスピーカ用コネクタ 3, 185

た行

ダイヤル設定 110
タップ 23
ダブルタップ 23
デジタルビデオ 137
デバイスドライバ 190
デュアルディスプレイ機能 204
テレビ 202
電源スイッチ 2
電源ランプ 7
電話回線用モジュラーコネクタ 3
添付ソフトの使い方 i
同軸デジタルオーディオ(S/PDIF)
出力端子 3, 185, 228
同軸デジタルオーディオ(S/PDIF)
入出力機能 100
同軸デジタルオーディオ(S/PDIF)
入力端子 3, 185, 228
盗難防止用ロック 3, 95
ドライバ 190
ドラッグ 24

な行

日本語入力 22
ニューメリックロックキーランプ 9

は行

バーチャルスクリーン 68
ハードディスク 36
ハードディスクアクセスランプ 8
ハイバネーション 79, 85

パスワード 90
バックアップ 36
バッテリ 70
バッテリアンロック 4
バッテリ残量の確認 72
バッテリ充電ランプ 8
バッテリの充電 70
バッテリパック 4
バッテリパックの交換 76
バッテリリフレッシュ 74
パッド 23
パラレルインターフェイス 227
ビープ音の設定 100
光デジタルオーディオ(S/PDIF)
出力機能 101
光ナビゲーション機能付きボタン 5
非常時ディスク取り出し穴 52, 57
表示色 66
表示ランプ 2, 3, 7
フォーマット(ハードディスク) 42
フォーマット(フロッピーディスク) 51
復帰 79
プラグ&プレイ機能 190
プリンタ 191
プロジェクタ 202
フロッピーディスクアクセスランプ 8
フロッピーディスクイジェクトボタン ... 46
フロッピーディスクドライブ 46
ヘッドホン／
光デジタルオーディオ(S/PDIF)
出力端子 2, 101, 184, 229
【ヘルプ】ボタン 2, 15
ホットキー機能 19
ボリュームコントロール 97

ま行

マイクの感度 99
マウス 196
「メモリースティック」 207
マルチベイ 185, 230
マルチベイアンロック 4
メディア用ポケット 2, 32, 184
メディア用ポケットロックボタン 2
メール着信ランプ 8
【メール】ボタン 2, 13
【メニュー】ボタン 2, 14
メモリ 213
メモリスロット 4, 186
メモリ容量の確認 217
モデム 104, 249

や行

ユーザパスワード 91
ユニバーサル管理アドレス 123
容量の確認 40

ら行

らくちんプリント 33
リソースの競合 188
領域の確保 41
レジューム 79
ロックレバー 2

わ行

ワイヤレスLAN 124
ワイヤレスランプ 2, 9
割り込みレベル 253
ワンタッチスタートボタン 12
ワンタッチスタートボタンの設定 15

電子マニュアル 「サポートセンタ」を活用しよう

「サポートセンタ」は、添付アプリケーションの操作方法を知りたいときや、パソコンを使っていて困ったときなどに、どうしたらよいかを画面上で見ることができる電子マニュアルです。

1 デスクトップ上の「サポートセンタ」をクリックする

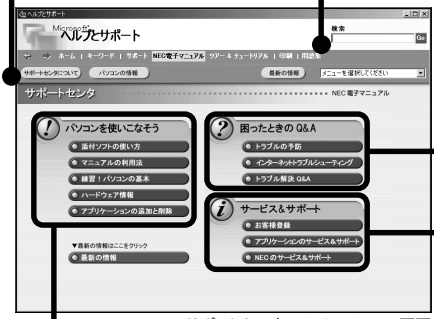
ここをクリックする

▼サポートセンタのメインメニュー画面が表示されます。

2 見たい項目をクリックする

サポートセンタについて
サポートセンタの内容と使いかたについて説明します。

用語集
パソコン関連の用語を説明しています。



サポートセンタのメインメニュー画面

困ったときのQ&A

- **トラブルの予防**
  トラブルを予防するソフトの使いかたを説明します。
- **インターネットトラブルシューティング**
  インターネットに接続する際に起こるトラブルの解決法を説明します。
- **トラブル解決Q&A**
  トラブルの解決法をQ&A方式で説明します。

サービス&サポート

- **お客様登録**
- **アプリケーションのサービス&サポート**
- **NECのサービス&サポート**

パソコンを使いこなそう

- **添付ソフトの使い方**
  このパソコンに添付されているソフトの使いかたの説明です。
- **マニュアルの利用法**
  このパソコンに添付されているマニュアルを紹介します。

- **練習！パソコンの基本**
  このパソコンの使いかたを練習できるソフトを起動します。
- **ハードウェア情報**
  ハードウェアに関する情報を載せています。
- **アプリケーションの追加と削除**
  各ソフトの追加と削除の方法を説明します。

LaVie

もっと知りたいパソコン

初版　2001年7月
NEC
P
853-810028-167-A

PC98-NX SERIES
LaVie
LT900・LT700・LT500